

令和5年度

シラバス集

第1学年



道灌山学園保育福祉専門学校

幼稚園教員・保育士養成科

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里4-7-15

電話 03-3828-8478

SYLLA BUS シラバス（授業計画）について

○シラバスとは

今年度開講する授業科目の名称、単位数、開講時期、学年、授業担当者名、授業の到達目標・テーマ、授業の概要、授業計画、使用するテキスト・参考資料、授業の形態、成績評価の方法等について、担当教員が記した授業の計画書です。

よく読んで、円滑に授業が受講できるよう心がけるようにしましょう。

※学生のしおり<便覧>も良く読み、履修方法、課程修了認定、単位取得、出席要件などについての理解を深めておきましょう。

※シラバス集についての質問等は、道灌山学園保育福祉専門学校教務部へお願いします。

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担当教員名
幼児と健康	必修科目	講義	2単位	単独	吉村 真由美
施行規則に定める科目区分	(教員養成課程)領域及び保育内容の指導法に関する科目 (保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが必要な事項等(教員養成課程)	領域「健康」に関する専門的事項				
授業のテーマ及び到達目標					
<p>授業のテーマ 幼稚園や保育所等で指導展開される「健康」領域全般について学ぶ。子どもの生活は、急速な社会状況の変化や価値観の多様化などにより大きく変化している。子ども自らが主体的な健康習慣・安全習慣を身につけさせること、アクティブラーニングの手法を活用した保育の実践を主眼に授業を展開する。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の心と体、運動発達などの健康課題を説明できる。 ・健康の定義と乳幼児期の健康の意義を説明できる。 ・乳幼児の体の発達の特徴を説明できる。 ・乳幼児の基本的な生活習慣の形成とその意義を説明できる。 ・幼児の安全教育・健康管理に関する基本的な考え方を理解している。 ・幼児期の怪我の特徴や病気の予防について説明できる。 ・危険に関しリスクとハザードの違いと安全管理を理解している。 ・子どもの健康と健康保育の役割について理解する。 ・保育における健康指導の考え方とその目的、内容、方法について習得する。 ・保育者の健康管理のあり方と方法について理解する。 <p>準備学習のアドバイス 子どもの健康管理と健康教育という大きな視点と、子どもの日々の生活の実態をつぶさに観察する視点の両面を持つことを目指し、学習に取り組んでほしい。具体的には、オリジナル「4つの学びノート」を使用し、予習ならびに授業での学習内容の整理を行う。「4学ノート」は毎時間授業終了時の提出を義務付ける。コツコツと学びを深めて自分のものとする姿勢を確立してほしい。</p>					
授業の概要					
乳幼児期における課題の一つに、親や保護者によって庇護された生活から、自ら考え行動できる生活へと移行していくことがあげられる。保育者には、子どもが他律的な健康管理から自律的な健康管理へつながる道すじを提示し、導いていくことが求められている。そのため健康領域の内容の理解と指導や援助の方法を学ぶ。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	導入 幼児期の健康と生活リズム(休養・栄養・運動)				
2	乳幼児のからだの発達				
3	乳幼児の運動能力の発達と動きの獲得				
4	安全の指導と配慮(傷害予防の実際)				
5	領域「健康」のねらいと内容				
6	からだを動かす意欲づくり				
7	0-2歳児の生活と動きの獲得				
8	0-2歳児の生活習慣の獲得				
9	3-5歳児の身辺自立と生活習慣の獲得				
10	0-2歳児のあそび				
11	3-5歳児の運動あそびの実際				
12	3-5歳児の運動あそび指導のポイント				
13	食育と子育て支援				
14	季節を感じる運動あそびと体験的行事・運動会				
15	総括 振り返り				
テキスト	コンパス保育内容健康(前橋明編著、建帛社)				
参考書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)				
学生に対する 評価	筆記試験点(50%)と課題点(50%)とによる。筆記試験は、子どもの健康問題、健康指導・健康管理の内容と方法等の認識について問う。課題点は、課題とレポートの内容、授業理解度、学習意欲等をもとに算出する。				

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担当教員名
幼児と人間関係	必修科目	講義	2単位	単独	小藺江 幸子
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)領域及び保育内容の指導法に関する科目				
	(保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	領域「人間関係」に関する専門的事項				
授業のテーマ及び到達目標					
<p>授業のテーマ 乳幼児が人と関わる力を付けていく道筋を理解し、保育者の役割について理解を深める</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児を取り巻く人間関係の現代的特徴とその社会的背景を理解している。 ・人と関わる力の育ちがその後続く一人一人の人生を支える力となることを理解している ・乳児期に育つ人と関わる力の発達について、身近な大人との関係から説明できる。 ・幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について、教師との関係、幼児との関係、集団の中で育ちを観点として説明できる。 ・自立心の育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。 ・協同性の育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。 ・道徳性・規範意識の芽生えについて、発達の姿と合わせて説明できる。 ・家族や地域との関わりと育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。 					
授業の概要					
エリクソンの精神発達課題やボウルビのアタッチメント理論について検討しながら、乳幼児が人との関わりをどのように変化させながら育っていくのか、発達の道筋を理解し、望ましい保育行為をイメージ出来るように事例を通して学ぶ。					
回数	授業内容等				
1	オリエンテーション 乳幼児期の記憶について思いだし取り上げ、記述する。				
2	「特別な人的環境としての保育者」人的環境でありながら、特別な意味を持つ保育者の役割を理解する。				
3	昭和期の望ましい活動としての領域、平成期の生きる力の基礎を育む領域、令和期の保育内容				
4	戦後の保育内容のとらえ方の変化について学ぶ。				
5	現在の幼稚園教育要領、保育指針の「人間関係」領域について学ぶ。				
6	幼児の精神発達における道徳性の意味、社会性の順調な育ちの結果としての道徳性の成立について学ぶ。				
7	保育者がチームで保育する事の意味について学ぶ。				
8	家庭での子育て支援が必要な現代の人間関係の特徴について学ぶ。				
9	乳児期の情動共有、情動調律をすることの意味と重要性について学ぶ				
10	乳幼児期の意図的なコミュニケーションについて学ぶ。				
11	生涯発達におけるアタッチメントの持つ意味について理解する。				
12	乳児が他者とイメージを共有することの意味について学ぶ。				
13	幼児にとってのイメージの共有と遊びの持つ意味について考える。				
14	人間関係に問題を持つ子についての理解の仕方を学ぶ。確認テスト				
15	総合まとめと確認の学習をする。 確認テストの返却				
テキスト	領域人間関係(田宮縁著、萌文書林)				
参考書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)				
学生に対する 評価	授業内確認テスト70% 授業への積極的参加30%				

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担当教員名
幼児と環境	必修科目	講義	2単位	単独	池田 幸代
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)領域及び保育内容の指導法に関する科目				
	(保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	領域「環境」に関する専門的事項				
授業のテーマ及び到達目標					
<p>授業のテーマ 領域「環境」についての理解を深め、保育者としての資質向上に努める。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児を取り巻く環境の諸側面(物的環境, 人的環境, 社会的環境, 安全等)と, 幼児の発達におけるそれらの重要性について説明できる。 ・幼児と環境との関わり方について, 専門的概念(能動性, 好奇心, 探究心, 有能感等)を用いて説明できる。 ・知識基盤社会及び持続可能な開発のための教育(ESD)などの現代的課題と幼児期において身近な環境と関わることの意義について説明できる。 ・乳幼児期の認知的発達の特徴と道筋を説明できる。 ・乳幼児の物理的, 数量・図形との関わり的事象に対する興味・関心, 理解の発達を説明できる。 ・乳幼児の生物・自然との関わり的事象に対する興味・関心, 理解の発達を説明できる。 ・乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と, それらへの興味・関心, それらとの関わり方を説明できる。 ・乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と, それらへの興味・関心, それらとの関わり方について説明できる。 ・幼児の発達における児童文化財の意義について理解する。 					
授業の概要					
「遊びの中で」「環境を通して」学ぶ、保育の基本を踏まえて、具体的な実践例から、保育の環境の一部としての保育者の役割の重要性と、保育の環境構成を行う際に、子どもの今の姿と、これからの姿を捉える力が保育者には必要であることを学ぶ。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	ガイダンス・自己紹介「名前の由来」(すべての子どもに名前があることについて考える)				
2	子どもの初めての環境「胎内」 胎児・新生児のコンピテンスについてDVD鑑賞				
3	領域「環境」と「環境を通した保育」1.子どもが主体の活動				
4	領域「環境」と「環境を通した保育」2.環境にねらいをこめる				
5	子どもにとっての身近な環境とは				
6	環境への興味・関心の芽生え				
7	環境に関わる力 1.生活				
8	環境に関わる力 2.遊び				
9	環境に関わる力 3.人間関係				
10	自然や生き物との出会い				
11	文字や数量への関心				
12	地域や文化とのふれあい				
13	現代の子どもを取り巻く情報環境－実践例から考える－				
14	子どもに適した保育環境 グループ討議				
15	子どもに適した保育環境 発表・総括 レポート試験				
テキスト	「改訂 環境構成の理論と実践:保育の専門性に基づいて」高山静子 郁洋舎 2021年				
参考書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
学生に対する 評価	レポート:70% 授業中の提出物:30%				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
幼児と言葉	必修科目	講義	2単位	単独	宮崎 信子
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)領域及び保育内容の指導法に関する科目				
	(保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	領域「言葉」に関する専門的事項				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 領域「言葉」の意味を十分理解し、保育における「言葉」の重要性と保育者の役割を学ぶ。					
到達目標 ・人間にとっての話し言葉や書き言葉などの言葉の意義と機能について、説明できる。 ・乳幼児の言葉の発達過程について、言葉の機能への気付きも含めて説明できる。 ・言葉の楽しさや美しさについて、具体的な例を挙げて説明できる。 ・言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身に付ける。 ・言葉の楽しさや美しさに気付き、言葉を豊かにする実践を、幼児の発達の姿と合わせて説明できる。 ・児童文化財(絵本・物語・紙芝居等)について、基礎的な知識を身に付ける。 ・幼児の発達における児童文化財の意義について理解する。					
授 業 の 概 要					
人間の証といえる「言葉」の意義と機能について理解した上で、幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を身に付ける。					
回数	授 業 内 容 等				
1	人間にとっての「言葉」とは				
2	言葉の役割				
3	前言語期(誕生～1歳児)の「言葉」の発達				
4	発語期(1歳～3歳未満)の「言葉」の発達				
5	幼児期(3歳～6歳)の「言葉」の発達				
6	生活と遊びの中での子どものことば				
7	子どもにとっての「児童文化財」とは ー児童文化財の意義・歴史ー				
8	児童文化財「絵本」について				
9	読み聞かせをする「絵本」についての理解を深める				
10	児童文化財「紙芝居」について				
11	「言葉」の獲得を支える環境				
12	「言葉」をめぐる問題と援助				
13	保育現場に必要な「言葉」				
14	保育者としての専門性を高める				
15	子どもの「言葉」を豊かに育む保育者の役割				
テキスト	保育内容「言葉」乳幼児期の言葉の発達と援助(塩美佐江・古川寿子編著 / ミネルヴァ書房)				
参考書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
学生に対する 評価	試験(60%) 授業への参加度(課題・提出物)(40%)				

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担当教員名
幼児と表現Ⅰ(音楽)	必修科目	講義	2単位	単独	菅野 まゆみ
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)領域及び保育内容の指導法に関する科目				
	(保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	領域「表現」に関する専門的事項				
授業のテーマ及び到達目標					
<p>授業のテーマ 『領域「表現」を理解し、幼児の豊かな表現活動を考え、学ぶ』</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できる。 ・表現を生成する過程について理解している。 ・幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。 ・様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。 ・身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。 ・表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。 ・協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。 ・様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。 					
授業の概要					
新要領における領域「表現」のねらいと内容を理解したうえで、音楽の基礎知識を理解し高め、幼児が生活の中で表現する楽しみや豊かな創造性を育むことのできる音楽活動を学ぶ。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	表現とは何かを考え、領域「表現」のねらい及び内容について理解する				
2	有鍵打楽器の理解を深める				
3	音楽の基礎知識からリズムと拍を学ぶ				
4	楽譜を理解し、演奏する力を高める				
5	表現を高めるための奏法を学ぶ				
6	和音と移調を理解し、子どもの音域にあった歌唱指導				
7	日本の幼児音楽教育の歴史を学ぶ				
8	世界の音楽教育とは				
9	子どもの身体の発達を理解した音楽表現活動を考える				
10	音楽活動を用いた教材選びとその工夫と発展を考える				
11	集団遊び、伝承遊び、簡易楽器などの音楽活動を学ぶ				
12	保育に活かす音楽活動のねらいを考える				
13	楽器の紹介と使い方の注意と演奏法				
14	実践における即興的な伴奏法と効果音。学習のまとめ テスト				
15	音楽表現を活かした保育				
テキスト	ファイル(配布プリント)、こどものうた200、続こどものうた200(小林美実編著、チャイルド社)、標準「バイエル併用曲集付」				
参考書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
学生に対する 評価	筆記テスト70(%)、授業内での活動30(%)				

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担当教員名
幼児と表現Ⅱ (絵画・造形)	必修科目	講義	2単位	単独	松井 素子
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)領域及び保育内容の指導法に関する科目 (保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	領域「表現」に関する専門的事項				
授業のテーマ及び到達目標					
<p>授業のテーマ 幼児教育における造形表現活動の意義・内容・方法を理解する。また、幼児の参考作品を基に、造形表現における保育者の役割や支援の在り方について検討し、実践での具体的な視座を獲得する。</p> <p>到達目標 幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できる。 表現を生成する過程について理解して、幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。 様々な表現を見ることを通して楽しみ、感性やイメージを豊かにすることができる。 身の周りのものを身体の諸感覚の五感で捉えた幼児の作品を、素材の特性を生かした作品の価値として見出すことができる。 幼児が表現することの楽しさを生み出す要因について、分析・理解することができる。 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことが理解できる。 様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。 これからの造形表現におけるICTの活用に意欲的に取り組むことができる。</p>					
授業の概要					
<p>幼児教育における「表現」や「造形」の捉え方を概観しながら、幼児期における造形表現活動の意義やねらいを考察する。また、子どもの発達段階にそった造形表現の各過程を取り上げ、造形的な形として表された子どもの「思い」や、子どもの育ちを支える生活体験の環境の在り方について、保育者の役割について検討し、具体的な造形表現活動の実践方法について考察を深める。</p>					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	幼児教育における造形表現の捉え方と活動の意義：子どもの遊びと造形表現活動における保育者の役割				
2	子どもの絵の発達段階【①スクリブル ②形の発見と命名 ③図式的表現】				
3	感覚をひらく造形活動【①色遊び・構成遊び・見たて遊び】：線画材料に関する安全指導				
4	描画材料による線画表現の違いと版による技法：凹版・凸版・孔版【スタンピング技法・ステンシル技法等】				
5	様々な絵に表す技法と多様な表現【にじみ技法・スクラッチ技法・デカルコマニー技法・ちぎり絵による色彩等】				
6	映画「絵を描く子供たち」等の映像作品からわかる子どもの生活・文化と造形表現の意義				
7	幼児の対象認知と描画：略画の変遷と意義、保育への活かし方				
8	折り紙の造形表現活動の基本と応用①【朝顔・紫陽花・ヨット等、季節を表現した折り紙】				
9	折り紙の造形表現活動の基本と応用②壁面装飾：持ち寄り型による共同制作				
10	感覚をひらく造形活動②立体：ハサミやのり、粘土等を使った制作における安全指導				
11	自然物を使った造形の素材と制作例				
12	人工物を使った造形の素材と制作例				
13	行事を豊かに：造形表現活動を活かした共同的・創造的な行事の計画と実践				
14	総合的な造形表現活動：ICTの活用と協働学習を含む造形表現活動の計画と実践				
15	幼児の造形表現活動における現代的課題と小学校図画工作科との連携【受講ファイル提出】				
テキスト	幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
参考書 参考資料等	必要に応じてプリント等を配布する。				
学生に対する 評価	学習への意欲や態度(40%)、各授業のレポート課題と学習記録(60%)				

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担当教員名
教育原理	必修科目	講義	2単位	単独	澤本 和子
施行規則に定める科目区分	(教員養成課程)教育の基礎的理解に関する科目 (保育士養成課程)保育の本質・目的に関する科目				
各科目に含めることが必要な事項等(教員養成課程)	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想				
授業のテーマ及び到達目標					
<p>授業のテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもから学び、子どもと共に育つ保育者。 ・社会や文化への前向きな関心を持つ保育者。 <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標を理解している。 ・子供・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係を理解している。 ・家庭や子供に関わる教育の思想を理解している。 ・学校や学習に関わる教育の思想を理解している。 ・代表的な教育家の思想を理解している。 ・教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関わりについて理解する。 ・教育の思想と歴史の変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する。 ・教育の制度について理解する。 ・教育実践の様々な取り組みについて理解する。 ・生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。 					
授業の概要					
教育の原理の理解のために、まず、「学ぶ」と「教える」について認識を深めた上で、子ども観の変遷や、教育思想・教育の歴史について、保育を意識しつつ理解を深める。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	教員と学生の自己紹介・授業概要説明・課題・教育原理とは何か				
2	教育の原理①:学ぶことと教えること:教育とは何かを考える				
3	教育の原理②:学びとコミュニケーション:教育の目的を考える				
4	教育環境の理念と整備①:教育環境設定の基本的な考え方				
5	教育環境の理念と整備② 教育環境設定の内容と方法				
6	子どもの発達と教育①:子ども観・教育観の歴史の変遷				
7	子どもの発達と教育②:発達観・教育観の変遷と現代的課題				
8	子どもの学びと保育・教育①:幼児教育の基本的な考え方				
9	子どもの学びと保育・教育②:保育者・教師の仕事を考える				
10	子どもの学びと保育・教育③:保育・教育をめぐる今日的な課題				
11	子どもの育ちと保育・教育:多様な教育理論とその特徴				
12	生涯発達と子どもの育ち・保育者の育ち①:発達をみとることの意味				
13	生涯発達と子どもの育ち・保育者の育ち②:発達をみとる方法				
14	生涯発達と子どもの育ち・保育者の育ち③:保育者の成長				
15	学習のまとめ(テスト)と評価				
テキスト	現在作成中のため、電子書籍で提示します。強制はしませんが、ほとんどの授業で使います。				
参考書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)、学びをひらくレトリック(澤本和子著、金子書房)、授業で多くの文献を紹介する予定。プラトンから始まる教育に関わる哲学者・思想家の本をなるべく多く紹介したい。たとえば、コメニウス、ペスタロッチ、フレーベル、モンテッソーリ、デューイ、など。				
学生に対する 評価	「子守と保育はどこが違いますか?」「親の役割とは何ですか?」など、毎回予告した課題について話し合い、ミニレポートを提出します。こうした日常学習の評価が50%。テストの得点が50%。保育者にふさわしい受講態度も評価の対象として、前者に含めます。				

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	単位数	担当形態	担当教員名
幼児教育史	必修科目	2	単独	林 茂和
施行規則に定める科目区分	(教員養成課程) 教育の基礎的理解に関する科目 (保育士養成課程) 保育の本質・目的の関する科目			
各科目に含めることが必要な事項等(教員養成課程)	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想			
授業のテーマ及び到達目標				
<p>授業のテーマ 幼児教育の必要性と、主な幼児教育思想の概要と流れを知り、人間形成における乳幼児期の教育の重要性を認識することで、保育者の資質・能力を高める。</p> <p>到達目標 ・家族と社会による教育・保育の歴史を理解している。 ・近代教育・保育制度の成立と展開を理解している。 ・現代社会における教育課題・保育課題を歴史的な視点から理解している。 ・家庭や子供に関わる教育・保育の思想を理解している。 ・学校(園)や学習(活動・遊び)に関わる教育・保育の思想を理解している。 ・代表的な思想家の考え方を理解している。</p>				
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の発達と育児の大切さ及び子供観の変化を知る ・社会の変化及び欧米と日本の代表的な教育思想・保育思想の変遷を知る ・現代幼児教育の動向とねらい及び保育者に求められる資質・能力を知る 				
授 業 計 画				
回数	授 業 内 容 等			
1	はじめに 育児と子供観			
2	コメニウスの教育思想			
3	ルソーの教育思想			
4	ペスタロッチの教育思想			
5	フレーベルの教育思想			
6	モンテッソーリの教育思想			
7	現代の欧米幼児教育の動向			
8	日本の幼児教育:江戸時代の幼児教育思想			
9	日本の幼児教育:明治・大正期の幼児教育と倉橋惣三			
10	日本の幼児教育:昭和前期の幼保一元化と保育所			
11	日本の幼児教育:戦後の幼児教育の政策と運動			
12	社会の変化と幼稚園教育要領・保育所保育指針の改訂			
13	幼稚園教育要領の改訂とねらい 指導領域と指導の形態			
14	幼稚園施設整備指針 環境の整備 テスト			
15	まとめ 乳幼児期からの子供の教育支援プロジェクト			
テキスト	『幼児教育史(五訂版)』林 茂和 編著 富士ビジネス・サービス株式会社 平成31年度出版 当年度印刷実費等で道灌山学園保育福祉専門学校が頒布			
参考書 参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・『子ども子育て白書』内閣府 ・『近代幼児教育史』岩崎次男 編 明治図書 ・『西洋近代幼児教育思想史』乙訓稔 著 東信堂 ・『日本の幼児教育思想と倉橋惣三』諏訪義英 著 新読書社 ・『幼稚園教育要領<平成29年告示>』文部科学省 フレーベル館 2017年 ・『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2018年 ・『保育所保育指針』厚生労働省 フレーベル館 ・『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館 ・『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 ・『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 ・『幼稚園施設整備指針』文部科学省 ・『発達診断学』ゲゼル 著 日本小児医事出版社 ・『幼児のコトバ』平井昌夫 著 日本文化科学社 ・『中央教育審議会答申』・『社会保障審議会児童部会保育専門委員会答申』 ・『乳幼児期からの子供の教育支援プロジェクト』東京都教育委員会 			
学生に対する 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・講義時の発問に対する回答内容による意欲・知識・理解の程度やノートイングでの講義内容の整理した記述の程度(10%) ・レポートの記述内容と論理性及び文章力(45%) ・テストの成績(45%) 			

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
教職概論(幼) 保育者論(保)	必修科目	講義	2単位	単独	森藤 才
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)教育の基礎的理解に関する科目 (保育士養成課程)保育の本質・目的に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校への対応)				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
<p>授業のテーマ 教職・保育職を目指す者として、必要な法令、制度、社会規範・倫理等の概要を知り、教職・保育職の役割を理解し、その使命感と自覚を高め、専門性のある信頼される保育者となる重要性を認識させる。また、チーム学校・保育に関わる連携・協働や資質向上とキャリア形成について理解させる。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公教育や保育の目的とその担い手である教員の存在意義を理解している。 ・進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職の職業的特徴を理解している。 ・教職観の変遷を踏まえ、今日の教員・保育士に求められる役割を理解している。 ・今日の教員に求められる基礎的な資質能力を理解している。 ・幼児、児童及び生徒への指導及び指導以外の校(園)務を含めた教員の職務の全体像を理解している。 ・教員研修の意義及び制度上の位置付け並びに専門職として適切に職務を遂行するため生涯にわたって学び続けることの必要性を理解している。 ・教員に課せられる服務上及び身分上の義務及び身分保障を理解している。 ・校(園)内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。 ・保育者の役割と倫理について理解する。 ・保育士の制度的な位置づけを理解する。 ・保育士の専門性について考察し、理解する。 ・保育者の連携・協働について理解する。 ・保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。 					
授 業 の 概 要					
<ul style="list-style-type: none"> ・教職・保育職の意義及び教員の役割を知り、その特質を理解する。 ・教員・保育士の職務内容、服務、研修等について知り、職業人となる心構えを培う。 ・教育・保育課題等を理解し、求められる基本的な資質や能力を自ら高める姿勢を育てる 					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	はじめに 教職観・保育者観の変遷と身分保障等				
2	教職・保育職の意義と専門職として身に付けること				
3	教員・保育士の役割と教育職・保育職としての社会的立場と法令				
4	求められる教員・保育士の資質能力と望まれる教師像・保育士像				
5	服務規律と分限・懲戒				
6	勤務と職務内容及びチーム学校・保育に関わる連携・協働				
7	今日的教育課題・保育課題				
8	教育・保育目標と教育課程・保育の計画				
9	幼稚園教育要領・保育所保育指針と指導計画・評価				
10	教員に求められる4つの力 -学習指導(保育)カー-				
11	教員に求められる4つの力 -生活指導力・進路指導(小学校との繋がり)カー-				
12	教員に求められる4つの力 -外部との連携・折衝カー-				
13	教員に求められる4つの力 -学校経営力・組織経営力カー-				
14	専門性の向上と職務としての研修 -資質向上とキャリア形成- テスト				
15	まとめ 幼稚園・保育園の一日 進路・就職と採用試験について等				
テキスト	『教職概論・保育者論(七訂版)』 森藤 才著 道灌山学園保育福祉専門学校印刷・頒布				
参 考 書 参 考 資 料 等	<ul style="list-style-type: none"> ・『幼稚園教育要領<平成29年告示>』 文部科学省 フレーベル館 2017年 ・『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館 2018年 ・『保育所保育指針』 厚生労働省 フレーベル館 ・『保育所保育指針解説』 厚生労働省 フレーベル館 ・『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領』 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 ・『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 				
学生に対する 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・講義時の発問に対する回答内容による意欲・知識・理解の程度(10%) ・レポートの記述内容と論理性及び文章力(40%) ・テストの成績(50%) 				

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担当教員名
教育社会学(幼) 教育と福祉(保)	必修科目	講義	2単位	単独	宮島 直文
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)教育の基礎的理解に関する科目				
	(保育士養成課程)保育の本質・目的に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)				
授業のテーマ及び到達目標					
<p>授業のテーマ 我が国及び諸外国の教育事象を、教育社会学の知見で読み解き理解することを通して、近代以降の我が国教育システムの課題と問題点、教育事象の社会的構成構造を明らかにする。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校(園)を巡る近年の様々な状況の変化を理解している。 ・子供の生活の変化を踏まえた指導上の課題を理解している。 ・近年の教育政策の動向を理解している。 ・諸外国の教育事情や教育改革の動向を理解している。 ・地域と連携・協働による学校教育活動の意義及び方法を理解している。 ・地域との連携を基とする開かれた学校(園)づくりが進められてきた経緯を理解している。 ・学校(園)の管理下で発生する事件、事故及び災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校(園)安全の必要性について理解している。 ・生活安全、交通安全、災害安全の各領域や我が国の学校(園)をとりまく新たな安全上の課題について、安全管理および安全教育の両面から具体的な取組を理解している。 					
授業の概要					
「社会学的想像力」(C.W.ミルズ)を用いて、教育の世界を読み解きながら、教員として必要な相対的、総合的思考を涵養する。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	講義ガイダンス「教育社会学」概説 講義根拠科学としての「教育社会学」概説				
2	教育とgender ヒトから人へ 文化と社会化 「嫡出の推定」なぜ「女子大」あるのか？				
3	少子化社会の家族と教育 家族の形成 近親婚の禁忌 「民法」に見る家族				
4	地域社会と教育事象 我が国地域社会の変化と地域の教育力 地域社会の組織としての「学校」				
5	「教育病理」の諸相 「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」				
6	「児童虐待」の教育社会学 ①児童虐待の定義、社会的背景、歴史、現状と課題について学ぶ。				
7	「児童虐待」の教育社会学 ②児童虐待の定義、社会的背景、歴史、現状と課題について学ぶ。				
8	「児童虐待」の教育社会学 ③まとめ 「児童虐待」は本当に増加しているのか？				
9	「いじめ」の教育社会学① 「いじめ」の現場 「いじめ」の構造				
10	「いじめ」の教育社会学② 「いじめ」の社会的背景 「いじめ」への取り組み				
11	「入試・選抜」の教育社会学① 「学歴社会」は果たして本当に存在するのか？ 「学歴」とは何か				
12	「入試・選抜」の教育社会学② 「努力の階層性・不平等問題」学歴とメリトクラシー				
13	国際社会の中の我が国教員 「国際教員指導環境調査」(TALIS)				
14	我が国の教育政策 「教育改革」はなぜ失敗するのか？ 国家、政策と教育事象				
15	授業まとめー「教育社会学」を学んでー 定期試験				
テキスト	テキストは使用しない。「PowerPoint集成」 板書等中心。				
参考書 参考資料等	随時印刷物等の資料を配布する。 オフィスアワー(13:00～17:00) 幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)				
学生に対する 評価	定期試験(70%)、出欠席状況(30%)にて評価する。				

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担当教員名
教育心理学	必修科目	講義	2単位	単独	金子 楓
施行規則に定める各科目区分又は事項等	(教員養成課程)教育の基礎的理解に関する科目 (保育士養成課程)保育の対象の理解に関する科目				
各科目に含めることが必要な事項等(教員養成課程)	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程				
授業のテーマ及び到達目標					
<p>授業のテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児、児童及び生徒の心身の発達、学習の過程に関する基礎的知識を身に付ける。 ・各発達段階について学び、学習活動を支える指導の基礎となる考え方を身に付ける。 <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。 ・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解している。 ・幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解している。 					
授業の概要					
学習の概念、学習の過程に関する基礎的な知識を学ぶ。動機づけや主体性形成、幼児期の発達について学び、保育実践に重要な知識を身に付ける。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	教育心理学入門				
2	学習のしくみ				
3	記憶と動機づけ				
4	発達段階と発達課題				
5	乳幼児期の発達と愛着形成				
6	ことば・遊びの発達				
7	道徳性・向社会的行動の発達				
8	知能とパーソナリティ				
9	感情の発達と欲求				
10	ストレスとストレスマネジメント				
11	特別な支援を要する子ども—発達障害				
12	特別な支援を要する子ども—こころの問題				
13	発達の課題に応じた援助と協働				
14	現代社会と子育て支援				
15	まとめ・試験				
テキスト	毎回プリントを配布				
参考書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)				
学生に対する 評価	授業態度14%、小レポート16%、筆記試験70%				

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担当教員名
発達心理学Ⅰ(幼) 保育の心理学(保)	必修科目	講義	2単位	単独	野原 将英
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)教育の基礎的理解に関する科目 (保育士養成課程)保育の対象の理解に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程				
授業のテーマ及び到達目標					
<p>授業のテーマ 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。</p> <p>到達目標 ・幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。 ・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。 ・保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 ・子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 ・乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。</p>					
授業の概要					
心身の発達過程について基礎的な知識を習得し、発達の特徴を踏まえた視点から子どもへの理解を深める。乳幼児期から青年期の身体・運動、知覚、情緒、認知、社会性などの発達について学ぶ。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	発達とは - 遺伝と環境、生涯発達-				
2	発達の原理 - 分化と統合 -				
3	身体・運動機能の発達 - 神経系の発達、原始反射と随意的な活動 -				
4	知覚の発達 - 視覚・聴覚の発達 -				
5	情緒の発達 - 感情の発生と発達 -				
6	愛着と親子関係 - 愛着の形成と親との関わり -				
7	認知の発達 - 思考の発達、ピアジェの認知発達理論 -				
8	ことばの発達 - コミュニケーションの発達、内言と外言 -				
9	知的機能の発達 - 記憶の発達、学習と動機づけ -				
10	発達障害の理解と支援 - 知的能力障害、LD、ADHD、ASD -				
11	社会性の発達 - 心の理論、道徳性の発達 -				
12	自我の発達 - 自律と自己概念 -				
13	遊びの発達 - 遊びの理論と特性 -				
14	児童期～青年期の発達 - 社会的かかわりとアイデンティティ -				
15	定期試験、乳幼児期から青年期における心身の発達についてのまとめ				
テキスト	なし				
参考書 参考資料等	『ベーシック発達心理学(開一夫・齋藤慈子編 東京大学出版会)』、『図でわかる発達心理学(新井邦二郎編著 福村出版)』、幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
学生に対する 評価	定期試験(80%)、授業中の態度(20%)により評価する				

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担当教員名
子ども家庭支援の心理学	必修科目	講義	2単位	単独	合澤 典子
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)教育の基礎的理解に関する科目				
	(保育士養成課程)保育の対象の理解に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程				
授業のテーマ及び到達目標					
<p>授業のテーマ 人の生涯発達について理解した上で、家庭のもつ意味と現状、そしてさまざまな問題を抱える子どもや過程の理解とその支援につながる力を身につける。</p> <p>到達目標 ・生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 ・家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 ・子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 ・子どもの精神保健とその課題について理解する。</p>					
授業の概要					
生涯発達や子どもを囲む家族や家庭の意義と機能を概説した後、子育て家庭の現状とその課題や、子どもの心身の健康に関する支援を考え、理解を深めていく。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	生涯発達(1)乳幼児期から学童期前期				
2	生涯発達(2)学童期後期から青年期				
3	生涯発達(3)成人期・老年期				
4	家族・家庭の理解(1)家族・家庭の意義				
5	家族・家庭の理解(2)親子関係・家庭関係の理解				
6	家族・家庭の理解(3)子育ての経験				
7	家族・家庭の理解(4)親としての育ち				
8	子育て家庭に関する現状と課題(1)子育てを取り巻く社会的状況				
9	子育て家庭に関する現状と課題(2)ライフコースと仕事・子育て				
10	子育て家庭に関する現状と課題(3)多様な家庭				
11	子育て家庭に関する現状と課題(4)発達障害				
12	子育て家庭に関する現状と課題(5)児童虐待				
13	子どもの精神保健(1)子どもの生活・生育環境とその影響				
14	子どもの精神保健(2)心の健康				
15	まとめ 試験				
テキスト	指定しない、ただし毎回資料を配付する				
参考資料	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示) 相良順子・小泉左江子編(2020)「子ども家庭支援の心理学」ナカニシヤ出版				
学生に対する 評価	平常点(20%)、リアクションペーパー・課題(30%)、試験(50%)				

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	単位数	担当形態	担当教員名
教育課程総論・保育の計画と評価	必修科目	2	単独	林 茂和
施行規則に定める科目区分	(教員養成課程) 教育の基礎的理解に関する科目 (保育士養成課程) 保育の内容・方法に関する科目			
各科目に含めることが必要な事項等(教員養成課程)	・教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)			
授業のテーマ及び到達目標				
<p>授業のテーマ 幼稚園教育のための教育課程・保育所保育のための全体的な計画の編成と指導計画の作成の基本的な考え方を理解し、作成手順を学ぶことを目的とする。乳幼児の発達に対応した保育の計画と評価の具体的な事例に接し、保育内容の充実と向上を目指す専門職として、一人一人の子どもにあった保育を創り上げる姿勢を涵養する。</p> <p>到達目標 ・学習指導要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定子ども園教育・保育要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的を理解している。 ・学習指導要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定子ども園教育・保育要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を理解している。 ・教育課程・全体的な計画が社会において果たしている役割や機能を例示できる。 ・教育課程や全体的な計画の編成の基本原則を理解している。 ・教科・領域を横断して教育内容を選択・配列された教育課程・全体的な計画やその考え方を例示することができる。 ・単元・学期・学年をまたいだ長期的な視野や乳幼児、児童又は生徒や学校、地域の実態を踏まえて教育課程・全体的な計画や指導計画を検討することの重要性を理解している。 ・学習指導要領等に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解している。 ・カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解している。 ・保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。 ・全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。 ・子どもの理解に基づく保育の課程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)について、その全体構造を捉え、理解する。</p>				
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・発達に則した教育課程・全体的な計画の編成と指導計画の基礎を学び理解する。 ・内容の充実を図った教育課程・全体的な計画の編成と計画を作成し、自己評価、再編成する。 ・計画、実践、省察・評価、改善のサイクルについて理解し、改善の姿勢をもつ。 				
授業計画				
回数	授業内容等			
1	はじめに; 幼稚園教育要領と教育課程及び保育所保育指針と全体的な計画の目的 DVD「子どもの最善の利益」「最もふさわしい生活の場」視聴			
2	指導計画と評価の基礎理論・知識 DVD「養護と教育の一体性」視聴			
3	保育内容と領域の理解と教育課程・全体的な計画の編成・作成			
4	発達の理解と教育課程・全体的な計画の編成・作成と指導計画 DVD「発達と生活の連続性」視聴			
5	乳幼児期の遊びと学び、3歳児未満児の発達、障害への対応(自立活動)と個別指導計画			
6	計画、実践、省察・評価、改善の過程の循環による保育の質の向上			
7	保育所以外の児童福祉施設における計画と評価の意義			
8	特色ある教育活動、家庭・地域との連携、子育て支援、預かり保育、小学校との連携 等			
9	幼稚園・保育所の設立理念・教育目標・特色ある保育と環境(講義・ミニ演習・発表)			
10	教育課程・全体的な計画の編成・作成と展開(講義・ミニ演習・発表)			
11	教育課程・全体的な計画に基づいた指導計画(長期)の作成と留意事項(講義・ミニ演習・発表)			
12	環境の設定と施設整備指針及び指導計画と保育技術 DVD「環境を通して行う保育」視聴			
13	指導計画(短期)の作成と展開、保育の省察・記録と自己評価から指導計画の再編成及びカリキュラムマネジメント(講義・ミニ演習・発表)			
14	幼稚園幼児指導要録と生活と発達の連続性を踏まえた保育所児童保育要録 テスト			
15	まとめ; 求められる保育の専門性 DVD「保育所の社会的役割と責任」視聴			
テキスト	『教育課程総論・保育の計画と評価(改訂版)』林 茂和 編著 富エヒコブックス ビス株式会社 令和4年度出版 当年度印刷実費等で道灌山学園保育福祉専門学校が頒布			
参考書 参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・『幼稚園教育要領<平成29年告示>』文部科学省 フレーベル館 2017年 ・『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2018年 ・『保育所保育指針』『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館 ・『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領』『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 ・『幼稚園幼児指導要録』文部科学省 ・『保育所児童保育要録』厚生労働省 ・『教育課程総論』小田 豊・神長 美津子 編著 北大路書房 ・『教育課程・保育課程を学ぶ』松村 和子・近藤 幹生・椛島 香代 著 みなみ書房 ・『保育と児童家庭福祉』櫻井 奈津子 編著 株式会社みらい 			
学生に対する 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・講義時の発問に対する回答内容や演習時の意欲・知識・理解の程度(5%) ・ノートでの講義内容の整理や演習時の発表の能力(5%) ・演習時のまとめの記述内容と論理性、文章力及び表現力(45%) ・テストの成績(45%) 			

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業内容	単位数	担当形態	担当教員名
教育方法技術論(幼) 保育内容の理解と方法Ⅰ(保) ※保育技術論及び保育研究を含む	必修科目	演習	2単位	単独	菅野 清子 阿部 恵
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目 (保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)				
授業のテーマ及び到達目標					
<p>授業のテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の中で子どもたちと楽しく係われる遊びや児童文化財、これからも受け継ぎたい遊びや文化財、新しく生まれてきている遊びや文化財を実践的に学ぶ。 <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育方法の基礎的理論と実践を理解している。 ・これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方(主体的・対話的で深い学びの実現など)を理解している。 ・学級・児童及び生徒・教員・教室・教材など授業・保育を構成する基礎的な要件を理解している。 ・学習評価の基礎的な考え方を理解している。 ・基礎的な指導理論を踏まえて、目標・内容・教材、保育展開、保育形態、評価規準等の視点を含めた指導案を作成することができる。 ・子供たちの興味・関心を高めるために、幼児の体験との関連を考慮しながら情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。 ・子供たちの情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための指導法を理解している。 ・子供の心身の発達や子供を取り巻く環境等と幼稚園教育要領・保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子供の生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 ・保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。 <p>授業の概要</p> <p>日本の誇れる児童文化財を、実際の保育の中で活用できるように、教師や学生の多くの事例を見て学び習得する。また、できるだけ多くの教材を、個人の財産として長く保育の中で活用できるように製作し、活かす方法を学ぶ。</p>					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	1 保育の技術と領域・内容(身体・音楽・造形・言語表現などと関連)				
2	子どもと遊び 遊びの意義 発達と遊び 保育の中での遊び 遊びの現状 手遊び・歌遊びで考える				
3	2 素話(ストーリーテリング)は心の栄養 素話とは 素話の特色 語りの実践				
4	素話の語り方と基本 語り方①(子どもの配置・語り手の態度) ※学生素話実演 1				
5	語り方②(声・間・ジェスチャー・人物の使い分け等) ※学生素話実演 2				
6	語り方③(話材の選び方・日本昔話・創作話・外国の民話等) ※学生素話実演 3				
7	素話は保育の基本 家庭になくなった語りを復活させるには ※学生素話実演 4				
8	3 絵本は「どこでもドア」 絵本とは 保育に2種類の絵本とその特色 読みかかせの実践				
9	読みかかせの仕方①(子どもの配置・絵本の名称・絵本の持ち方) ※学生読みかかせ 1				
10	読みかかせの仕方②(読み方・めくり方・絵本の選び方) ※学生読みかかせ 2				
11	世界に誇れる保育絵本 保育絵本の歴史 保育絵本の実践 ※学生読みかかせ 3				
12	保育絵本の使い方 保育絵本はなぜ大切か 家庭と絵本の役割 ※学生読みかかせ 4				
13	4 伝承遊びの楽しみ 伝承遊びのいろいろ 保育に生かす伝承遊び 伝承遊びの意義				
14	身近な伝承遊び(手遊び・絵かき歌・お手玉あそびなど)を楽しみながら「伝承」を考える				
15	5 前期のまとめと、児童文化運動や児童文化施設				
16	6 環境の変化と幼児の文化 原っぱや路地裏での遊びと現代の遊び				
17	7 現在でも子どもに大人気の紙芝居 紙芝居とは 紙芝居の特色 紙芝居の実践				
18	演じ方①(舞台の必要性・集団理解の意味・絵本との違い) ※学生実演 1				
19	演じ方②(紙芝居の仕組み・実演の3本柱・「演じる」意味) ※学生実演 2				
20	情報機器の活用 子どもと楽しむO・H・Pを使った影絵遊び				
21	8 紙人形が大活躍の子どもと楽しむ簡易ペープサート				
22	ペープサートの種類 簡易ペープサートの作り方 くるくるペープサート 制作と実演				
23	巻き込みペープサート制作 実演 ※学生実演				
24	9 オリジナル教材 絵カード遊び 絵カードとは 特色 絵カード遊びの実践 制作と実演				
25	10 日本で花開いたパネルシアター パネルシアターとは 特色 パネルシアターの実践				
26	歴史 幅広い作品を多く見ながらパネルシアターの多様性を知る				
27	パネルシアターの作品を見る。 材料 ※学生実演 1				
28	パネルシアターの作品を見る。 作り方 ※学生実演 2				
29	パネルシアターの作品を見る。 演じ方 ※学生実演 3				
30	11 後期のまとめと、伝承したい文化と新たに創造される文化				
テキスト	「すきま時間あそび」阿部恵著(すずき出版)				
参考書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)、それぞれの教材(絵本・紙芝居・ペープサート・パネルシアターなどの作品)・プリント、「3～5歳児 育ちをとらえる!遊びと10の姿」阿部恵著(学研教育みらい)				
学生に対する 評価	提出物(50%)・授業レポート(30%)・グループや個人の発表点(20%)など				

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業内容	単位数	担当形態	担当教員名
教育方法技術論(幼) 保育内容の理解と方法Ⅰ(保) ※保育技術論及び保育研究を含む	必修科目	演習	2単位	単独	阿部 恵
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目				
	(保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)				
授業のテーマ及び到達目標					
<p>授業のテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の中で子どもたちと楽しく係われる遊びや児童文化財、これからも受け継ぎたい遊びや文化財、新しく生まれてきている遊びや文化財を実践的に学ぶ。 <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育方法の基礎的理論と実践を理解している。 ・これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方(主体的・対話的で深い学びの実現など)を理解している。 ・学級・児童及び生徒・教員・教室・教材など授業・保育を構成する基礎的な要件を理解している。 ・学習評価の基礎的な考え方を理解している。 ・基礎的な指導理論を踏まえて、目標・内容、教材、保育展開、保育形態、評価規準等の視点を含めた指導案を作成することができる。 ・子供たちの興味・関心を高めるために、幼児の体験との関連を考慮しながら情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。 ・子供たちの情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための指導法を理解している。 ・子供の心身の発達や子供を取り巻く環境等と幼稚園教育要領・保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子供の生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 ・保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。 					
授業の概要					
日本の誇れる児童文化財を、実際の保育の中で活用できるように、教師や学生の多くの事例を見て学び習得する。また、できるだけ多くの教材を、個人の財産として長く保育の中で活用できるように製作し、活かす方法を学ぶ。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	1 保育の技術と領域・内容(身体・音楽・造形・言語表現などに関連)				
2	子どもと遊び 遊びの意義 発達と遊び 保育の中での遊び 遊びの現状 手遊び・歌遊びで考える				
3	2 素話(ストーリーテリング)は心の栄養 素話とは 素話の特色 語りの実際				
4	素話の語り方と基本 語り方①(子どもの配置・語り手の態度) ※学生素話実演 1				
5	語り方②(声・間・ジェスチャー・人物の使い分け等) ※学生素話実演 2				
6	語り方③(話材の選び方・日本昔話・創作話・外国の民話等) ※学生素話実演 3				
7	素話は保育の基本 家庭になくなった語りを復活させるには ※学生素話実演 4				
8	3 絵本は「どこでもドア」 絵本とは 保育に2種類の絵本とその特色 読みかかせの実際				
9	読みかかせの仕方①(子どもの配置・絵本の名称・絵本の持ち方) ※学生読みかかせ 1				
10	読みかかせの仕方②(読み方・めくり方・絵本の選び方) ※学生読みかかせ 2				
11	世界に誇れる保育絵本 保育絵本の歴史 保育絵本の実際 ※学生読みかかせ 3				
12	保育絵本の使い方 保育絵本はなぜ大切か 家庭と絵本の役割 ※学生読みかかせ 4				
13	4 伝承遊びの楽しみ 伝承遊びのいろいろ 保育に生かす伝承遊び 伝承遊びの意義				
14	身近な伝承遊び(手遊び・絵かき歌・お手玉あそびなど)を楽しみながら「伝承」を考える				
15	5 前期のまとめと、児童文化運動や児童文化施設				
16	6 環境の変化と幼児の文化 原っぱや路地裏での遊びと現代の遊び				
17	7 現在でも子どもに大人気の紙芝居 紙芝居とは 紙芝居の特色 紙芝居の実際				
18	演じ方①(舞台の必要性・集団理解の意味・絵本との違い) ※学生実演 1				
19	演じ方②(紙芝居の仕組み・実演の3本柱・「演じる」意味) ※学生実演 2				
20	情報機器の活用 子どもと楽しむO・H・Pを使った影絵遊び				
21	8 紙人形が大活躍の子どもと楽しむ簡易ペープサート				
22	ペープサートの種類 簡易ペープサートの作り方 くるくるペープサート 制作と実演				
23	巻き込みペープサート制作 実演 ※学生実演				
24	9 オリジナル教材 絵カード遊び 絵カードとは 特色 絵カード遊びの実際 制作と実演				
25	10 日本で花開いたパネルシアター パネルシアターとは 特色 パネルシアターの実際				
26	歴史 幅広い作品を多く見ながらパネルシアターの多様性を知る				
27	パネルシアターの作品を見る。 材料 ※学生実演 1				
28	パネルシアターの作品を見る。 作り方 ※学生実演 2				
29	パネルシアターの作品を見る。 演じ方 ※学生実演 3				
30	11 後期のまとめと、伝承したい文化と新たに創造される文化				
テキスト	「すま時間あそび」阿部恵著(すずき出版)				
参考書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)、それぞれの教材(絵本・紙芝居・ペープサート・パネルシアターなどの作品)・プリント、「3～5歳児 育ちをとらえる!遊びと10の姿」阿部恵著(学研教育みらい)				
学生に対する 評価	提出物(50%)・授業レポート(30%)・グループや個人の発表点(20%)など				

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担当教員名
教育・保育実習指導Ⅰ	必修科目	演習	2単位	オムニバス	池田幸代 宮崎信子
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)教育実践に関する科目 (保育士養成課程)保育実習				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	教育実習				
授業のテーマ及び到達目標					
<p>授業のテーマ 一連の実習における意義を理解し、実習での教育・保育理解を深めるための態度・知識・技術などの習得を目指す。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育・保育実習の意義・目的を理解する。 ・実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 ・幼稚園・保育所の役割、機能、日々の保育の流れを理解する。 ・意欲的かつ積極的に事前準備を行うことができる。 ・子どもとのかかわりを通して子どもに対する理解を深め、適切な関わりについて学ぶ。 ・実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 ・実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 ・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。 					
授業の概要					
<p>実習の意義と目的を理解し、その学びより自分の実習の目的を明確にする。 実際の保育に即した実習日誌の書き方を学び、確実に身に着ける。</p>					
授業計画					
回数	授業内容等				
1	オリエンテーション 授業の進め方、評価の方法について				(池田幸代)
2	実習の意義と目的、実習スケジュールについて				(池田幸代)
3	保育園の一日の流れ				(池田幸代)
4	実習記録の取り方①記録の意義				(池田幸代)
5	実習記録の取り方②一日の流れ				(池田幸代)
6	実習記録の取り方③子ども理解と保育者に対する気づき				(池田幸代)
7	保育所実習の準備①基本的なマナーと実習の種類				(池田幸代)
8	保育所実習の準備②園の種類と実習園の選択				(池田幸代)
9	保育所実習の準備③書類の書き方				(池田幸代)
10	保育所実習の準備④オリエンテーションについて				(池田幸代)
11	発達の違いと子どもとの関わり方				(池田幸代)
12	指導案の作成(絵本の読み聞かせ)				(池田幸代)
13	模擬保育(絵本の読み聞かせ)				(池田幸代)
14	指導案の作成(制作物・ルールのある遊び)				(池田幸代)
15	模擬保育(制作物・ルールのある遊び)				(池田幸代)
16	幼稚園・保育所・認定こども園の理解と実習について				(宮崎信子)
17	教育実習(幼稚園)について				(宮崎信子)
18	幼稚園の1日の流れ				(宮崎信子)
19	指導案の理解①「作ったもので遊ぶ」				(宮崎信子)
20	指導案の理解②「集団ゲーム」				(宮崎信子)
21	模擬保育				(宮崎信子)
22	子どもの人権・実習生として守るべきこと				(宮崎信子)
23	指導案の理解③「リズム遊び」・模擬保育				(宮崎信子)
24	支援を要する子どもの理解				(宮崎信子)
25	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について				(宮崎信子)
26	遊びからの学び「身近な素材を使って」				(宮崎信子)
27	伝承遊びについて				(宮崎信子)
28	実習前に確認しておくべきこと				(宮崎信子)
29	保育者としての専門性				(宮崎信子)
30	実習からの学びと次の実習へのステップ				(宮崎信子)
テキスト	『成長し続ける教育・保育実習』教育情報出版 『3つのかべを乗り越える！保育実習リアルガイド』学研教育みらい				
参考書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)				
学生に対する 評価	提出物(30%)、授業内課題(50%)、模擬保育(20%)による総合評価				

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	単位数	授業方法	担当教員名
学校体験活動	必修科目	2単位	実習	池田 幸代 宮崎 信子
施行規則に定める各科目 区分又は事項等	(教員養成課程)教育実践に関する科目 (保育士養成課程)大学が独自に設定する科目			
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	学校体験活動			
授業のテーマ及び到達目標				
<p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。 ・教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解している。 ・幼児、児童又は生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。 ・指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実即して記録することができる。 ・教育実習園の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。 ・学級担任や教科担任等の補助的な役割を担うことができる。 ・幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。 ・保育に必要な基礎的技術(話法・保育形態・保育展開・環境構成など)を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。 ・学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解している。 ・様々な活動の場面で適切に幼児と関わる事ができる。 				
学校体験活動実施計画				
学校体験活動の内容及び成績評価等				
①学校体験活動の時期 幼稚園教員・保育士養成科第Ⅰ部1年次 5月下旬～12月下旬				
②学校体験活動の実習期間・総時間数 幼稚園 2週間(90時間)				
③学校体験活動実施園の確保・方法 養成校の同一学校法人下の幼稚園の中から、学校が指定する実習園を選び内諾を得る。				
④学校体験活動内容 指定期間内に、観察実習・参加実習・部分実習を必ず実施する。 ○観察実習: 幼児の様子を観察・記録し、実態や一日の流れを学ぶ。 ○参加実習: 実習園学級担任と幼児の活動に参加し、学級担任の役割や配慮、環境構成などを学ぶ。 ○部分実習: 実習生が部分実習指導計画案を立案し学級担任から指導を受け、活動の一部分(歌唱指導・制作指導・レクリエーション活動等)を担当し実施する。 園長・主任教員等より、幼稚園の運営方針や教育活動の特色、職員体制や地域との関わりなどを学ぶ。幼児降園後の教職員の職務内容を理解する。				
⑤学生に対する指導の方法 指導教員が学校体験活動実施園と連絡を取りながら連携を図り、体験活動参加状況の確認を行うと共に、学生への指導を積み重ねていく。学校体験活動期間中、学生からの相談・報告等を受けられるよう態勢を整える。				
⑥学校体験活動の成績評価(評価の基準及び方法) 実習生から指導教員へ提出された学校体験活動記録簿を基に、実習運営委員会において成績評価を行う。				
テキスト	特になし			
参考書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示) 『成長し続ける教育・保育実習』教育情報出版 『3つのかべを乗り越える! 保育実習リアルガイド』学研教育みらい			

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担当教員名
子ども家庭福祉	必修科目	講義	2単位	単独	塚田 幸子
施行規則に定める科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目				
	(保育士養成課程)保育の本質・目的に関する科目				
各科目に含めることが必要な事項等(教員養成課程)					
授業のテーマ及び到達目標					
<p>授業のテーマ 子どもと家庭を取り巻く現状について知り、子どもの権利とは何か理解する。また、子どもの権利を護る人権擁護について理解する。さらに子ども家庭福祉の歴史について学び、子ども家庭福祉の制度や実施体系について理解する。最後に子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。</p> <p>到達目標 ・現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 ・子どもの人権擁護について理解する。 ・子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 ・子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 ・子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。</p>					
授業の概要					
<p>家族を取り巻く社会環境変化がもたらす子育てへの影響が指摘され、子どもの育ちを社会全体が支えていくことの必要性が認識されるようになった。これに伴い子どもの育ちを支える最前線で働く保育士にはより高い専門性が求められるようになった。常に子どもの権利を護るという視点から子どもへの直接的な働きかけだけでなく、子育て中の家庭が抱える生活課題に気付き必要な支援に結びつけていくことも重要な役割として求められている。</p>					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	子どもと家庭を取り巻く現状(子どもと家庭の状況、人口構造の変化、未婚化・晩婚化の進行、養育の状況、家族・社会・地域の変容)				
2	子どもの権利(歴史、わが国の子どもの権利保障、子どもの権利を護る取り組み)				
3	子ども家庭福祉の歴史(イギリス、アメリカ、日本の子ども家庭福祉)				
4	子ども家庭福祉法体系(児童福祉法、子ども家庭福祉に関する法律)				
5	子ども家庭福祉行財政と実施機関(子ども家庭福祉の行財政、実施機関と施設)				
6	子育て支援サービスと子どもの健全育成(少子化対策の必要性、エンゼルプランから働き方改革関連法まで、子ども・子育て支援新制度の事業、健全育成施策)				
7	母子保健サービス(母子保健の理念、母子保健サービスの実施と体系、母子保健の取り組み)				
8	保育サービス(保育所と待機児童、保育サービス)				
9	子ども虐待とDV(ドメスティック・バイオレンス)(子ども虐待、DV(ドメスティック・バイオレンス))				
10	社会的養護(社会的養護とは、代替的養護(代替養育)、社会的養護(代替養育)の状況と今後)				
11	ひとり親家庭への福祉(ひとり親家庭の現状と生活状況、ひとり親kていへの福祉サービスの概要)				
12	障がいのある子どもの福祉(新たな福祉観と「障がい感」、障がい児の定義と現状、障がい児への福祉施策、経済的支援)				
13	情緒障がい・少年非行問題(情緒障がい・少年非行)				
14	子ども家庭福祉の専門職と連携(児童福祉施設に携わる専門職、子ども家庭福祉行政機関に携わる専門職、子ども家庭福祉関連機関との連携、子ども家庭福祉の専門性、関連機関との連携の重要性と留意点)				
15	まとめと試験				
テキスト	保育と子ども家庭福祉(櫻井奈津子編著、みらい)				
参考書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
学生に対する 評価	試験80%、授業への取り組み態度10%、提出物等の課題10%				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	講義方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
保育原理	必修科目	講義	2単位	単独	野尻 裕子
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目				
	(保育士養成課程)保育の本質・目的に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)					
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
<p>【授業のテーマ】 本授業では、保育に関する基本的な事項について理解できるよう保育所保育指針に基づいて学んでいく。特に乳幼児期の保育を支える制度や保育の役割、重要性についての理解を深め、保育者としての基礎的・基本的な知識を修得する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の意義及び目的について理解する。 ・保育に関する法令及び制度を理解する。 ・保育所保育指針における保育の基本について理解する。 ・保育の思想と歴史的変遷について理解する。 ・保育の現状と課題について理解する。 					
授 業 の 概 要					
<p>保育を学ぶための基礎・基本的な事項(理念、役割、制度等)について、保育所保育指針を中心に学習を進める。またその中で、「遊びを中心とした生活の中で、環境を通して行なう保育」とは何かについて、具体的な子どもの姿を提示しながら理解を深めていく。更に国内外の保育の思想や歴史について学ぶとともに、我が国における保育の現状や課題についても触れていく。</p>					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	保育の理念と概念				
2	保育の社会的役割と責任				
3	子ども・子育て支援新制度と関係法令				
4	保育の実施体系				
5	保育所保育指針に基づく保育				
6	保育の目標と方法				
7	乳児の保育				
8	1歳以上3歳未満児の保育				
9	3歳以上児の保育				
10	子ども理解の視点と方法				
11	保育の計画				
12	保育の思想と歴史(諸外国)				
13	保育の思想と歴史(日本)				
14	保育の基本について考える(試験及び解説)				
15	まとめ:保育の現状と課題(日本を中心に)				
テキスト	適宜、授業内で資料を配布する。				
参 考 書 参 考 資 料 等	厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 2017年				
学生に対する 評 価	試験(60%)、リアクションペーパー(40%)				

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担当教員名
子どもの保健	必修科目	講義	2単位	単独	飯村 節子
施行規則に定める科目区分	(教員養成課程) 大学が独自に設定する科目 (保育士養成課程) 保育の対象の理解に関する科目				
各科目に含めることが必要な事項等(教員養成課程)					
授業のテーマ及び到達目標					
<p>授業のテーマ 保育者として、子どもを健康に療育するために必要な基礎知識を学ぶ。 子どもの保健とは何か、子どもの発育や発達、子どもの心身の健康状態を把握する方法を学ぶ。</p> <p>到達目標 ・子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 ・子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達について理解する。 ・子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解する。 ・子どもの心身の健康状態とその把握について理解する。</p>					
授業の概要					
子どもの体を理解するための基礎知識、乳幼児期の成長発達、子どもに多い感染症等について、関連するガイドラインをもとに講義する。また、保育者として、健康観察の重要性について、身体的・精神的・社会的な観点から解説し、適切な対応、支援について講義する。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	子どもの健康と保健の意義:子どもの保健とは、子どもの保健の対象、施策、保健統計、課題				
2	発育の理解:乳幼児の発育の特徴、身体測定、発育の評価、母子健康手帳				
3	身体理解(1):ヒトの体とその働き、呼吸器系、循環器系、消化器系				
4	身体理解(2):免疫機能、排泄機能(尿の生成)、内分泌ホルモン、神経系				
5	発達の理解(1):発達とは、各領域における発達				
6	発達の理解(2):発達障害とは、発達障害の子どもへの支援				
7	健康状態を知る(1):健康観察、一般状態、水分の出納				
8	健康状態を知る(2):新生児(生後4週まで)、健康診断、保護者との情報共有				
9	病気とその対処法(1):病気に対する子どもの特徴、子どもの諸症状への対応(前半)				
10	病気とその対処法(2):子どもの諸症状への対応(後半)、与薬の仕方				
11	病気とその対処法(3):感染症の概要、種類、感染源、感染経路				
12	病気とその対処法(4):子どもの病気の特徴、よくみられる病気、呼吸器疾患、消化器疾患他				
13	病気の予防:予防接種の重要性、目的、ワクチンの種類、接種方法、予防接種の副反応、スケジュール				
14	地域の保健活動と虐待防止:地域における保健活動、虐待の現状とその防止				
15	健康と保育の環境:子どもの成長と発達における環境との相互作用、施設内の環境整備、まとめ				
テキスト	子どもの保健と安全演習ブック(ミネルヴァ書房)				
参考書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示 文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示 厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
学生に対する 評価	最終レポート(60%) 課題レポート(20%) 学ぶ意欲(20%)				

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担当教員名
子どもの健康と安全	必修科目	演習	1単位	単独	細谷 光子
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目				
	(保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)					
授業のテーマ及び到達目標					
<p>授業のテーマ 保育者として、子どもの健康を守り高めるために必要な知識と技術を習得する。</p> <p>到達目標 ・保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 ・関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。 ・子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解する。 ・保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドラインや近年のデータ等に基づく、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。 ・子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。</p>					
授業の概要					
保育者に求められる、保健的観点を踏まえた知識や養護技術、ケガや疾病、感染症等への適切な対応、事故や災害等における安全管理能力等、健康と安全支援について、演習・実習を取り入れて講義する。					
授業計画					
回数	授業内容等				
1	オリエンテーション:子どもの健やかな育ちを支える 授業の進め方、成績評価方法、課題についての確認				
2	保健的観点を踏まえた保育環境及び援助(1):子どもの生活習慣と養護				
3	保健的観点を踏まえた保育環境及び援助(2):排泄への援助技術の習得(おむつ交換の演習)				
4	保健的観点を踏まえた保育環境及び援助(3):清潔への援助技術の習得(沐浴の演習)				
5	保育における健康安全管理の実際(1):保育施設等における衛生管理				
6	保育における健康安全管理の実際(2):発達段階からみた事故の特徴と事故防止、災害への備え				
7	子どもの体調不良等に対する適切な対応(1):発熱、嘔吐、下痢、咳、発疹、脱水、けいれん等				
8	子どもの体調不良等に対する適切な対応(2):応急処置(頭部打撲、出血、骨折)、熱中症への対応				
9	子どもの体調不良等に対する適切な対応(3):食物アレルギー・アナフィラキシーへの対応				
10	子どもの体調不良等に対する適切な対応(4):心肺蘇生法、AED操作、気道異物除去、エピペン投与				
11	感染症対策:集団保育における感染症対策(感染経路と感染様式、発生時の対応、登園停止と解除等)				
12	保育における保健的対応(1):3歳未満児の特徴やその対応				
13	保育における保健的対応(2):個別的な配慮を要する子どもへの対応(慢性疾患、アレルギー、心疾患等)				
14	保育における保健的対応(3):障害のある子どもへの対応(肢体不自由・呼吸・嚥下・視覚(聴覚)・発達等)				
15	保健安全管理の実施体制:保育における保健活動計画と評価、地域との連携(健康診断、保健だより)まとめ				
テキスト	保育者・養護教諭を目指す人のための子どもの保健～健康と安全～(へるす出版)				
参考書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)、教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン(2016.3内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
学生に対する 評価	最終レポート(50%)、課題レポート(30%)、学習への意欲(20%)				

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担当教員名
保育内容の理解と方法Ⅲ (音楽)※発表会、歌検を含む	必修科目	演習	4単位	クラス分け・単独	(五十音順) 笠原亮子、菅野まゆみ 高橋由紀子、高橋洋子 田口千恵、深谷佳代子 星川美生、松姫俊彦 中村麻里子、渡部さやか
施行規則に定める科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目 (保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含まれることが必要な事項等(教員養成課程)					
授業のテーマ及び到達目標					
<p>授業のテーマ 教育者として必要とされる音楽の基礎知識を身に付ける。 歌、言葉、遊び、動き、リズム等を活用した音楽にかかわる表現を習得する。 幼稚園、保育園の現場で求められるピアノ伴奏、表現の基礎を習得する。 楽器の音色に気づき表現できるようにする。 ピアノ、歌唱の表現法を身につける。わらべうたの音階。 幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域(表現)のねらいを明確に理解する。 共通教材・選択教材の歌、伴奏、弾き歌いができる。 ピアノや各楽器を通して音楽を多角的に捉え、臨機応変に使うことができる。 色々な音色のハーモニーの美しさに気づき、感動、達成感、充実感を、合奏を通して体験する。 到達目標 ・子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 -保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。</p>					
授業の概要					
感性、思考、イメージを経験し、感性、表現する力を養い、創造性を豊かにしていく。 素材や方法を工夫し、活用出来るよう指導。					
授業計画					
回数	授業内容等				
1	オリエンテーション 担当教員の紹介 授業内容と方法				
2	基礎知識の理解 基礎理論「打鍵、読譜、音符」 保育で生かす為のピアノ技術の基本個人指導				
3	歌う表現知識 音域、発声 ピアノ実技個人指導				
4	「音楽、言葉、遊び」歌を歌う楽しさを味わう 子どものうたとメロディー ピアノ実技個人指導 ハ長調の音階				
5	「音楽と動き」音符表現(スキップ) コード、和音				
6	言葉とリズム 乳幼児、幼児の生活の中での歌 わらべうた 音から伝えられてきたわらべ歌の伴奏法(型)				
7	身体表現 見たもの美しいものをイメージづくり 子どもの歌の伴奏法				
8	生活の中での歌 あいさつ、おべんとう、おかえり、行事 ピアノ実技個人指導 長調の音階				
9	生活の中での歌 あいさつ、おべんとう、おかえり、行事 ピアノ実技個人指導 二長調の音階				
10	表現の喜び、自分なりの表現 拍、マーチ				
11	「音楽と動き」の表現実践 フレーズ、イメージづくり、言葉 動作				
12	強弱を用いた音楽表現を学ぶ				
13	前期音楽表現 弾き歌い実演発表				
14	保育に歌唱指導を導入するねらいと注意事項				
15	前期まとめ 課題曲の仕上げ				
16	後期内容の説明 授業内容と方法				
17	子どもの歌と表現 自分なりに表現して楽しむ 感性をもつ ピアノ実技個人指導 ハ長調の音階				
18	乳児、幼児の生活の中でのうた 音や動き わらべうた 手遊び ピアノ実技個人指導				
19	「表現の素材」 いろいろな素材に親しみ工夫して遊ぶ ピアノ実技個人指導 イ短調の音階				
20	「音楽と動き」の表現実践1 即時反応 音の高低 ダイナミック スペース 友達と一緒に歌ったりリズム遊び				
21	幼児の興味や関心を引き出す ボディーパーカッション スティック リズム表現				
22	IGTを用いて表現の内容と指導上の留意点を理解する				
23	事例や映像から幼児の心情、動き等を考察し、指導計画を作成する				
24	身の回りにある音、自然の音 楽器あそび 手作り楽器 楽器に対する興味や関心をもつ 音を出して遊びながら音の違いを感じ、表現する楽しさを味わう ピアノ実技個人指導				
25	身近な楽器に親しむ 打楽器(スズ、カスタネットなど) リズム感、自分たちで考え表現する ピアノ実技個人指導				
26	身近な楽器に親しむ 有音程楽器1(鍵盤ハーモニカ、ハーモニカ)、ピアノ実技個人指導				
27	感動したことを伝える 友達と表現する 合奏 友達と一緒に活動する喜び 友達と心を合わせて合奏することで、みんなで作りあげる喜びや友達との信頼関係が出来る。達成感を味わう。				
28	後期音楽表現 弾き歌い実演発表				
29	後期まとめ 課題曲の仕上げ				
30	感動したことを伝える 友達と表現する まとめ				
テキスト	標準「バイエル併用曲集付」「こどものうた200」「続こどものうた200」、配布プリント				
参考書 参考資料等	学習指導要領、幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
学生に対する 評価	課題実践50%、歌唱実演発表50%				

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担当教員名
社会福祉	必修科目	講義	2単位	単独	宮島 直丈
施行規則に定める科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目 (保育士養成課程)保育の本質・目的に関する科目				
各科目に含めることが必要な事項等(教員養成課程)					
授業のテーマ及び到達目標					
<p>授業のテーマ 「日本国憲法」第25条に根拠する、我が国社会保障制度体系についての総合的理解、及び各種社会福祉法制の相互関連的把握を目指し、もって我が国社会福祉サービスへの関心を涵養する。</p> <p>到達目標 ・現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。 ・社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 ・社会福祉における相談援助について理解する。 ・社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 ・社会福祉の動向と課題について理解する。</p>					
授業の概要					
社会福祉事業各分野に関する基礎的法制度の理解。各種社会福祉サービスの意義と社会的背景の理解。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	「社会福祉」を学ぶとはどのようなことなのか。				
2	「社会福祉」とは何か？				
3	「児童福祉」の領域① 保育士の法的根拠 保育所の法的根拠				
4	「児童福祉」の領域② 各種児童福祉施設の種類と役割				
5	「児童福祉」の領域③ 児童虐待の定義 社会的背景 歴史 現状と課題 I				
6	「児童福祉」の領域③ 児童虐待の定義 社会的背景 歴史 現状と課題 II				
7	「障がい児・者福祉」の領域① 「障がい」とは 障がい児・者の心理と社会的ニーズ				
8	「障がい児・者福祉」の領域② 障がい児・者関連基本法制解説				
9	「障がい児・者福祉」の領域③ 障がいを持つ子どもとのコミュニケーション(発達障害を中心に)				
10	「高齢者福祉の領域」① 少子高齢社会の現状と課題				
11	「高齢者福祉の領域」② 高齢者の心理と社会的ニーズ 認知症高齢者について				
12	「高齢者福祉の領域」③ 高齢者福祉関連各基本法制解説				
13	「低所得者福祉」の領域① 「生活保護制度」について I				
14	「低所得者福祉」の領域① 「生活保護制度」について II				
15	講義まとめ 社会福祉を学んで 定期試験				
テキスト	使用せず「PowerPoint集成」板書中心				
参考書 参考資料等	随時印刷物等の関係資料を配付する オフィスアワー(13:00~17:00) 幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)				
学生に対する 評価	定期試験(70%)、出席状況(30%)				

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担当教員名
社会的養護Ⅰ	必修科目	講義	2単位	単独	北川 裕子
施行規則に定める科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目 (保育士養成課程)保育の本質・目的に関する科目				
各科目に含めることが必要な事項等(教員養成課程)					
授業のテーマ及び到達目標					
<p>授業のテーマ 現代社会における社会的養護の役割・援助を知り、保育士として必要な人権意識を身につける。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。 ・子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 ・社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 ・社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 ・社会的養護の現状と課題について理解する。 					
授業の概要					
社会的養護の役割や援助内容を学ぶ。 子どもの人権を尊重すること、自立を支援することとは何か、事例を用いながら学ぶ。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	社会的養護とは?(理念と概念)				
2	社会的養護の歴史				
3	子どもを取り巻く状況と社会的養護の意義・役割				
4	児童観の変遷、子どもの権利擁護と社会的養護				
5	施設内虐待の防止				
6	児童虐待				
7	社会的養護の制度と法体系、仕組みと実施体系				
8	家庭養護、その他の養護				
9	社会的養護のに関わる専門職				
10	養護の基本原則				
11	施設養護の実際(支援内容)				
12	施設養護とソーシャルワーク				
13	運営管理(措置制度と利用契約制度、倫理の確立など)				
14	社会的養護と地域福祉				
15	今後の展望、試験				
テキスト	図解で学ぶ保育「社会的養護Ⅰ」原田旬哉他編著 萌文書林				
参考書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)、参考資料は授業時に紹介				
学生に対する 評価	授業貢献度(15%)、提出物(40%)、試験(45%)等による総合評価。				

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担当教員名
子ども家庭支援論	必修科目	講義	2単位	単独	北川 裕子
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目 (保育士養成課程)保育の本質・目的に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)					
授業のテーマ及び到達目標					
<p>授業のテーマ 援助の技術を身につけ、子どもやその家庭支援に関する保育士や保育所の役割について学ぶ。</p> <p>到達目標 ・子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 ・保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 ・子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 ・子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。</p>					
授業の概要					
子ども家庭支援の実際(内容やその意図等)を学ぶ。 また、事例を通し、自分の考えをまとめる。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	子ども家庭支援の意義と役割 ①子ども家庭支援の意義と必要性				
2	②子ども家庭支援の目的と機能				
3	保育士による子ども家庭支援の意義と基本 ①保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義				
4	②子どもの育ちの喜びの共有				
5	③保護者や地域の子育て実践力の向上への支援				
6	④保育士に必要な基本的態度				
7	⑤家庭の状況に応じた支援				
8	⑥地域資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力				
9	子育て家庭に対する支援の体制 ①子育て家庭の福祉を図るための社会資源				
	②子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進				
11	多様な支援の展開と関係機関との連携 ①子ども家庭支援の内容と対象				
12	②保育所等を利用する子どもの家庭への支援				
13	③地域の子育て家庭への支援				
14	④要保護児童等及びその家庭に対する支援				
15	⑤子ども家庭支援に関する現状と課題、試験				
テキスト	児童の福祉を支える「子ども家庭支援論」 吉田眞理 萌文書林				
参考書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)、参考資料は授業時に紹介				
学生に対する 評価	授業貢献度(10%)、提出物(45%)、試験(45%)等による総合評価。				

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担当教員名
乳児保育Ⅰ	必修科目	講義	2単位	単独	塚田 幸子
施行規則に定める科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目 (保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが必要な事項等(教員養成課程)					
授業のテーマ及び到達目標					
<p>授業のテーマ 乳児保育の理念・役割と歴史的変遷、保育施設における乳児保育の現状と課題について学ぶ。3歳未満児の発育・発達について学び、乳児保育の計画を作成する。保護者や関係機関との連携について学ぶ。</p> <p>到達目標 ・乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。 ・保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 ・3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 ・乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。</p>					
授業の概要					
乳児保育の理念・役割と歴史的変遷、保育施設における乳児保育の現状と課題について学ぶ。3歳未満児の発育・発達について学び、その健全な成長を促す保育者の関わりについて理解し、乳児保育の計画作成を実践する。保護者や関係機関の特性について理解し連携の仕方を学ぶ。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	乳児保育の理念と乳児保育の歩み				
2	乳児保育の役割と機能				
3	乳児保育の現状と課題(1)保育所における乳児保育				
4	乳児保育の現状と課題(2)乳児院における乳児保育				
5	乳児保育の現状と課題(3)家庭的保育等における乳児保育				
6	乳児保育の現状と課題(4)乳児や家庭を取り巻く環境と子育て支援の場				
7	3歳未満児の発達と保育内容 乳児保育における基本的知識・技術に基づく援助や関わり				
8	6か月未満児の発達と保育内容				
9	6か月～1歳3か月未満児の発達と保育内容				
10	1歳3か月～2歳未満児の発達と保育内容				
11	2歳児の発達と保育内容				
12	保育課程に基づく指導計画の作成と観察・記録及び自己評価				
13	一人ひとりの発達を促す生活と遊びの環境(文化財)				
14	職員間の協働、保護者とのパートナーシップ				
15	保健・医療機関、家庭的保育、地域子育て支援等関係諸機関との連携 期末テスト				
テキスト	授業中にプリントを配布				
参考書 参考資料等	乳児保育の探求(入江礼子編著、相川書房)、幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
学生に対する 評価	授業への参加積極性10%、期末テストの成績90%				

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	単位数	授業方法	担当教員名
保育実習Ⅰ	必修科目	4単位	実習	池田 幸代 宮崎 信子
施行規則に定める各科目区分又は事項等	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目 (保育士養成課程)保育実習			
各科目に含めることが必要な事項等(教員養成課程)				
授業のテーマ及び到達目標				
到達目標 ・保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 ・観察や乳幼児(利用者)との関わりを通して乳幼児(利用者)への理解を深める。 ・既習の教科目の内容を踏まえ、乳幼児(利用者)の関わり及び保護者への支援について総合的に理解する。 ・保育(活動)の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 ・保育士(職員)の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。				
実習等実施計画				
保育実習の内容及び成績評価等				
①保育実習の時期 ○幼稚園教員・保育士養成科第Ⅰ部 1年次 2月上旬～3月下旬、 2年次 5月上旬～5月下旬、または、7月中旬～8月下旬、または11月上旬～11月下旬 ○幼稚園教員・保育士養成科第Ⅱ部 2年次 7月中旬～8月下旬、または11月上旬～11月下旬 3年次 5月上旬～5月下旬、または、7月中旬～8月下旬、または11月上旬～11月下旬				
②保育実習の実習期間・総時間数 保育所 2週間(90時間) 児童福祉施設 2週間(90時間)				
③実習施設の確保・方法 養成校が指定する施設の中から、実習生が希望する実習施設を選び内諾を得る。				
④保育実習内容 指定期間内に、観察実習・参加実習・部分実習を必ず実施する。 ○観察実習;乳幼児(施設通所児・者及び入所児・者)の様子を観察・記録し、実態や一日の流れを学ぶ。 ○参加実習;クラス担任(担当)と乳幼児(施設通所児・者及び入所児・者)の活動に参加し、クラス担任(担当)の役割や配慮、環境構成などを学ぶ。 ○部分実習;実習生が部分実習指導計画案を立案しクラス担任(担当)から指導を受け、活動の一部分(歌唱指導・制作指導・レクリエーション活動等)を担当し実施する。				
園長(施設長)・主任保育士(職員)等により、実習施設の運営方針や活動の特色、職員体制や地域との関わりなどを学ぶ。乳幼児(施設通所児・者及び入所児・者)降園(帰宅)後の保育士(職員)の職務内				
⑤実習生に対する指導の方法 指導教員が実習施設へ巡回指導を行い、担当職員と実習進行状況の確認を行う。保育実習期間中、実習生からの相談・報告等を受けられるよう態勢を整える。				
⑥保育実習の成績評価(評価の基準及び方法) 実習施設からの実習評価書、担当教員の評価、実習記録簿の記録状況等を総合的に評価し、実習運営委員会において成績評価を行う。				
参考書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)			

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担当教員名
日本国憲法	必修科目	講義	2単位	単独	松井 文晴
施行規則に定める科目区分	(教員養成課程)教育職員免許法施行規則第六十六条の六に定める科目 (保育士養成課程)教養科目				
各科目に含めることが必要な事項等(教員養成課程)	日本国憲法				
授業のテーマ及び到達目標					
この授業では以下の知識、能力を身につけることを目標とする。 ・日本を含めた諸外国の憲法の歴史を紐解き、基本的人権について、判例を通し、法的な思考方法の基礎を身につけることができる。 ・選挙等で国政に参加する際に、自らの判断で行動できるような知識を身につけることができる。					
授業の概要					
講義形式で授業をおこなう。黒板に書かれたことのみを板書するのではなく、必要に応じて、口頭で話していることをメモを取るなど習慣を身につけて欲しい。また、ニュース、新聞等で報道されている最新のものについて、DVDなどを通して講義に取り入れる。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	憲法って何？ 憲法はなぜあるのかを学ぶ				
2	憲法の歴史1(外国の憲法) 憲法はどのようにして生まれてきたのかを学ぶ				
3	憲法の歴史2(日本の憲法) 大日本帝国憲法と日本国憲法を学ぶ				
4	日本国憲法の基本原理1(憲法の三大原理) 国民主権、基本的人権の尊重、平和主義について学ぶ				
5	日本国憲法の基本原理2(人の支配と法の支配) 人の支配と法の支配の違いについて学ぶ				
6	憲法と平和主義 憲法改正議論について考え、レポート提出				
7	基本的人権 人権とは何かを学ぶ(ハラスメントについてディベート)				
8	法の下での平等 いわゆる一票の価値の問題、法の下での平等の意義について学ぶ(夫婦別氏、女性のみの再婚禁止期間についてディベート)				
9	自由権 家永訴訟から表現の自由と検閲について学ぶ				
10	適正手続 なぜ、被疑者・被告人の人権が保障されるかを学ぶ				
11	社会権 労働基本権とは何かを学ぶ				
12	国会 国会の役割について学ぶ(1票の格差含む)				
13	内閣 内閣の役割について学ぶ				
14	裁判所 裁判所の役割について学ぶ(裁判員制度含む)				
15	まとめと解説 授業の総括を行う。これまでの授業のポイントを整理し、自らの言葉で説明できるようにしておくこと。				
テキスト	川端敏朗／松嶋隆弘『スタンダード法学』 芦書房 2018 ISBN:9784755612947				
参考書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
学生に対する 評価	試験80%、レポート10%、授業態度10%により総合的に評価する。				

令和5年度

シラバス集

第2学年



道灌山学園保育福祉専門学校

幼稚園教員・保育士養成科

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里4-7-15

電話 03-3828-8478

SYLLA BUS シラバス（授業計画）について

○シラバスとは

今年度開講する授業科目の名称、単位数、開講時期、学年、授業担当者名、授業の到達目標・テーマ、授業の概要、授業計画、使用するテキスト・参考資料、授業の形態、成績評価の方法等について、担当教員が記した授業の計画書です。

よく読んで、円滑に授業が受講できるよう心がけるようにしましょう。

※学生のしおり<便覧>も良く読み、履修方法、課程修了認定、単位取得、出席要件などについての理解を深めておきましょう。

※シラバス集についての質問等は、道灌山学園保育福祉専門学校教務部へお願いします。

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担当教員名
保育内容指導法総論	必修科目	演習	2単位	単独	野尻 裕子
施行規則に定める科目区分	(教員養成課程)領域及び保育内容の指導法に関する科目 (保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが必要な事項等(教員養成課程)	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)				
授業のテーマ及び到達目標					
【授業のテーマ】 「環境を通じた教育」といわれる保育は、「遊びを通して総合的に指導する」ことが基本にあるため、そのことの意味を正しく理解することが必要である。また生きる力の基礎を培うための「幼児期に育ってほしい資質・能力」と各領域のねらい及び内容の関係についても理解し、子どもの育ちに応じて適切な学びが得られるような援助のあり方を具体的に考えることができるようにすることが求められる。					
【到達目標】 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 領域ごとに幼児が経験身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)につなげて理解する。 保育の多様な展開について具体的に理解する。					
授業の概要 本授業は幼児理解、指導計画立案、保育実践を行う上で重要な概念である「保育内容」について理解し、保育全体の構造を知ったうえで保育を進めることができる力を身に付ける。そのために、まず我が国における保育の歴史を概観し、現在の保育に求められているものの全体像を知る。その上で、子どもの育ちと遊びの関係や、保育を構成するものや人の重要性、保育のプロセス(PDCA)について具体的な事例を通して理解を深め、評価・改善の流れの中で保育の向上に取り組むという循環構造を知る。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	保育内容の基準(幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領)				
2	保育内容の歴史の変遷①(幼稚園の歴史と関連させて:昭和までの流れ)				
3	保育内容の歴史の変遷②(幼稚園の歴史と関連させて:平成以降の流れ)				
4	保育内容の歴史の変遷③(保育所の歴史と関連させて:昭和までの流れ)※1-①				
5	保育内容の歴史の変遷④(保育所の歴史と関連させて:平成以降の流れ)				
6	小学校との円滑な接続(10の力)※1-②				
7	子どもの生活と遊び				
8	保育者の様々な援助				
9	保育の記録(映像から読み取り、記述する)※3				
10	保育の計画①(長期の計画)				
11	保育の計画②(短期の計画と個別の計画)				
12	保育の計画③(立案と評価・改善)※1-③				
13	計画の実際と修正①(0歳児)※3				
14	計画の実際と修正②(1歳児)※3				
15	計画の実際と修正③(2歳児)※3				
16	計画の実際と修正④(3歳児)※3				
17	計画の実際と修正⑤(4歳児)※3				
18	計画の実際と修正⑥(5歳児)※3				
19	保育と年中行事				
20	子どもの育ちと園の行事				
21	子どもの学びを深める方法①(情報機器の導入)				
22	子どもの学びを深める方法②(自然現象を取り入れた活動)				
23	子どもの学びを深める方法③(飼育栽培活動)				
24	子どもの学びを深める方法④(ごっこ遊び)				
25	子どもの学びを深める方法⑤(からだを使った活動)				
26	保育の環境①(物的環境)				
27	保育の環境②(人的環境)				
28	保育における現代的課題と保育内容①(連携)				
29	まとめ(遊びを通して総合的に指導すること)、テスト※2				
30	保育における現代的課題と保育内容②(多文化共生)				
テキスト	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 2017年 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 2017年 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 2017年				
参考書 参考資料等	適宜、授業内で配布する				
学生に対する 評価	※1:小テスト3回(20%)、※2:期末テスト(40%)、※3授業内の課題ペーパー及び発表(30%)、及びリアクションペーパー(10%)				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
健康領域指導法	必修科目	演習	2単位	単独	吉村 眞由美
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)領域及び保育内容の指導法に関する科目 (保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	・保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
<p>授業のテーマ 子どもの心とからだの発達、遊びの持つ意義、生活習慣の獲得の過程と指導法を学ぶ。</p> <p>到達目標 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 当該領域の全体構造を理解し、ねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成・改善することができる。 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p>					
授 業 の 概 要					
<p>現在乳幼児の生活は、急速な社会状況の変化や価値観の多様化などにより、あまり健康的ではない方向へと変容している傾向がある。将来保育者として、子どもの置かれている状況と健康生活との調整ができるよう、子どもや保護者に対するよりよい対応をするための具体的検討を行う。</p>					
授 業 計 画					
授 業 内 容 等					
1	導入 健康分野の指導のねらい 健康な心とからだの育成1 課題発見個人ワーク				
2	健康な心とからだの育成2 指導法の検討、決定				
3	健康な心とからだの育成3 プレゼンテーションの作成				
4	基本的生活習慣の獲得(睡眠・運動あそび)1 課題発見グループワーク				
5	基本的生活習慣の獲得(睡眠・運動あそび)2 指導法の検討と討議、プレゼンテーションの作成				
6	基本的生活習慣の獲得(睡眠・運動あそび)3 プレゼンテーション				
7	基本的生活習慣の獲得(睡眠・運動あそび)4 質疑応答と振り返り				
8	基本的生活習慣の獲得(食事・排泄)1 課題発見グループワーク				
9	基本的生活習慣の獲得(食事・排泄)2 指導法の検討と討議、プレゼンテーションの作成				
10	基本的生活習慣の獲得(食事・排泄)3 プレゼンテーション				
11	基本的生活習慣の獲得(食事・排泄)4 質疑応答と振り返り				
12	健康で安全な生活を送る力の育成(衛生と安全指導)1 課題発見グループワーク				
13	健康で安全な生活を送る力の育成(衛生と安全指導)2 指導法の検討と討議、プレゼンテーションの作成				
14	健康で安全な生活を送る力の育成(衛生と安全指導)3 プレゼンテーション				
15	健康で安全な生活を送る力の育成(衛生と安全指導)4 質疑応答と振り返り 演習全体の総括				
テキスト	コンパス保育内容健康(前橋明編著、建帛社)				
参 考 書 参 考 資 料 等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)				
学生に対する 評 価	プレゼンテーションならびに課題レポート80% 総括レポート20%				

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担当教員名
人間関係領域指導法	必修科目	演習	1単位	単独	小藺江 幸子
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)領域及び保育内容の指導法に関する科目				
	(保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)				
授業のテーマ及び到達目標					
<p>授業のテーマ 幼児の人間関係を育てる指導計画の作り方 到達目標 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 当該領域の全体構造を理解し、ねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成・改善することができる。 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p>					
授業の概要					
<p>集団生活開始時における幼児と保育者の信頼感の成立のための指導計画、平行遊び、連合遊び、共同遊びの時期の活動におけるイメージの共有や協力し合うことの楽しさの共有など狙いに沿った指導計画の作成とそれを使っての模擬保育やロールプレイの実施、意見交換や検討をグループワークで行う。</p>					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	オリエンテーション。次回の集団生活開始(3歳)の出会いの保育場面の作り方についてイメージを出し合う。				
2	前回考えた出会いの保育場面について指導計画案を作成する。個人作業				
3	グループを編成し、前回作成した指導計画をロールプレイし合い、検討の結果を全体場面で共有する。				
4	平行遊びを楽しむ3歳の保育場面を予想し、具体的な遊びの取り上げ方についてイメージを出し合う。				
5	前回考えた平行遊びの指導や展開について指導計画案を作成する。個人作業				
6	グループを編成し、前回作成した指導計画をロールプレイし合い、検討の結果を全体場面で共有する。				
7	連合遊びが始まった幼児のイメージの共有を狙った遊びのと利上げ方についてイメージを出し合う。				
8	前回考えた連合遊びの指導や展開について指導計画案を作成する。個人作業				
9	グループを編成し、前回作成した指導計画をロールプレイし合い、検討の結果を全体場面で共有する。				
10	役割をとり協力し合って活動を進める共同遊びの活動のイメージを出し合う。運動会、劇遊び発表会など				
11	前回考えた共同遊びの指導や展開について指導計画案を作成する。グループワーク				
12	グループごとの指導計画案を基に模擬保育を実施する。意見交換と検討を全体で行う。				
13	異年齢集団での保育活動、小学生との共同活動、地域の方々との活動のイメージを出し合い、選ぶ				
14	前回のイメージを基にグループごとに指導計画案を作成する。				
15	グループごとに指導計画についてポスター発表の用意、説明する。全体的な総括をする。				
テキスト	保育内容人間関係(榎沢良彦・入江礼子、建帛社)				
参考書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)				
学生に対する 評価	指導計画案30% グループワーク30% 授業内小論文40%				

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担当教員名
環境領域指導法	必修科目	演習	1単位	単独	池田 幸代
施行規則に定める科目区分	(教員養成課程) 領域及び保育内容の指導法に関する科目 (保育士養成課程) 保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが必要な事項等(教員養成課程)	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)				
授業のテーマ及び到達目標					
<p>授業のテーマ 領域「環境」の意味を十分理解する。 子どもの発達段階に相応しいねらいを持った、保育の「環境」を保育者として構成する力を身につける。</p> <p>到達目標 幼稚園教育要領、保育所保育指針、教育・保育要領における教育・保育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 当該領域の全体構造を理解し、ねらい及び内容を踏まえ、子どもが経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 保育・教育における評価の考え方を理解している。 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成・改善することができる。 グループ討議とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p>					
授業の概要					
「遊びの中で」「環境を通して」学ぶ、保育の基本を踏まえて、具体的な実践例から、保育の環境を構成する力を身につける。領域「環境」について十分学び、実践する見通しを立てる。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	ガイダンス 授業の進行について 保育の環境 事例紹介①				
2	保育の環境 事例紹介②				
3	環境構成で変わる保育				
4	幼児期の言葉を育む環境				
5	幼児期の身体・思考力の土台を育む環境				
6	遊びを豊かにする環境				
7	身近な環境を知る 1校内散歩 指導案作成				
8	身近な環境を知る 1校内散歩 指導案発表				
9	身近な環境を知る 2近隣散歩 指導案作成				
10	身近な環境を知る 2近隣散歩 指導案発表				
11	乳児を育む環境				
12	現代の子どもを取り巻く情報環境－実践例から考える－				
13	子どもに適した保育環境 グループ討議				
14	子どもに適した保育環境 発表・総括				
15	レポート試験 講評				
テキスト	「学びを支える保育環境づくり」高山静子 小学館 2017年 「幼稚園教育要領<平成29年告示>」文部科学省 フレーベル館 2017年 「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館 2018年				
参考書 参考資料等	授業中に適宜資料を配布する。 幼保連携型認定こども園教育・保育要領, 保育所保育指針				
学生に対する 評価	レポート試験(70%)、グループ発表の内容(30%)				

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担当教員名
言葉領域指導法	必修科目	演習	1単位	単独	宮崎 信子
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)領域及び保育内容の指導法に関する科目				
	(保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)				
授業のテーマ及び到達目標					
<p>授業のテーマ 領域「言葉」の意味を十分理解する。 保育の場における「言葉」の育つ環境を保育者として構成する力を身に付ける。</p> <p>到達目標 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 領域「言葉」の全体構造を理解し、ねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 幼児が経験し身に付けていく領域「言葉」の内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 領域「言葉」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成・改善することができる。 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 領域「言葉」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p>					
授業の概要					
<p>幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえたうえで、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について理解を深める。さらに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現できる過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p>					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	はじめに 授業の進め方について／ことば遊び				
2	保育における「言葉」とは／なぞなぞ遊び				
3	幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「言葉」について／数字クイズ				
4	保育内容「言葉」の歴史的変遷／ことばのつながり遊び				
5	幼児教育と小学校教育との接続と言葉／ことばの階段遊び				
6	0歳児における保育実践／わらべ歌あそび				
7	1～2歳児における保育実践／ことば遊び				
8	3歳児における保育実践／ことばのリズム遊び				
9	4歳児における保育実践／おはなし作り				
10	5歳児における保育実践／標識や文字への関心を高める遊び				
11	環境としての保育者の言葉／数や図形への関心を高める遊び				
12	子どもと楽しむ「言葉遊び」を考える(指導案の作成)				
13	ドキュメンテーションの理解と活用・作成				
14	子どもの言葉を豊かにするための言語環境について				
15	幼児期の「言葉」をめぐる近代的課題				
テキスト	保育内容「言葉」乳幼児期の言葉の発達と援助(塩美佐枝・古川寿子編著/ミネルヴァ書房)				
参考書 参考資料等	幼稚園教育要領解説(平成30年3月文部科学省)・保育所保育指針解説(平成30年3月厚生労働省編)・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
学生に対する 評価	授業への参加度(発表・課題・提出物)(70%)、最終レポート(30%)				

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担当教員名
表現領域指導法Ⅰ (音楽)	必修科目	演習	2単位	単独	早川 史郎
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)領域及び保育内容の指導法に関する科目 (保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	・保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)				
授業のテーマ及び到達目標					
<p>授業のテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児が経験し身につけるべき音楽表現の内容を理解する ・幼児が日々の生活の中で経験する事柄とうたう歌との関わりを探る ・幼児の表現が豊かになるためのさまざまな事柄について考える ・歌の録音教材・ビデオの活用を考える <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領及び保育所保育指針における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 ・領域「表現」の全体構造を理解し、ねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 ・幼児教育における評価の考え方を理解している。 ・領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。 ・幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 ・各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。 ・指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成・改善することができる。 ・模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 ・各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。 					
授業の概要					
<p>幼児の一年の生活の流れに添った「うた」を選びそのうたが幼児の心・体・表現技能の発達や興味関心などどのように関わっていくかを分析し豊かな言葉かけと歌うことを中心としながら絵本・ペープサート・パネルシアター・紙芝居・人形などの視覚的動機づけを配慮して各自発表していく。その場合他の学生は幼児の役割として参加する保育実践演習の形態となる。</p>					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	領域「表現」についてのねらい及び内容を理解し幼児が身につけていくための指導のあり方を学ぶ				
2	幼児の音楽表現の特性を知り、その活動の内容を分析する				
3	音楽表現の基礎となる言葉や音の受容活動の重要性を理解する				
4	幼児の音楽表現への興味や関心をどう育てていくかを考える				
5	幼児の音楽活動を豊かにする感性と表現技術の育ちについて考える				
6	うたう活動によって幼児が身につけていくものは何かを考える				
7	幼児の日々の生活とうたう活動の接点を探る				
8	うたの教材の音楽性・ことばなどの分析を行い幼児との接点を探る				
9	幼児が表現する楽しさや喜びを感じる要因となるものは何かを分析し、情報機器の活用を考える				
10	幼児のうたう活動と動いて遊ぶ活動とのつながりを探る・動きの刺激となるCD音楽を聴く				
11	他者の表現を実感し認め、さらに自らの表現を豊かにしていく音楽活動とは				
12	うたの言葉・内容を表す世界を視覚的な働きかけで広げていくには				
13	幼児の歌う活動から広がる楽器の表現技術をどう育てていくのか				
14	幼児の心を動かすような保育者の表現技能はどう育てていくのか				
15	日本の子どもの歌の歴史を遡り、その変化・変遷から学ぶ				
16	幼児のうたを教材とした保育を想定し、指導案を作成して模擬保育を行う				
17	幼児の音楽表現活動のさまざまな形態を映像で見て学ぶ				
18	今まで分析して学んだことを基にして幼児の一年の生活に沿ったうたを選択し分析して模擬保育を行う				
19	「とだちいっぱい」歌いながら園生活での友だちや先生との関わりを深める「せみせいとともだち」「あしゅでこんには」				
20	「動物となかよし」幼児にとって身近な動物のうたをうたって、その生態などに興味をもつ・動物の生態DVDを観る				
21	「花の歌をうたう」いろいろな花の形や色・咲く時期をうたいながら感性を養う「おはながわらった」「たんぼぼさん」				
22	「生活・行事のうた」園でのさまざまな行事のうたをうたい、一年の時の流れを感じる「おかあさん」「思い出のアルバム」				
23	「あめすきらい」雨の時期の自然や動物たちに興味をもつうた「あめふりくまのこ」「雨さんこんには」				
24	「ヤッホッホッ夏休み」夏の楽しい生活を想像しながら歌ったり踊ったりする CD・DVDを用いて曲を選択する				
25	「すきなものなあに」幼児の好きな食べ物のうたをうたい、友達と食べ物の好き嫌いについて話し合う				
26	「うたってすごい」手遊び歌や動きの表現あそびをみんなで考えてみる。「おかあさんといっしょ」DVDを参考に考える				
27	「楽器であそぼう」楽器遊びに移行できるようなりズミカルな曲を探す・「口笛吹きと小犬」などの鑑賞曲をCDで聴く				
28	「劇遊びしましょう」幼児の知っている物語を演じてあそぶ・クラシックのCDを聴いて劇場面を想像する				
29	この模擬保育が指導計画に沿って豊かに行われたか検証する				
30	この模擬保育が幼児の表現したい気持ちを刺激し、感性の育ちを見ることできたか考える				
テキスト	「幼児の四季」春夏の歌・秋冬の歌(エーティーエヌ) 「こどものうた200」(チャイルド本社)				
参考書 参考資料等	「現代子どものうた1,000曲シリーズ」全十巻(エーティーエヌ)、NHK教育テレビ「おかあさんといっしょ」DVD・CD、「幼稚園教育要領」(2017.3告示文部科学省)、「保育所保育指針」(2017.3告示厚生労働省)、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
学生に対する 評価	・模擬保育における幼児への言葉かけ・言葉の選択と響き・表情(30%) ・曲に関わる創作物の適否・効果(30%) ・うたう表現技能・ピアノ伴奏技能及び音楽性と適時性(40%)				

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担当教員名
表現領域指導法Ⅱ (絵画・造形) ※略画・折紙を含む	必修科目	演習	2単位	単独	松井 素子
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)領域及び保育内容の指導法に関する科目 (保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)				
授業のテーマ及び到達目標					
<p>授業のテーマ 幼児造形教育の基礎的な知識、技能を演習によって習得し、子どもたちに発想力・構想力・創造力を育ませ、自分たちなりの造形表現や鑑賞活動へ導く実践指導力を身に付ける。</p> <p>到達目標 幼児造形教育における「表現」領域の内容と目標、全体構造を理解できる。 造形表現活動を通して、各発達段階ごとに幼児が身に付けていく資質・能力を理解できる。 造形表現活動における評価の考え方を理解できる。 領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解することができる。 各領域の特性や幼児の体験と造形表現の関連を理解し、保育の構想に活用することができる。 造形表現の指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成・改善することができる。 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けることができる。 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想の向上に取り組むことができる。</p>					
授業の概要					
保育における造形活動の中でも特に基礎的な技法を中心とした制作を行う。さまざまな素材や表現方法について制作を通して理解し、基礎的な造形力を習得する。また、表現することの良さや楽しさを実感して、子どもの表現活動の過程に共感する感性を育むことを目指すが、保育者の役割を常に意識しながら取り組み、他者の作品を見て共感することで自分自身の感性の幅を広げて実践に活かしてほしい。					
授業計画					
授業内容等					
1	「表現」領域の考え方と幼児の造形表現活動：材料や場、道具との出会い				
2	春の行事と造形表現活動①【平面】「版を使った桜と春の草花」・「春のちぎり絵」				
3	春の行事と造形表現活動②【立体】「春を主題にした折り紙：カーネーションの初級・中級」				
4	春の行事と造形表現活動③【共同制作】「折り紙と版を使った桜並木の壁面装飾」				
5	幼児の造形表現活動：材料や場、道具との出会い①【平面】：クレヨン画と色鉛筆「母の日」と「父の日」				
6	初夏の行事と造形表現活動①【平面】「紙版を使った鯉のぼり」・「デカルコマニーによる昆虫」・「初夏の略画」				
7	初夏の行事と造形表現活動②【共同制作】「折り紙と版、紫陽花のちぎり絵を使った壁面装飾」				
8	初夏の行事と造形表現活動③【立体】「折り紙：兜・鯉のぼり・紫陽花」				
9	幼児の造形表現活動：材料や場、道具との出会い②絵の具による造形遊び：「色水作りと光透過性」				
10	幼児の視覚イメージ①【平面】：造形で表現する物語と物語絵				
11	幼児の造形表現活動：材料や場、道具との出会い③クレヨンと絵の具による「パティック技法」				
12	夏の行事と造形表現活動①【平面】「紙版・パティック技法・スクラッチ技法による花火」・「夏の略画」				
13	夏の行事と造形表現活動②【立体】「七夕飾りの紙細工：折り紙：朝顔・ヨット他・初級・中級」				
14	夏の行事と造形表現活動③【共同制作】「折り紙と版による海辺の花火の壁面装飾」				
15	折り紙を用いた切り紙工作：折り紙作品を用いた前期のまとめ「折り紙アルバム」の提出				
16	幼児の視覚イメージ②【立体】粘土：「おいしいものをたくさんつくろう！」「すきなどうぶつ、たくさん！」				
17	幼児の視覚イメージ③【立体】人工物(身近廃材)による工作：「いつもそばにいるよ！」				
18	秋の行事と造形表現活動①【平面】「落ち葉のこすり出しと落ち葉を使った版表現」・「秋の略画」				
19	秋の行事と造形表現活動②【立体】「折り紙：どんぐり・栗他・初級・中級」				
20	秋の行事と造形表現活動③【共同制作】「折り紙と版による紅葉の並木道の壁面装飾」				
21	幼児の造形表現活動：材料や場、道具との出会い③【立体】自然物(落ち葉・小枝・実など)による工作				
22	幼児の視覚イメージ④【立体】「とびだすカードでつたえたいこと」				
23	冬の行事と造形表現活動①【平面】「落ち葉のこすり出しと落ち葉を使った版表現」・「冬の略画」				
24	冬の行事と造形表現活動②【立体】「折り紙：サンタクロース他・初級・中級」・「紙袋の鬼」・「紙粘土雪だるま」				
25	冬の行事と造形表現活動③【共同制作】「折り紙と版、ちぎり絵による冬の並木道の壁面装飾」				
26	幼児の造形表現活動：材料や場、道具との出会い④【平面構成】「にじみとローラーですてきなまよう！」				
27	幼児の視覚イメージ⑤【言葉とイメージ】：実習で使える絵本・紙芝居を作ろう				
28	行事を豊かに：造形表現活動を活かした共同的・創造的な行事の計画と実践：折り紙と略画の研究				
29	総合的な造形表現活動：ICT活用を含む造形表現活動の計画と実践：折り紙と略画の研究				
30	ICTの活用、協働学習を含む幼児造形表現活動実践研究をまとめた「レポート課題」の提出				
テキスト	必要に応じてプリント等を配布する。				
参考書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
学生に対する 評価	学習への意欲や態度(40%)、各授業のレポート課題と学習記録(60%)				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
教職概論(幼) 保育者論(保)	必修科目	講義	2単位	単独	森藤 才
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)教育の基礎的理解に関する科目 (保育士養成課程)保育の本質・目的に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校への対応)				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
<p>授業のテーマ</p> <p>教職・保育職を目指す者として、必要な法令、制度、社会規範・倫理等の概要を知り、教職・保育職の役割を理解し、その使命感と自覚を高め、専門性のある信頼される保育者となる重要性を認識させる。また、チーム学校・保育に関わる連携・協働や資質向上とキャリア形成について理解させる。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公教育や保育の目的とその担い手である教員の存在意義を理解している。 ・進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職の職業的特徴を理解している。 ・教職観の変遷を踏まえ、今日の教員・保育士に求められる役割を理解している。 ・今日の教員に求められる基礎的な資質能力を理解している。 ・幼児、児童及び生徒への指導及び指導以外の校(園)務を含めた教員の職務の全体像を理解している。 ・教員研修の意義及び制度上の位置付け並びに専門職として適切に職務を遂行するため生涯にわたって学び続けることの必要性を理解している。 ・教員に課せられる服務上及び身分上の義務及び身分保障を理解している。 ・校(園)内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。 ・保育者の役割と倫理について理解する。 ・保育士の制度的な位置づけを理解する。 ・保育士の専門性について考察し、理解する。 ・保育者の連携・協働について理解する。 ・保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。 					
授 業 の 概 要					
<ul style="list-style-type: none"> ・教職・保育職の意義及び教員の役割を知り、その特質を理解する。 ・教員・保育士の職務内容、服務、研修等について知り、職業人となる心構えを培う。 ・教育・保育課題等を理解し、求められる基本的な資質や能力を自ら高める姿勢を育てる 					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	はじめに 教職観・保育者観の変遷と身分保障等				
2	教職・保育職の意義と専門職として身に付けること				
3	教員・保育士の役割と教育職・保育職としての社会的立場と法令				
4	求められる教員・保育士の資質能力と望まれる教師像・保育士像				
5	服務規律と分限・懲戒				
6	勤務と職務内容及びチーム学校・保育に関わる連携・協働				
7	今日的教育課題・保育課題				
8	教育・保育目標と教育課程・保育の計画				
9	幼稚園教育要領・保育所保育指針と指導計画・評価				
10	教員に求められる4つの力 -学習指導(保育)力-				
11	教員に求められる4つの力 -生活指導力・進路指導(小学校との繋がり)力-				
12	教員に求められる4つの力 -外部との連携・折衝力-				
13	教員に求められる4つの力 -学校経営力・組織経営力-				
14	専門性の向上と職務としての研修 -資質向上とキャリア形成- テスト				
15	まとめ 幼稚園・保育園の一日 進路・就職と採用試験について等				
テキスト	『教職概論・保育者論(七訂版)』 森藤 才著 道灌山学園保育福祉専門学校印刷・頒布				
参 考 書 参 考 資 料 等	<ul style="list-style-type: none"> ・『幼稚園教育要領<平成29年告示>』 文部科学省 フレーベル館 2017年 ・『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館 2018年 ・『保育所保育指針』 厚生労働省 フレーベル館 ・『保育所保育指針解説』 厚生労働省 フレーベル館 ・『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領』 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 ・『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 				
学 生 対 する 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・講義時の発問に対する回答内容による意欲・知識・理解の程度(10%) ・レポートの記述内容と論理性及び文章力(40%) ・テストの成績(50%) 				

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担当教員名
教育社会学(幼) 教育と福祉(保)	必修科目	講義	2単位	単独	宮島 直丈
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)教育の基礎的理解に関する科目 (保育士養成課程)保育の本質・目的に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)				
授業のテーマ及び到達目標					
<p>授業のテーマ 我が国及び諸外国の教育事象を、教育社会学の知見で読み解き理解することを通して、近代以降の我が国教育システムの課題と問題点、教育事象の社会的構成構造を明らかにする。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校(園)を巡る近年の様々な状況の変化を理解している。 ・子供の生活の変化を踏まえた指導上の課題を理解している。 ・近年の教育政策の動向を理解している。 ・諸外国の教育事情や教育改革の動向を理解している。 ・地域と連携・協働による学校教育活動の意義及び方法を理解している。 ・地域との連携を基とする開かれた学校(園)づくりが進められてきた経緯を理解している。 ・学校(園)の管理下で発生する事件、事故及び災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校(園)安全の必要性について理解している。 ・生活安全、交通安全、災害安全の各領域や我が国の学校(園)をとりまく新たな安全上の課題について、安全管理および安全教育の両面から具体的な取組を理解している。 					
授業の概要					
「社会学的想像力」(C.W.ミルズ)を用いて、教育の世界を読み解きながら、教員として必要な相対的、総合的思考を涵養する。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	講義ガイダンス「教育社会学」概説 講義根拠科学としての「教育社会学」概説				
2	教育とgender ヒトから人へ 文化と社会化 「嫡出の推定」なぜ「女子大」あるのか？				
3	少子化社会の家族と教育 家族の形成 近親婚の禁忌 「民法」に見る家族				
4	地域社会と教育事象 我が国地域社会の変化と地域の教育力 地域社会の組織としての「学校」				
5	「教育病理」の諸相 「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」				
6	「児童虐待」の教育社会学 ①児童虐待の定義、社会的背景、歴史、現状と課題について学ぶ。				
7	「児童虐待」の教育社会学 ②児童虐待の定義、社会的背景、歴史、現状と課題について学ぶ。				
8	「児童虐待」の教育社会学 ③まとめ 「児童虐待」は本当に増加しているのか？				
9	「いじめ」の教育社会学① 「いじめ」の現場 「いじめ」の構造				
10	「いじめ」の教育社会学② 「いじめ」の社会的背景 「いじめ」への取り組み				
11	「入試・選抜」の教育社会学① 「学歴社会」は果たして本当に存在するのか？ 「学歴」とは何か				
12	「入試・選抜」の教育社会学② 「努力の階層性・不平等問題」学歴とメリトクラシー				
13	国際社会の中の我が国教員 「国際教員指導環境調査」(TALIS)				
14	我が国の教育政策 「教育改革」はなぜ失敗するのか？ 国家、政策と教育事象				
15	授業まとめー「教育社会学」を学んでー 定期試験				
テキスト	テキストは使用しない。「PowerPoint集成」板書等中心。				
参考書 参考資料等	随時印刷物等の資料を配布する。 オフィスアワー(13:00～17:00) 幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)				
学生に対する 評価	定期試験(70%)、出欠席状況(30%)にて評価する。				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
発達心理学Ⅰ(幼) 保育の心理学(保)	必修科目	講義	2単位	単独	野原 将英
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)教育の基礎的理解に関する科目				
	(保育士養成課程)保育の対象の理解に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
<p>授業のテーマ 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。 ・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。 ・保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 ・子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 ・乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。 					
授 業 の 概 要					
心身の発達過程について基礎的な知識を習得し、発達の特徴を踏まえた視点から子どもへの理解を深める。乳幼児期から青年期の身体・運動、知覚、情緒、認知、社会性などの発達について学ぶ。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	発達とは - 遺伝と環境、生涯発達-				
2	発達の原理 - 分化と統合 -				
3	身体・運動機能の発達 - 神経系の発達、原始反射と随意的な活動 -				
4	知覚の発達 - 視覚・聴覚の発達 -				
5	情緒の発達 - 感情の発生と発達 -				
6	愛着と親子関係 - 愛着の形成と親との関わり -				
7	認知の発達 - 思考の発達、ピアジェの認知発達理論 -				
8	ことばの発達 - コミュニケーションの発達、内言と外言 -				
9	知的機能の発達 - 記憶の発達、学習と動機づけ -				
10	発達障害の理解と支援 - 知的能力障害、LD、ADHD、ASD -				
11	社会性の発達 - 心の理論、道徳性の発達 -				
12	自我の発達 - 自律と自己概念 -				
13	遊びの発達 - 遊びの理論と特性 -				
14	児童期～青年期の発達 - 社会的かかわりとアイデンティティ -				
15	定期試験、乳幼児期から青年期における心身の発達についてのまとめ				
テキスト	なし				
参 考 書 参 考 資 料 等	『ベーシック発達心理学(開一夫・齋藤慈子編 東京大学出版会)』、『図でわかる発達心理学(新井邦二郎編著 福村出版)』、幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
学生に対する 評 価	定期試験(80%)、授業中の態度(20%)により評価する				

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担当教員名
発達心理学Ⅲ(幼) 子どもの理解と援助(保)	必修科目	演習	1単位	単独	小藺江 幸子
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)教育の基礎的理解に関する科目				
	(保育士養成課程)保育の対象の理解に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程				
授業のテーマ及び到達目標					
<p>授業のテーマ 保育の質を分ける子ども理解の姿勢</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。 ・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。 ・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。 ・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解している。 ・幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解している。 ・保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 ・子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 ・子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 ・子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。 					
授業の概要					
主な発達理論を身体的・社会的・心理的側面から学び、認知的・社会的に学習理論を学ぶ。後半は事例をもとに分析的視点も養う。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	発達における生得的要因、環境的要因、心理的要因についてロック、ルソー、シュテルンの理論を軸に学ぶ				
2	運動発達について胎生期から就学期までを見通す。				
3	認知的発達について新生児期から青年期までを見通す。ピアジェの理論を軸に学ぶ。				
4	社会性の発達について乳児期から青年期を見通す。エリクソン、パーテン、コールバーグの理論を軸に学ぶ				
5	言語発達について乳児期から就学期を見通す。シュテルン、チョムスキーの理論に触れる。				
6	学習の基礎となる条件付け、社会的学習のタイプとしてのモデリング、代理経験などについて学ぶ。				
7	学習のメカニズムとしての動機付け、集団と個の相互作用について学ぶ。				
8	個人差と発達のかたより、特別な配慮を必要とする事例について学ぶ。				
9	子ども理解の方法としての関わり(実践)、記録、省察、討論、想像力活性のための方略について学ぶ				
10	子ども理解の事例1 内発的動機付けからの理解				
11	子ども理解の事例2 保育者の想像力不足の反省				
12	子ども理解の事例3 発達の偏りの理解				
13	子ども理解の事例4 想像力の不足に起因する社会性やパーソナリティーの問題				
14	子ども理解の事例5 自我の斉一性、アイデンティティのもとになる孤独感の例 確認的小テスト実施				
15	総合的まとめ 提案された新事例をもとに小論文を作成しながら総合的に振り返る予定である。				
テキスト	よくわかる保育心理学(鯨岡峻、ミネルヴァ書房)				
参考資料	よくわかる発達心理学(ミネルヴァ)、教育心理学-保育者を目指す人へ-(樹村房) 幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)				
学生に対する 評価	小テスト50% 平常点20% 小論文、提出物30%				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
特別支援教育概論(幼 障害児保育(保))	必修科目	演習	2単位	単独	森藤 才
施行規則に定める各科目 区分又は事項等	(教員養成課程)教育の基礎的理解に関する科目 (保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 「共生社会における特別支援教育の在り方」及び「個々の幼児の障害特性に基づく保育における支援」の方法 について理解を深める。					
到達目標 ・インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解している。 ・発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理 的特性及び学習の過程を理解している。 ・視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上 又は生活上の困難について基礎的な知識を身に付けている。 ・発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法 について例示することができる。 ・「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解している。 ・特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別的教育支援計画を作成する 意義と方法を理解している。 ・特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解して いる。 ・母国語や貧困の問題等により障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は 生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解している。 ・障害児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。 ・個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。 ・障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理 解する。 ・障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。 ・障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。					
授 業 の 概 要					
特別な支援を要する子ども(幼児)の理解と支援方法を中心に、その子どもを取り巻く生活・教育環境、特別支 援教育の理念等を含めて障害児保育の基礎的知識を学習する。特に、保護者・関係機関との連携、事例に基 づく個別の指導計画の作成などは、グループによる検討・発表、体験的な学習など授業形態の授業を通して、 保育現場で活用できる実践的・専門的指導・支援力を身に付ける。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	障害児保育の概要について(障害者を取り巻く環境【生活、福祉、法制度】等)				
2	障害児・者の教育に関する歴史の変遷 (学制発布前から特殊教育そして特別支援教育へ)				
3	インクルーシブ教育と合理的配慮 (共生社会、多様な学び場の整備、障害者差別解消法等)				
4	障害児の早期教育と療育及び関係機関との連携(早期発見及び早期教育・療育)				
5	障害児のための学校教育(学校教育制度と卒業後の障害児将来像について)				
6	視覚障害児の理解と保育について(視覚障害の特徴及び支援・配慮の方法について)				
7	聴覚障害児の理解と保育について(聴覚障害の特徴及び支援・配慮の方法について)				
8	肢体不自由児の理解と保育について (肢体不自由の特徴及び支援・配慮の方法について)				
9	知的障害児の理解と保育について①(知的障害の特徴及び支援・配慮の方法について)				
10	知的障害児の理解と保育について②(知的障害児の保育について:グループ討議)				
11	病弱・身体虚弱児の理解と保育について(病弱・身体虚弱の特徴及び支援方法について)				
12	様々な障害を体験しよう(アイマスク(視覚障害)、車いす(肢体不自由)等)				
13	情緒障害児・言語障害児の理解と保育について(支援・配慮の方法について)				
14	重複障害児・医療的ケア児の理解と保育について(具体的な支援と主治医との連携について)				
15	自閉症児の理解と保育について(自閉症スペクトラムの特徴及び支援・配慮の方法について)				
16	LD(学習障害)児の理解と保育について(LD児の特徴及び支援・配慮の方法について)				
17	ADHD(注意欠陥多動性)児の理解と保育について(ADHD児の理解と保育について)				
18	発達障害の子どもへの具体的な支援について(アプローチの方法を考えてグループ討議)				
19	多様な支援を必要とする乳幼児の理解と保育について(日本語を母語としない子ども、被虐待児等の対応、貧困家庭児等)				
20	保護者や家族に対する理解と支援①(保護者の兄弟姉妹の障害受容に焦点を当てて)				
21	保護者や家族に対する理解と支援②(就学に向けての事例をもとにグループ協議)				
22	個別の指導計画と個別的教育支援計画の意義と作成手順の理解について				
23	事例課題に基づく個別の指導計画と個別的教育支援計画の作成と指導・支援方法の検討				
24	個別の指導計画と個別的教育支援計画の活用方法(評価と記録方法を含む)				
25	障害のある乳幼児の発達と環境(発達を促すための生活及びあそび環境の工夫)				
26	障害児の就学相談について(小学校との接続)				
27	地域の専門機関・関係機関との連携				
28	子ども同士の関わり合い(統合保育・分離保育・並行通園等の様々な形態と育ちの過程)				
29	障害児保育のあり方について(職員間の協働と組織としての保育環境整備について)				
30	障害児保育の現状と課題(共生社会の実現を支える幼稚園教諭・保育士の心構え)				
テキスト	特別支援教育概論・障害児保育(三訂版、森藤 才著)				
参考書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教 育・保育要領(2017.3告示)				
学生に対する 評価	定期試験(50%)、授業参加点(30%)、レポート提出(20%)の割合で総合的に判断する。				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
子育て支援	必修科目	2単位	単独	吉濱 優子
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)教育の基礎的理解に関する科目			
	(保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目			
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	指導法及び教育相談等に関する科目			
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標				
<p>授業のテーマ ・「子育て支援」の考え方を様々な方面から考え、保育者としてどのように対応していくか、「専門性を生かした対応」とはどういうことか、現代社会の実際を踏まえたそれぞれの事例を通して学びながら、問題のとらえ方・対応方法などについて考えていく。保育現場の実際例を通して「保育の今」を知り、より実践的な学びを深める。</p> <p>到達目標 ・保育者の行う保育の専門性を背景にした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に理解する。 ・保育者の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解し、実践技術に活かす。</p>				
授 業 の 概 要				
<p>社会の変化や価値観の多様化により、子どもが健全に育つべき家庭の姿の変容が著しい。家庭の教育力の低下も問題になっており、子育てを支える「社会の役割」は大きく、その中核となる保育機関への期待やその使命等を理解し、教科書による知識の習得と「現場の実際」を踏まえたより実践的な学びを深めていく。</p>				
授 業 計 画				
回数	授 業 内 容 等			
1	オリエンテーション(授業内容・授業の進め方・評価等) 子どもの保育とともに行う保護者支援			
2	日常的なかかわりを通じた保護者との相互理解			
3	保護者や家族の抱えるニーズへの気づきと多面的な理解			
4	子ども及び保護者の状況・状態の把握			
5	支援の計画と環境の構成 支援の実践・記録・評価・カンファレンス			
6	職員間の連携・協働			
7	社会資源の活用と自治体関係機関や専門職との連携と協働			
8	保育所における子育て支援			
9	地域の子育て家庭とひとり親家庭への支援			
10	障害のある子ども及び家庭に対する支援			
11	特別な配慮を要する子どもと家庭への支援～発達障害児～			
12	子ども虐待の予防と支援			
13	要保護児童等の過程への支援～DV家庭～			
14	多様なニーズを抱える子育て家庭への支援～貧困家庭～			
15	まとめ 実践に向けての一步「保育実習オリエンテーション」			
テキスト	「基礎から学ぶ 子育て支援の実際」(太田敬子・檜垣昌也 編著)[大学図書出版]			
参 考 書 参 考 資 料 等	幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)			
学生に対する 評 価	授業終了後の課題提出・小テスト(50%)・授業態度と授業に臨む積極性(50%)			

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担当教員名
幼児理解の理論・方法と教育相談	必修科目	演習	2単位	単独	向山 陽子
施行規則に定める科目区分	(教員養成課程) 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目				
	(保育士養成課程) 保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが必要な事項等(教員養成課程)	・幼児理解の理論及び方法 ・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法				
授業のテーマ及び到達目標					
<p>授業のテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達の視点からの幼児及び子育てするものへの理解 <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児理解における観察と記録の意義を理解する。 ・幼児の心身の状態を、発達の視点、周りの幼児との関係、社会的背景から理解する。 ・受容、傾聴、共感的理解等のカウンセリングマインドの姿勢を理解する。 ・特別な支援ニーズを持つ子どもとその保護者への理解に努める。 ・いじめ、不登校(園)、虐待等の相談に関する留意事項を理解する。 ・地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義と必要性を理解する。 					
<p>授業の概要</p> <p>教科書を読み解きながら、実際の事例を元に、幼児理解の実際と教育相談に必要な基礎知識を理解する。保育現場の映像を視聴し、子ども理解を深め、保護者からの相談に応える演習を積む。</p>					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	はじめに				
2	保育における子ども理解の意義				
3	「発達」を促進する環境				
4	子どもの発達を理解する方法				
5	子ども理解を深める保育記録				
6	子ども理解を生かした省察と評価				
7	環境を通じた遊びと学び				
8	運動と身体感覚				
9	言葉と文字				
10	数と数量感覚				
11	インフォーマル算数とその援助				
12	個性の育ち				
13	仲間関係の育ち				
14	クラス集団の育ち				
15	特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助				
16	家庭との連携を通じた子ども理解と援助				
17	特別なニーズを持つ家庭との連携・協働				
18	保育者間の連携を通じた発達援助				
19	発達と学びの連続性				
20	就学に向けての実際と支援				
21	保育における教育相談の意義				
22	子ども理解の理論と方法				
23	保幼小の接続に向けて～評価についてのとらえ方の違いを共有する～				
24	保幼小連係の接続期支援と子どもの理解				
25	カウンセリングの基礎理論				
26	保育の場で行う教育相談と園内体制				
27	開発的・予防的カウンセリングの理解と方法				
28	多様なニーズのある子どもの教育相談と支援体制				
29	家族への支援と地域における専門家との連携や制度の活用				
30	試験・まとめ				
テキスト	『子どもの理解と援助』 飯島典子・本郷一夫編著 建帛社 2023				
参考書 参考資料等	・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 ・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領「解説」				
学生に対する 評価	試験70%、小テスト・リアクション・ペーパー20%、出席・態度10%				

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担当教員名
教育・保育実習指導Ⅰ	必修科目	演習	2単位	オムニバス	池田幸代 宮崎信子
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)教育実践に関する科目 (保育士養成課程)保育実習				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	教育実習				
授業のテーマ及び到達目標					
<p>授業のテーマ 一連の実習における意義を理解し、実習での教育・保育理解を深めるための態度・知識・技術などの習得を目指す。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育・保育実習の意義・目的を理解する。 ・実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 ・幼稚園・保育所の役割、機能、日々の保育の流れを理解する。 ・意欲的かつ積極的に事前準備を行うことができる。 ・子どものかかわりを通して子どもに対する理解を深め、適切な関わりについて学ぶ。 ・実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 ・実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 ・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。 					
授業の概要					
<p>実習の意義と目的を理解し、その学びより自分の実習の目的を明確にする。 実際の保育に即した実習日誌の書き方を学び、確実に身に着ける。</p>					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	オリエンテーション 授業の進め方、評価の方法について				(池田幸代)
2	実習の意義と目的、実習スケジュールについて				(池田幸代)
3	保育園の一日の流れ				(池田幸代)
4	実習記録の取り方①記録の意義				(池田幸代)
5	実習記録の取り方②一日の流れ				(池田幸代)
6	実習記録の取り方③子ども理解と保育者に対する気づき				(池田幸代)
7	保育所実習の準備①基本的なマナーと実習の種類				(池田幸代)
8	保育所実習の準備②園の種類と実習園の選択				(池田幸代)
9	保育所実習の準備③書類の書き方				(池田幸代)
10	保育所実習の準備④オリエンテーションについて				(池田幸代)
11	発達の違いと子どもとの関わり方				(池田幸代)
12	指導案の作成(絵本の読み聞かせ)				(池田幸代)
13	模擬保育(絵本の読み聞かせ)				(池田幸代)
14	指導案の作成(制作物・ルールのある遊び)				(池田幸代)
15	模擬保育(制作物・ルールのある遊び)				(池田幸代)
16	幼稚園・保育所・認定こども園の理解と実習について				(宮崎信子)
17	教育実習(幼稚園)について				(宮崎信子)
18	幼稚園の1日の流れ				(宮崎信子)
19	指導案の理解①「作ったもので遊ぶ」				(宮崎信子)
20	指導案の理解②「集団ゲーム」				(宮崎信子)
21	模擬保育				(宮崎信子)
22	子どもの人権・実習生として守るべきこと				(宮崎信子)
23	指導案の理解③「リズム遊び」・模擬保育				(宮崎信子)
24	支援を要する子どもの理解				(宮崎信子)
25	幼児期の終わりまでに育てほしい姿について				(宮崎信子)
26	遊びからの学び「身近な素材を使って」				(宮崎信子)
27	伝承遊びについて				(宮崎信子)
28	実習前に確認しておくべきこと				(宮崎信子)
29	保育者としての専門性				(宮崎信子)
30	実習からの学びと次の実習へのステップ				(宮崎信子)
テキスト	『成長し続ける教育・保育実習』教育情報出版 『3つのかべを乗り越える！保育実習リアルガイド』学研教育みらい				
参考書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)				
学生に対する 評価	提出物(30%)、授業内課題(50%)、模擬保育(20%)による総合評価				

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	単位数	授業方法	担当教員名
教育実習	必修科目	I部2単位 II部4単位	実習	宮崎 信子
施行規則に定める各科目区分又は事項等	(教員養成課程)教育実践に関する科目 (保育士養成課程)大学が独自に設定する科目			
各科目に含めることが必要な事項等(教員養成課程)	教育実習			
授業のテーマ及び到達目標				
到達目標 ・教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。 ・教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解している。 ・幼児、児童又は生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。 ・指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実即して記録することができる。 ・教育実習園の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。 ・学級担任や教科担任等の補助的な役割を担うことができる。 ・幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。 ・保育に必要な基礎的技術(話法・保育形態・保育展開・環境構成など)を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。 ・学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解している。 ・様々な活動の場面で適切に幼児と関わるることができる。				
教育実習実施計画				
教育実習の内容及び成績評価等				
①教育実習の時期 幼稚園教員・保育士養成科第I部2年次 5月上旬～5月下旬、または、11月上旬～11月下旬 幼稚園教員・保育士養成科第II部2年次 5月上旬～5月下旬、11月上旬～11月下旬				
②教育実習の実習期間・総時間数 幼稚園 I部 2週間(90時間) II部 4週間(180時間)				
③実習校の確保・方法 養成校が指定する幼稚園及び実習生が希望する実習園から選び内諾を得る。				
④教育実習内容 指定期間内に、観察実習・参加実習・部分実習・責任実習を必ず実施する。 ○観察実習; 幼児の様子を観察・記録し、実態や一日の流れを学ぶ。 ○参加実習; 実習園学級担任と幼児の活動に参加し、学級担任の役割や配慮、環境構成などを学ぶ。 ○部分実習; 実習生が部分実習指導計画案を立案し学級担任から指導を受け、活動の一部分(歌唱指導・制作指導・レクリエーション活動等)を担当し実施する。 ○責任実習; 実習生が責任実習指導計画案を立案し学級担任から指導を受け、登園から降園までの1日の活動を担当し実施する。 園長・主任教員等より、幼稚園の運営方針や教育活動の特色、職員体制や地域との関わりなどを学ぶ。幼児降園後の教職員の職務内容を理解する。				
⑤教育実習生に対する指導の方法 ○実習講義I・II・IIIとして、実習を体験した学生からの発表を聞き、自身の実習の参考にする。 ○実習前に、担当教員が事前指導を行い、課題の確認や準備について面接する。 ○指導教員が実習園へ巡回指導を行い、実習進行状況の確認を行う。教育実習期間中、実習生からの相談・報告等を受けられるよう態勢を整える。 ○実習後、実習を通しての学びや今後の課題などについて担当教員と振り返りをする。				
⑥教育実習の成績評価(評価の基準及び方法) 実習園からの実習評価書、担当教員の評価、実習記録簿の記録状況等を総合的に評価し、実習運営委員会において成績評価を行う。				
参考書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示) 『成長し続ける教育・保育実習』教育情報出版『保育実習リアルガイド』学研教育みらい			

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担当教員名
教育実践演習(幼) 保育実践演習(保)	必修科目	演習	2単位	クラス分け	宮崎 信子 和田 珠実
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)教育実践に関する科目 (保育士養成課程)総合演習				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	教職実践演習				
履修 時期	2年次 前期・後期	履修履歴の把握	○	学校現場の意見聴取	○
受講者数 88人(2クラス) ・I部幼稚園教員・保育士養成科Aクラス44名、①グループ(22名) ・I部幼稚園教員・保育士養成科Aクラス44名、②グループ(22名) ・I部幼稚園教員・保育士養成科Bクラス44名、①グループ(22名) ・I部幼稚園教員・保育士養成科Bクラス44名、②グループ(22名)					
教員の連携・協力体制 ・担当教員2名の協力体制で実施。					
授業のテーマ及び到達目標					
本授業のテーマ 保育者としての自覚を持ち、「幼児期に育てたい資質・能力」について理解し、そのために一人ひとりの子どもの育ちを保障するために、多様な経験に対する援助を適切に行うことができる専門職を目指す。					
到達目標 ・教育に対する使命感や情熱を持ち、常に子どもから学び、共に成長しようとする姿勢が身に付いている。 ・高い倫理観と規範意識、困難に立ち向かう強い意志を持ち、自己の職責を果たすことができる。 ・子どもの成長や安全、健康を第一に考え、適切に行動することができる。 ・保育者としての職責や義務の自覚に基づき、目的や状況に応じた適切な言動をとることができる。 ・組織の一員としての自覚を持ち、他の教職員と協力して職務を遂行することができる。 ・保護者や地域の関係者と良好な人間関係を築くことができる。 ・子どもに対して公平かつ受容的な態度で接し、豊かな人間的交流を行うことができる。 ・子どもの発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、適切な指導を行うことができる。 ・子どもとの間に信頼関係を築き、学級集団を把握して、規律ある学級経営を行うことができる。 ・保育内容5領域の内容を理解しているなど、幼児教育の基本的事項を身に付けている。 ・言葉かけ、表情など保育を行う上での基本的な表現力を身に付けている。 ・子どもの発達状況に応じて、指導計画や教材活用を工夫することができる。 ・指定保育士養成施設における教育課程の全体を通して、保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。 ・保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。 ・上記を踏まえ、自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着をさせる。					
授業の概要					
これまでの保育者養成課程における学修を振り返り、グループ討議、ロールプレイング、模擬保育等の実践的な学習を自主的、主体的に行い、自らの課題を認識し、子どもの育ちを支える保育者としての職務に携わることの自覚を高めていく。					
授業計画					
回数	授業内容等				
1	教職実践演習とは(講義と進め方・教科の目的と意義) グループ決め①				
2	グループディスカッション 「学修の振り返りと課題の確認」				
3	「手作り教材の活用」教材作成と実践				
4	グループディスカッション 遊びのレシピNO.1「手遊び」の作成				
5	模擬保育①「手遊び」				
6	グループディスカッション 「実習体験の振り返りと今後の課題」				
7	「身近な素材で作って遊ぶ」教材作成と実践 グループ決め②				
8	グループディスカッション 遊びのレシピNO.2「手作り教材での遊び」の作成				
9	模擬保育②「手作り教材での遊び」				
10	ロールプレイング 「子どもの多様性について考える」				
11	グループディスカッション 「サステナブルな保育について」				
12	ドキュメンテーションで伝える				
13	乳児の理解を深める				
14	乳児期の子どもの姿の読み取りや援助について				
15	望ましい環境について考える				
16	「園内環境を使つての遊び」の実践			グループ決め③	担当者交代
17	「自然を感じる遊び」教材作成と実践				
18	グループディスカッション 遊びのレシピNO.3「自然を感じる遊び」の作成				
19	模擬保育③「自然を感じる遊び」				
20	グループディスカッション「2、3人での遊び」の実践 と 遊びのレシピNO.4「2、3人での遊び」の作成				
21	模擬保育④「2、3人での遊び」				
22	グループディスカッション 「標識や文字に親しむ遊びの理解」と実践				
23	グループディスカッション 「数や図形に親しむ遊びの理解」と実践				
24	エピソード記録の理解と実践 グループ決め④				
25	グループディスカッション 遊びのレシピNO.5「伝統行事について」の作成				
26	グループ発表 「伝統行事について」				
27	保護者とのコミュニケーション				
28	「遊びのレシピ」の製本				
29	グループディスカッション 「これまでの学びの振り返り」				
30	これからの保育者に必要な脂質能力について(ましめ)				
テキスト	適宜、授業内で資料を配布する				
参考書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
学生に対する 評価	発表 (50%)、提出物 (40%)、授業参加態度 (10%)				

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担当教員名
保育内容の理解と方法Ⅱ ※児童文化、保育技術研究、卒業研究を含む	必修科目	演習	2単位	複数	菅野 清子 阿部 恵
施行規則に定める科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目 (保育士養成課程)保育内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが必要な事項等 (教員養成課程)					
授業のテーマ及び到達目標					
<p>授業のテーマ 幅広い保育の技術を総合的に学び、グループで研究した保育術を発表する。また前期の保育技術研究表のまとめの資料作りと、分野の異なった保育技術を学ぶ</p> <p>到達目標 ・保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。 ・身体表現、音楽表現、造形表現、言語表現等の表現活動に関する知識や技術を習得する。 ・表現活動に係る教材等の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的展開のための技術を習得する。 ・子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 ・保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。</p>					
授業の概要					
グループで研究・発表をし、研究発表の成果を記録にまとめる。保育現場で役立つ技術を実践的に学ぶ。また伝承遊びの研究・グループ発表。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	保育技術研究:保育内容の基礎技能と保育技術研究の目的、研究する分野、グループ活動のねらい				
2	保育技術研究:目的の周知と研究計画 グループ分け 研究分野の特色と発表目標				
3	保育技術研究:題材の選びと脚本 題材の選び方 脚本の作り方 グループで研究計画を立てる記録の取り方				
4	保育技術研究:メンバーの役割 配役・声・効果等				
5	保育技術研究:舞台効果 背景・大道具・小道具の考え方				
6	保育技術研究:グループごとの研究指導① 後半の活動計画				
7	保育技術研究:グループごとの研究指導② 音響効果と設備の使い方				
8	保育技術研究:グループごとの研究指導③ 舞台・照明効果と使い方				
9	保育技術研究:グループごとの研究指導④ 全体の通し練習				
10	保育技術研究:グループごとの研究指導⑤ 他のグループに見てもらい発表の見直し				
11	保育技術研究:グループごとの研究指導⑥ 発表の予行練習				
12	保育技術研究:養ヒデオと実際の教材を見ながら、各技術の解説と研究記録作成の内容				
13	保育技術研究:研究記録まとめ方、写真や参考文献の扱い方				
14	保育技術研究:グループごとに研究記録のまとめ① 個人の感想記録提出				
15	保育技術研究:グループごとの研究記録のまとめ② グループごとの研究レポートをデータで提出				
16	児童文化:パネル シアターブラックライト作品				
17	児童文化:パネル シアター演じ方				
18	児童文化:ペープサート① 作品を楽しむ 立絵芝居・紙人形芝居(紙芝居)からペープサートへ				
19	児童文化:ペープサート② ペープサート 紙と竹とのりの文化を学ぶ				
20	児童文化:ペープサート③ の作り方 教材研究:紙飛行機あそび				
21	児童文化:ペープサート④ 作り方と作品作り 教材研究:けん玉遊び				
22	児童文化:ペープサート⑤ 学生実演1・2・3 教材研究:あやとり遊び				
23	児童文化:お玉① 先人の願いが込められたお手玉作り・遊び 教材研究:しりとり遊び				
24	児童文化:お玉② お手玉の特色・遊びの基本 教材研究:こ 遊び				
25	保育技術:園だより・クラスだより行事だより① 園と家庭をつなぐ 教材研究:たこ遊び				
26	保育技術:園だより・クラスだより・行事だより② 役割の違い・作成ポイント 教材研究:手品遊び①				
27	保育技術:クラスだより③ 編集のテクニック 教材研究:手品遊び②				
28	保育技術:クラスだより④ 個々の課題たより制作				
29	保育技術:クラスだより⑤ 個々の課題たより交換・提出と評価				
30	後期のまとめ 保育理論保育術の融合				
テキスト	すきま 時間あそび(阿部恵著、すずき出版)				
参考書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学 省、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、幼稚園保育指針(2017.3告示文部科学 省、厚生労働省)3歳児の保育資料(阿部恵編著、ひかりのくに)、4歳児の保育資料(阿部恵編著、ひかりのくに)、5歳児の保育資料(阿部恵編著、ひかりのくに)、3～5歳児育ちをとりえる!遊びと10の姿(阿部恵著、学研)ビデオ教材等				
学生に対する 評価	毎時間のレポート(40%)や研究発表・提出物(60%)による。				

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担当教員名
保育内容の理解と方法Ⅲ (音楽)※発表会、歌検を含む	必修科目	演習	4単位	クラス分け・単独	(五十音順) 笠原亮子、菅野まゆみ 高橋由紀子、高橋洋子 田口千恵、深谷佳代子 星川美生、松尾俊彦 中村麻里子、渡部さやか
施行規則に定める科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目 (保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが必要な事項等 (教員養成課程)					
授業のテーマ及び到達目標					
<p>授業のテーマ</p> <p>教育者として必要とされる音楽の基礎知識を身に付ける。 歌、言葉、遊び、動き、リズム等を活用した音楽にかかわる表現を習得する。 幼稚園、保育園の現場で求められるピアノ伴奏、表現の基礎を習得する。 楽器の音色に気づき表現できるようにする。 ピアノ、歌唱の表現法を身につける。わらべうたの音階。 幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域(表現)のねらいを明確に理解する。 共通教材・選択教材の歌、伴奏、弾き歌いができる。 ピアノや各楽器を通して音楽を多角的に捉え、臨機応変に使うことができる。 色々な音色のハーモニーの美しさに気づき、感動、達成感、充実感を、合奏を通して体験する。</p> <p>到達目標</p> <p>・子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 ・保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。</p>					
授業の概要					
感性、思考、イメージを経験し、感性、表現する力を養い、創造性を豊かにしていく。 素材や方法を工夫し、活用出来るよう指導。					
授業計画					
回数	授業内容等				
31	オリエンテーション、担当教員の紹介、授業内容と方法				
32	歌う表現活動の展開「自分なりの表現」を楽しむ。歌う表現技能 季節感に親しむ 豊かな感性「季節の歌 春」ピアノ実技個人指導				
33	みたもの、美しいもの、イメージづくり 季節感に親しむ 豊かな感性「季節の歌 春」ピアノ実技個人指導				
34	生活の中にある音、動き、身体など総合的表現活動の実践				
35	教材の様々な実践 コード奏、伴奏法				
36	歌う表現活動の展開「生活の中での音や動き」季節感に親しむ 豊かな感性「季節の歌 夏」				
37	みたもの、美しいもの、イメージづくり 季節感に親しむ 豊かな感性「季節の歌 夏」ピアノ実技個人指導				
38	自分なりの表現。表現の喜び。感じたこと・考えたことを音や動きで表現 歌を歌ったり、簡単な手遊びや全身を使う遊び ピアノ実技個人指導				
39	言葉とリズム わらべうたの実践 生活の中での短い歌 乳幼児、幼児に関してグループ別で指導案作成				
40	歌う表現活動の展開「感動したことを伝える」 季節感を感じる 豊かな感性「季節の歌 秋」ピアノ実技個人指導				
41	みたもの、美しいもの、イメージづくり 季節感に親しむ 豊かな感性「季節の歌 秋」ピアノ実技個人指導				
42	乳児の発達や表現の姿 手あそび、身体動作「乳児の歌」				
43	前期 歌唱表現 弾き歌い実演発表				
44	前期まとめ課題曲1曲選曲の仕上げ				
45	表現方法を活かした保育				
46	後期授業内容の説明 音楽表現の実践				
47	歌う表現活動の展開「自分なりの表現」を楽しむ。歌う表現技能 季節感を感じる 豊かな感性「季節の歌 冬」ピアノ実技個人指導				
48	みたもの、美しいもの、イメージづくり 季節感を感じる 豊かな感性「季節の歌 冬」ピアノ実技個人指導				
49	「音楽と動き」の表現実践2 言葉を使って、身体を使って感じたこと、考えたことを音、言葉、身体で表現				
50	「言葉とリズム」の表現実践 各種楽器演奏法 打楽器 各種楽器演奏法 打楽器 音楽に親しむ リズム楽器を楽しむ				
51	「言葉とリズム」の表現実践 各種楽器演奏法 有音程楽器2(鉄琴、木琴、ハンドベル、など) 合奏				
52	歌う表現活動の展開「感動したことを伝える」 季節感を感じる 豊かな感性「季節の歌 冬」ピアノ実技個人指導				
53	歌う表現活動の展開「感動したことを伝える」「感じたこと、考えたことを音や動きで表現」 季節感を感じる 豊かな感性「季節の歌 冬」ピアノ実技個人指導				
54	年間行事、園行事、生活の中の歌や動き、感動、感性を伝える 園生活での活動「行事の歌」ピアノ実技個人指導				
55	幼児の興味や関心を引き出す「いつでも歌える歌」ピアノ実技個人指導				
56	幼児の興味や関心を引き出す「いつでも歌える歌」ピアノ実技個人指導の継続				
57	ICTを用いて音楽表現の在り方を学ぶ 実例や幼児の心情、認識、思考、動き等を考案し、幼児が経験し身につけていく表現の内容と指導上の留意点を理解する。				
58	後期音楽表現 弾き歌い実演発表				
59	表現に合わせた音楽を考える				
60	弾き歌いの仕上げ				
テキスト	標準「バイエル併用曲集付」「こどものうた200」「続こどものうた200」、配布プリント				
参考書 参考資料等	学習指導要領、幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
学生に対する 評価	課題実践50%、歌唱実演発表50%				

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担当教員名
社会的養護Ⅰ	必修科目	講義	2単位	単独	石井 真一
施行規則に定める科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目				
	(保育士養成課程)保育の本質・目的に関する科目				
各科目に含めることが必要な事項等(教員養成課程)					
授業のテーマ及び到達目標					
<p>授業のテーマ 社会的養護の果たすべき役割を理解しながら、保育・教育者として必要な知識習得と感受性の研鑽を目指す。</p> <p>到達目標 ・現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。 ・子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 ・社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 ・社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 ・社会的養護の現状と課題について理解する。</p>					
授業の概要					
社会的養護を支える各施設・機関の取り組みについて、体系的に学ぶ。現場実践について映像なども紹介し理解を深める。原則、授業毎にリアクションペーパー提出することで確かな気づきと知識の整理を行う。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	イントロダクション～社会的養護問題が発生する「社会」の現況を概観する(新聞、映像活用)				
2	社会的養護の背景にある「家族」「家庭」問題を考える。→要保護児童発生要因を理解する				
3	社会的養護の理念と概念、基本原則について(厚生労働省資料活用)				
4	社会的養護の体系、実施のプロセス等について →諸外国との比較を含めて				
5	社会的養護の制度と法体系について →基本法、近年の改正、「措置制度」等				
6	児童相談所の役割について →ニュース映像活用からアドミッションケアの実態を理解する				
7	社会的養護の実践現場について →児童養護施設のニュース映像から子どもの気持ちに触れる				
8	施設で働く職員(保育士)、専門職について→子どもに「寄り添う」とは				
9	社会的養護の歴史背景→「戦争孤児」について理解する				
10	家庭的養護「小規模グループケア」「ファミリーホーム」について→資料、映像などから実態をつかむ				
11	児童養護施設以外の施設養護①児童自立支援施設を学ぶ→VTR活用、その役割を理解する				
12	児童養護施設以外の施設養護②自立援助ホームを学ぶ→VTR活用、リビング・アフターケア理解				
13	家庭養護「里親」について →制度を整理するとともに、ニュース映像当事者の声から理解を深める				
14	社会的養護「施設」「里親」総復習→定期試験				
15	社会的養護Ⅰ 総まとめ 15回講義を整理して、社会的養護の今後の展望を考察する				
テキスト	「社会的養護Ⅰ 新・基本保育シリーズ⑥」公益財団法人児童育成協会/監修 中央法規 価格2200円				
参考書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
学生に対する 評価	定期試験(60%)、毎回提出のリアクションペーパー、授業態度(40%)で総合評価				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
子どもの食と栄養	必修科目	演習	2単位	単独	橋内 範子
施行規則に定める科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目 (保育士養成課程)保育の対象の理解に関する科目				
各科目に含めることが必要な事項等(教員養成課程)					
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
<p>授業のテーマ 子どもの健康と発育過程を理解させて離乳食・幼児食を食べさせられるようにする。健康と食生活の大切さを子どもに教えられるようにする。</p> <p>到達目標 ・健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。 ・子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。 ・養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。 ・家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 ・関連するガイドライン(参考資料)や近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。</p>					
授 業 の 概 要					
講義内容を復習しながら調理実習を行う。食育の媒体を作成し、食への理解と関心をもつ。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	食生活の意義について				
2	自分の食生活について考える				
3	食品と栄養について				
4	食事摂取基準・献立作成				
5	乳児期の栄養・妊娠期の食生活について				
6	離乳食について・衛生管理				
7	離乳食初期 調理実習				
8	離乳食中期調理実習				
9	離乳食後期・完了期調理実習				
10	離乳食まとめ 小テスト				
11	幼児期の食事について				
12	幼児期調理実習(3～5歳)				
13	幼児期調理実習(間食)				
14	幼児期お弁当・行事食献立作成				
15	幼児期調理実習(お弁当)				
16	幼児期調理実習(行事食)				
17	幼児期の食生活の問題点				
18	学童期の食生活・幼児期の食事のまとめ 小テスト				
19	食育について				
20	三色食品群媒体作り				
21	食育の歌を考える				
22	食育の歌発表				
23	食育カルタ作成				
24	食育カルタ発表				
25	地域の関係機関との連携				
26	食育のまとめ				
27	食育だより作成				
28	児童福祉施設における食事と栄養				
29	特別な配慮を要する子どもの食事と栄養				
30	子どもの食生活の現状と課題・まとめ				
テキスト	最新子どもの食と栄養(飯塚美和子編著、学建書院)				
参 考 書 参 考 資 料 等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)				
学 生 対 対 する 評 価	提出物(40%)、授業中の態度(20%)、小テスト(40%)				

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担当教員名
社会的養護Ⅱ	必修科目	演習	1単位	単独	北川 裕子
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目				
	(保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)					
授業のテーマ及び到達目標					
<p>授業のテーマ 社会的養護における保育士や施設の役割について知る。 家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解や認識を深める。</p> <p>到達目標 ・子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。 ・施設養護及び家庭養護の実際について理解する。 ・社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。 ・社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。 ・社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。</p>					
授業の概要					
施設や保育士の役割や援助、子どもの権利擁護、保育士の倫理など、基礎的な内容について、事例を用いながら具体的に学ぶ。社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解し、児童自立支援計画を作成、施設でのケアの内容や意図を学ぶ。社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	養護の基本原理等の復習、子どもの権利擁護				
2	保育士の資質と倫理・責務、チームワーク				
3	施設養護の生活特性および実際 ① 入所、日常生活援助				
4	施設養護の生活特性および実際 ② 集団生活、家族調整				
5	施設養護の生活特性および実際 ③ 自立支援				
6	施設養護の生活特性および実際 ④ 退所、アフターケア				
7	施設養護の生活特性および実際 ⑤ 記録の意味、個別支援計画の作成、自己評価				
8	保育士の専門性・ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用 ① 心理的支援				
9	保育士の専門性・ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用 ② 被虐待児への支援、親への支援				
10	保育士の専門性・ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用 ③ 障がい児への支援、親への支援				
11	日常生活に関する事例分析				
12	治療的支援に関する事例分析				
13	里親等の家庭養護の特性及び実際、里親に関わる事例分析				
14	今後の社会的養護の方向性(施設の小規模化、地域との関わり等)				
15	社会的養護の課題と展望、試験				
テキスト	なし				
参考書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)、参考資料は授業時に紹介				
学生に対する 評価	授業貢献度(15%)、提出物(40%)、試験(45%)等による総合評価。				

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担当教員名
乳児保育Ⅱ	必修科目	演習	1単位	単独	鈴木 多美子
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目				
	(保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)					
授業のテーマ及び到達目標					
<p>授業のテーマ 乳児の成長・発達を理解し、『育ちや学びを支える』という視点を持つ。一人ひとりの子どもの生活援助をチームワークを活かし、創意工夫を図る等の専門性を身につける。</p> <p>到達目標 ・3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの方的な考え方について理解する。 ・養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもたちの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 ・乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 ・上記を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。</p>					
授業の概要					
・乳児の成長・発達を理解する ・科学的観察力と優しい心をグループワークを通して体験する ・乳児の遊びについて体験したことをプレゼンテーションする					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	乳児保育の基本				
2	子どもの生活の流れ(0歳児クラス)				
3	子どもの保育環境(0歳児クラス)				
4	子どもの援助の実際(0歳児クラス)				
5	子どもの生活の流れ・保育環境・援助の実際(1歳児クラス)				
6	乳児の遊びと援助				
7	手作りおもちゃ				
8	グループワーク				
9	子どもの生活の流れ・保育環境・援助の実際(2歳児クラス)				
10	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮				
11	集団での生活における配慮・環境の移行に対する配慮				
12	長期的な指導計画と短期的な指導計画				
13	個別的な指導計画と集団の指導計画				
14	プレゼンテーション				
15	まとめ				
テキスト	乳児保育Ⅰ・Ⅱ(古橋紗人子・中谷奈津子編著、建帛社)				
参考書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)、乳児保育Ⅰ・Ⅱ(中央法規)、乳児保育(一藝社)、日本が誇る!ていねいな保育(小学館)、子どもの未来をひらくエンパワメント科学(日本評論社)、ホモ・ルーデンス(講談社)				
学生に対する 評価	演習レポート(20%)、ペーパーテスト・課題レポート等(80%)				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	単位数	授業方法	担 当 教 員 名
保育実習Ⅰ	必修科目	4単位	実習	池田 幸代 宮崎 信子
施行規則に定める各科目 区分又は事項等	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目 (保育士養成課程)保育実習			
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標				
到達目標 ・保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 ・観察や乳幼児(利用者)との関わりを通して乳幼児(利用者)への理解を深める。 ・既習の教科目の内容を踏まえ、乳幼児(利用者)の関わり及び保護者への支援について総合的に理解する。 ・保育(活動)の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 ・保育士(職員)の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。				
実 習 等 実 施 計 画				
保育実習の内容及び成績評価等				
①保育実習の時期 ○幼稚園教員・保育士養成科第Ⅰ部 1年次 2月上旬～3月下旬、 2年次 5月上旬～5月下旬、または、7月中旬～8月下旬、または11月上旬～11月下旬 ○幼稚園教員・保育士養成科第Ⅱ部 2年次 7月中旬～8月下旬、または11月上旬～11月下旬 3年次 5月上旬～5月下旬、または、7月中旬～8月下旬、または11月上旬～11月下旬				
②保育実習の実習期間・総時間数 保育所 2週間(90時間) 児童福祉施設 2週間(90時間)				
③実習施設の確保・方法 養成校が指定する施設の中から、実習生が希望する実習施設を選び内諾を得る。				
④保育実習内容 指定期間内に、観察実習・参加実習・部分実習を必ず実施する。 ○観察実習:乳幼児(施設通所児・者及び入所児・者)の様子を観察・記録し、実態や一日の流れを学ぶ。 ○参加実習:クラス担任(担当)と乳幼児(施設通所児・者及び入所児・者)の活動に参加し、クラス担任(担当)の役割や配慮、環境構成などを学ぶ。 ○部分実習:実習生が部分実習指導計画案を立案しクラス担任(担当)から指導を受け、活動の一部分(歌唱指導・制作指導・レクリエーション活動等)を担当し実施する。 園長(施設長)・主任保育士(職員)等により、実習施設の運営方針や活動の特色、職員体制や地域との関わりなどを学ぶ。乳幼児(施設通所児・者及び入所児・者)降園(帰宅)後の保育士(職員)の職務内				
⑤実習生に対する指導の方法 指導教員が実習施設へ巡回指導を行い、担当職員と実習進行状況の確認を行う。保育実習期間中、実習生からの相談・報告等を受けられるよう態勢を整える。				
⑥保育実習の成績評価(評価の基準及び方法) 実習施設からの実習評価書、担当教員の評価、実習記録簿の記録状況等を総合的に評価し、実習運営委員会において成績評価を行う。				
参 考 書 参 考 資 料 等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)			

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	単位数	授業方法	担 当 教 員 名
保育実習Ⅱ	選択科目	2単位	実習	池田 幸代 宮崎 信子
施行規則に定める各科目 区分又は事項等	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目 (保育士養成課程)保育実習			
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標				
到達目標 ・保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。 ・乳幼児の観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。 ・既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、乳幼児の保育及び子育て支援について総合的に理解する。 ・保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。 ・保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。 ・実習における自己の課題を明確化する。				
実 習 等 実 施 計 画				
保育実習の内容				
①保育実習の時期 ○幼稚園教員・保育士養成科第Ⅰ部 2年次 5月上旬～5月下旬、または、7月中旬～8月下旬、または11月上旬～11月下旬 ○幼稚園教員・保育士養成科第Ⅱ部 3年次 5月上旬～5月下旬、または、7月中旬～8月下旬、または11月上旬～11月下旬				
②保育実習の実習期間・総時間数 保育所 2週間(90時間)				
③実習施設の確保・方法 養成校が指定する保育所の中から、実習生が希望する実習施設を選び内諾を得る。				
④保育実習内容 指定期間内に、観察実習・責任実習を必ず実施する。 ○観察実習;乳幼児の様子を観察・記録し、実態や一日の流れを学ぶ。 ○責任実習;実習生が責任実習指導計画案を立案しクラス担任から指導を受け、登園から降園までの1日の活動を担当し実施する。 園長・主任保育士等により、保育所の運営方針や保育活動の特色、職員体制や地域との関わりなどを学ぶ。乳幼児降園後の保育士の職務内容を理解する。				
⑤保育実習生に対する指導の方法 指導教員が実習園へ巡回指導を行い、実習園担当職員と実習進行状況の確認を行う。保育実習期間中、実習生からの相談・報告等を受けられるよう態勢を整える。				
⑥保育実習の成績評価(評価の基準及び方法) 実習園からの実習評価書、担当教員の評価、実習記録簿の記録状況等を総合的に評価し、実習運営委員会において成績評価を行う。				
参 考 書 参 考 資 料 等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)			

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	単位数	授業方法	担 当 教 員 名
保育実習Ⅲ	選択科目	2単位	実習	池田 幸代
施行規則に定める各科目 区分又は事項等	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目 (保育士養成課程)保育実習			
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標				
到達目標 ・既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して、理解する。 ・家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。 ・保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 ・実習における自己の課題を理解する。				
実 習 等 実 施 計 画				
保育実習の内容及び成績評価等				
①保育実習の時期 ○幼稚園教員・保育士養成科第Ⅰ部 2年次 5月上旬～5月下旬、または、7月中旬～8月下旬、または11月上旬～11月下旬 ○幼稚園教員・保育士養成科第Ⅱ部 3年次 5月上旬～5月下旬、または、7月中旬～8月下旬、または11月上旬～11月下旬				
②保育実習の実習期間・総時間数 児童福祉施設 2週間(90時間)				
③実習施設の確保・方法 養成校が指定する施設の中から、実習生が希望する実習施設を選び内諾を得る。				
④保育実習内容 指定期間内に、観察実習・部分実習を実施する。 ○観察実習:施設通所児・者及び入所児・者の様子を観察・記録し、実態や一日の流れを学ぶ。 ○部分実習:実習生が部分実習指導計画案を立案し担当から指導を受け、活動の一部分(歌唱指導・制作指導・レクリエーション活動等)を担当し実施する。 施設長・主任職員等により、施設の運営方針や活動の特色、職員体制や地域との関わりなどを学ぶ。 施設通所児・者及び入所児・者帰宅後の職員の職務内容を理解する。				
⑤保育実習生に対する指導の方法 指導教員が実習施設へ巡回指導を行い、実習施設担当職員と実習進行状況の確認を行う。保育実習期間中、実習生からの相談・報告等を受けられるよう態勢を整える。				
⑥保育実習の成績評価(評価の基準及び方法) 実習施設からの実習評価書、担当教員の評価、実習記録簿の記録状況等を総合的に評価し、実習運営委員会において成績評価を行う。				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)			

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担当教員名
保育実習指導Ⅱ	必修科目	演習	1単位	単独	小藺江 幸子
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目 (保育士養成課程)保育実習				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)					
授業のテーマ及び到達目標					
<p>授業のテーマ 今年度取り組む実習のすべてについて理解、確認し、確実な習得を目指す。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 ・実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 ・保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 ・保育士の専門性と職業倫理について理解する。 ・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 					
授業の概要					
今年度取り組む保育実習Ⅱ及び教育実習について具体的な取り組み方について提示する。また実習経験で学んだ事柄について言語化し、学友と共有し、省察に役立てる。					
回数	授業内容等				
1	保育実習Ⅰ後のお礼状作成、保育実習Ⅱの依頼の仕方について				
2	保育実習Ⅰの実習記録について振り返りと省察				
3	保育実習Ⅰについての報告書作成と考察の共有				
4	教育実習(指導実習、責任実習、全日実習)についての用意				
5	教育実習(指導実習、責任実習、全日実習)の指導計画案の作成				
6	教育実習の主活動の指導計画案の作成 教育実習のねらい構築と共有				
7	教育実習の報告書作成と省察				
8	省察を小論文化して共有、発表				
9	保育実習Ⅱの指導計画案の作成				
10	保育実習Ⅱでねらうことを明確化する				
11	保育実習Ⅱを終えての自己総括 報告書作成				
12	保育実習Ⅱについての省察的考察				
13	省察的考察を発表用に作成				
14	省察的考察の発表と共有				
15	省察的考察の共有と学年末までの学習の課題の明確化				
テキスト	実習指導Ⅰで使ったもの(実習ステップブック、3つの壁を乗り越える！保育実習リアルガイド)を再利用する。適時に資料をプリントで配布				
参考書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)				
学生に対する 評価	提出物50(%)、授業内課題20(%)、授業内発表30(%)				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
保育実習指導Ⅲ	選択科目	演習	1単位	単独	池田 幸代
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目 (保育士養成課程)保育実習				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)					
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
<p>授業のテーマ 施設保育士・職員として求められる資質・知識・技術などについて学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 ・実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 ・保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 ・保育士の専門性と職業倫理について理解する。 ・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 					
授 業 の 概 要					
<p>保育実習Ⅰの経験を踏まえて、保育所以外の児童福祉施設での実習の意義と目的を理解する。 また、施設における利用児・者の生活について実践を通して学び、施設保育士としての専門性について理解を深める。</p>					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	オリエンテーション 施設実習について				
2	施設の種別と理解				
3	実習Ⅰの振り返り、自己課題の設定				
4	施設における利用児の生活と支援				
5	施設における保護者支援				
6	施設における利用者の生活と支援				
7	施設における家族支援				
8	事例から考える①エピソード記録から				
9	事例から考える②エピソード記録から				
10	DVD視聴「児童養護施設の一日」				
11	実習の記録の方法①時系列記録				
12	実習の記録の方法②エピソード記録				
13	実習事前指導				
14	実習事後指導①実習生同士の振り返り				
15	実習事後指導②自己課題の明確化				
テキスト	特になし				
参 考 書 参 考 資 料 等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)				
学生に対する 評 価	レポート:50% 授業中の提出物:50%				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
情報機器の演習	必修科目	演習	2単位	単独	生山 浩
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)教育職員免許法施行規則第六十六条の六に定める科目 (保育士養成課程)教養科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	情報機器の操作				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
保育現場での情報機器の活用を想定し、学級事務に関わる手紙や保育に関わる教材等をOfficeソフトを使って作成できるよう技能を身につけます。					
授 業 の 概 要					
Officeソフト(Word、Excel、PowerPoint)の操作方法を学び、手紙や教材等を作成します。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	環境の準備(フォルダの作成)、インターネット(シークレットモード、e-mail)の使い方				
2	Wordによる入園式の案内書作成:日付、宛先、差出人、タイトルなどの入力とレイアウト、あいさつ文の挿入				
3	Wordによる入園式の案内書作成:記書きの作成、簡易地図の作成、				
4	Wordによる入園式の案内書作成:印刷、PDF化、メール送信				
5	Wordによるクラスだよりの作成:表組、罫線、セルの結合・分割				
6	Wordによるクラスだよりの作成:イラストや写真の貼り付け・加工				
7	Wordによるクラスだよりの作成:印刷、PDF化、メール送信				
8	Excelによる基礎名簿の作成:名簿入力、オートフィル、列幅調整、罫線				
9	Excelによる住所録の作成:郵便番号入力、郵便番号から住所変換、罫線による表組				
10	Excelによる出席簿の作成:日付の入力、曜日の自動入力(関数)、表示枠の固定化、集計、抽出				
11	Excelによる身体測定簿の作成:データ入力、単位の設定、集計(関数)、並べ替え、グラフ化				
12	PowerPointによる絵本の作成:図表によるイラスト作成				
13	PowerPointによる絵本の作成:アニメーションの設定、スライドショーの設定				
14	Word、Excel、PowerPoint間のデータコピーなど				
15	Officeソフトの理解度確認テスト				
テキスト	なし				
参 考 書 参 考 資 料 等	授業中に適宜配布 幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)				
学 生 対 する 評 価	提出物の評価(50%)、理解度確認テスト(50%)				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
英語コミュニケーション	必修科目	演習	2単位	単独	ジム・ハッサウエイ
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)教育職員免許法施行規則第六十六条の六に定める科目 (保育士養成課程)教養科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	英語コミュニケーション				
授業のテーマ及び到達目標					
<p>授業のテーマ Our goal is to improve your English communication skills and to improve your understanding of different cultures around the world. (英語のコミュニケーションスキルと世界中の様々な文化に対する理解の向上を目的とする。)</p> <p>到達目標 We will use our textbook to practice English communication and learn about different cultures. (教科書を用いて、英語コミュニケーションの実践と異文化について学ぶ。)</p>					
授業の概要					
We will also use original materials such as picture books, tv shows, TED Talks, songs, dances, and games (講義において適宜、独自の素材「絵本・テレビ番組・TED Talks・歌・ダンス・ゲーム」を用いる。)					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	Orientation, and begin chapter "Hi." (オリエンテーションとチャプター 1"こんにちは。")				
2	Chapter 2, How Long (チャプター2"どのくらい")				
3	Chapter 3, Looking around (チャプター3"周りを見渡す")				
4	Chapter 4 The Classroom, first textbook check, Summer homework assignment (チャプター4"教室で教科書の確認、夏の宿題")				
5	Chapter 5 Good-bye and Directions (チャプター5"道順とさようなら")				
6	Chapter 6, What is a name? (チャプター6"あなたの名前は?")				
7	Chapter 7 Review (チャプター7"復習")				
8	Exam and Blues Clues (試験についてとTV番組"ブルース・クルーズ")				
9	Chapter 8 Children's Books (チャプター8"子どもの本")				
10	Chapter 9 Mother Goose (チャプター9"マザーグース")				
11	Chapter 10 A Field Trip (チャプター10"校外学習")				
12	Chapter 11 Is He Sick? (チャプター11"彼は病気ですか?")				
13	Chapter 12 Stinky (チャプター12"忌々しい")				
14	Chapter 13 Games (チャプター13"ゲーム")				
15	Chapter 14 Graduation (チャプター14"卒業") Review for the Exam (試験の復習)				
テキスト	English and Culture, by Jim Hathaway, 2016, Sixth Edition 2023 (保育者と介護者になるための英語と文化理解の自作テキスト)				
参考書 参考資料等	TED Talk Sir Ken Robinson, "Do Schools Kill Creativity?" (TED Talk ケン・ロビンソン「学校は創造性を失うのか?」)				
学生に対する 評価	Class Participation 30%, Work in Textbook 30%, Exams 40% (授業態度30%、教科書への取り組み30%、試験40%)				

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担当教員名
体育	必修科目	講義	1単位	単独	黒羽 昭
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)教育職員免許法施行規則第六十六条の六に定める科目 (保育士養成課程)教養科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	体育				
授業のテーマ及び到達目標					
<p>授業のテーマ</p> <p>(1)人の体を理解し、心身の健全な育成と健康の維持増進の重要性を理解する</p> <p>(2)幼児期の発育発達を理解し、体育あそびの実践に向けての基礎知識を養う</p> <p>到達目標</p> <p>(1)体の仕組みや機能を理解することで健康づくりの意識を高めることができる</p> <p>(2)幼児の発達段階を踏まえた体育あそび実施時の安全管理を理解することができる</p>					
授業の概要					
自分自身の健康な心と体が保育者としてどれだけ重要であるを理解させていく 幼児を取り巻く環境の変化を捉え、体育あそびの意義と必要性を学び、発達段階を踏まえた体育あそびをする時の安全管理を理解していく					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	保育者として健康づくりの大切さを理解する				
2	近年の子どものからだの異変やその対策				
3	子どもの生活と運動				
4	子どもの発達と運動				
5	幼児体育とは 体育あそびと運動あそび				
6	運動発現メカニズム 幼児体育指導上の留意事項				
7	運動と安全管理				
8	体育あそびの実践に向けて 筆記試験				
テキスト	幼児体育初級第6版(日本幼児体育学会編著、大学教育出版)				
参考書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、幼 保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省) 日本スポーツ協会(JSPO) アクティブ・チャイルド・プログラムGuidebook				
学生に対する 評価	出席状況(50%)、筆記試験(50%)				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
体育	必修科目	実技	1単位	単独	黒羽 昭
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)教育職員免許法施行規則第六十六条の六に定める科目 (保育士養成課程)教養科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	体育				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ (1)運動技能のスキルアップを図り、運動の楽しさを身に付ける (2)幼児の発達段階を踏まえた体育の指導方法を習得する					
到達目標 (1)運動技能を向上させることで運動嫌いな保育者を無くし、運動好きな保育者を育てる (2)幼児体育の指導方法を理解することで、子どもたちに適切な体育あそびの指導ができる力を身に付ける					
授 業 の 概 要					
実技運動を通して正しい技術や指導方法を習得させ、体育あそびを実行する力を身につけていく 運動大好きな保育者を育てる為に、楽しさの中にけじめをもって積極的に参加できる授業を行っていく					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	基本運動の理解 (アイスブレイク・基本運動スキル)		ゲーム(レクリエーションダンス)		
2	空間認知を養ういろいろな運動(2組・3組・4組で)		ゲーム(いろいろな競争ゲーム)		
3	マット運動(マットを使った模倣運動・前回りと前転)		ゲーム(マットを使った移動ゲーム①)		
4	マット運動(後ろ回り・開脚前転と後転・側転)		ゲーム(マットを使った移動ゲーム②)		
5	ボール運動(転がし・投げる・捕る)		ゲーム(ドッチボール)		
6	ボール運動(ドリブル・パス・シュート)		ゲーム(バスケットボール)		
7	ボール運動(オーバーハンドパス・アンダーパス)		ゲーム(バレーボール)		
8	跳び箱運動(助走・山登り・飛び降り・ポーズ・横跳び)		ゲーム(ドッチボール)		
9	跳び箱運動(開脚飛び・台上前転)		ゲーム(バスケットボール)		
10	鉄棒運動(握り方・ぶら下がり・中抜き回り・前回り降り)		ゲーム(バレーボール)		
11	鉄棒運動(逆上がり・後ろ回り)		ゲーム(ドッチボール)		
12	短縄運動(導入・前跳び・後ろ跳び) 長縄運動(回旋とび)		ゲーム(バスケットボール)		
13	短縄運動(綾跳び・二重跳び) 長縄運動(二本縄回旋とび)		ゲーム(バレーボール)		
14	みんなで考えよう 創作運動あそび①				
15	みんなで考えよう 創作運動あそび②				
テキスト	幼児体育初級第6版(日本幼児体育学会編著、大学教育出版)				
参 考 書 参 考 資 料 等	幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、幼 保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省) 日本スポーツ協会(JSPO)アクティブ・チャイルド・プログラムGuidebook				
学生に対する 評 価	授業態度(30%)、実技運動への積極度(40%)、 実技種目のスキル評価(30%) 跳び箱・鉄棒・マット・ボール・縄とび・ゲームへの積極度				

令和5年度

シラバス集

第3学年



道灌山学園保育福祉専門学校

幼稚園教員・保育士養成科

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里4-7-15

電話 03-3828-8478

SYLLA BUS シラバス（授業計画）について

○シラバスとは

今年度開講する授業科目の名称、単位数、開講時期、学年、授業担当者名、授業の到達目標・テーマ、授業の概要、授業計画、使用するテキスト・参考資料、授業の形態、成績評価の方法等について、担当教員が記した授業の計画書です。

よく読んで、円滑に授業が受講できるよう心がけるようにしましょう。

※学生のしおり〈便覧〉も良く読み、履修方法、課程修了認定、単位取得、出席要件などについての理解を深めておきましょう。

※シラバス集についての質問等は、道灌山学園保育福祉専門学校教務部へお願いします。

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担当教員名
表現領域指導法Ⅱ (絵画・造形) ※略画・折紙を含む	必修科目	演習	2単位	単独	松井 素子
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)領域及び保育内容の指導法に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	(保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマ 幼児造形教育の基礎的な知識、技能を演習によって習得し、子どもたちに発想力・構想力・創造力を育ませ、自分たちなりの造形表現や鑑賞活動へ導く実践指導力を身に付ける。					
到達目標 幼児造形教育における「表現」領域の内容と目標、全体構造を理解できる。 造形表現活動を通して、各発達段階ごとに幼児が身に付けていく資質・能力を理解できる。 造形表現活動における評価の考え方を理解できる。 領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解することができる。 各領域の特性や幼児の体験と造形表現の関連を理解し、保育の構想に活用することができる。 造形表現の指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成・改善することができる。 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けることができる。 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想の向上に取り組むことができる。					
授業の概要 保育における造形活動の中でも特に基礎的な技法を中心とした制作を行う。さまざまな素材や表現方法について制作を通して理解し、基礎的な造形力を習得する。また、表現することの良さや楽しさを実感して、子どもの表現活動の過程に共感する感性を育むことを目指すが、保育者の役割を常に意識しながら取り組み、他者の作品を見て共感することで自分自身の感性の幅を広げて実践に活かしてほしい。					
授 業 計 画					
授 業 内 容 等					
1	「表現」領域の考え方と幼児の造形表現活動:材料や場、道具との出会い				
2	春の行事と造形表現活動①【平面】「版を使った桜と春の草花」・「春のちぎり絵」				
3	春の行事と造形表現活動②【立体】「春を主題にした折紙:カーネーションの初級・中級」				
4	春の行事と造形表現活動③【共同制作】「折紙と版を使った桜並木の壁面装飾」				
5	幼児の造形表現活動:材料や場、道具との出会い①【平面】:クレヨン画と色鉛筆「母の日」と「父の日」				
6	初夏の行事と造形表現活動①【平面】「紙版を使った鯉のぼり」・「デカルコマニーによる昆虫」・「初夏の略画」				
7	初夏の行事と造形表現活動②【共同制作】「折紙と版、紫陽花のちぎり絵を使った壁面装飾」				
8	初夏の行事と造形表現活動③【立体】「折紙:兜・鯉のぼり・紫陽花」				
9	幼児の造形表現活動:材料や場、道具との出会い②絵の具による造形遊び:「色水作りと光透過性」				
10	幼児の視覚イメージ①【平面】:造形で表現する物語と物語絵				
11	幼児の造形表現活動:材料や場、道具との出会い③クレヨンと絵の具による「パティック技法」				
12	夏の行事と造形表現活動①【平面】「紙版・パティック技法・スクラッチ技法による花火」・「夏の略画」				
13	夏の行事と造形表現活動②【立体】「七夕飾りの紙細工:折紙:朝顔・ヨット他・初級・中級」				
14	夏の行事と造形表現活動③【共同制作】「折紙と版による海辺の花火の壁面装飾」				
15	折紙紙を用いた切り紙工作:折紙紙作品を用いた前期のまとめ「折紙紙アルバム」の提出				
16	幼児の視覚イメージ②【立体】粘土:「おいしいものをたくさんつくろう!」「すきな豆腐つ、たくさん!」				
17	幼児の視覚イメージ③【立体】人工物(身辺廃材)による工作:「いつもそばにいるよ!」				
18	秋の行事と造形表現活動①【平面】「落ち葉のこすり出しと落ち葉を使った版表現」・「秋の略画」				
19	秋の行事と造形表現活動②【立体】「折紙:どんぐり・栗他・初級・中級」				
20	秋の行事と造形表現活動③【共同制作】「折紙と版による紅葉の並木道の壁面装飾」				
21	幼児の造形表現活動:材料や場、道具との出会い③【立体】自然物(落ち葉・小枝・実など)による工作				
22	幼児の視覚イメージ④【立体】「とびだすカードでつたえたいこと」				
23	冬の行事と造形表現活動①【平面】「落ち葉のこすり出しと落ち葉を使った版表現」・「冬の略画」				
24	冬の行事と造形表現活動②【立体】「折紙:サンタクロース他・初級・中級」・「紙袋の鬼」・「紙粘土雪だるま」				
25	冬の行事と造形表現活動③【共同制作】「折紙と版、ちぎり絵による冬の並木道の壁面装飾」				
26	幼児の造形表現活動:材料や場、道具との出会い④【平面構成】「にじみとローラーですてきなまよう!」				
27	幼児の視覚イメージ⑤【言葉とイメージ:実習で使える絵本・紙芝居を作ろう」				
28	行事を豊かに:造形表現活動を活かした共同的・創造的な行事の計画と実践:折紙紙と略画の研究				
29	総合的な造形表現活動:ICT活用を含む造形表現活動の計画と実践:折紙紙と略画の研究				
30	ICTの活用、協働学習を含む幼児造形表現活動実践研究をまとめた「レポート課題」の提出				
テキスト	必要に応じてプリント等を配布する。				
参考書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
学生に対する 評価	学習への意欲や態度(40%)、各授業のレポート課題と学習記録(60%)				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
子ども家庭支援の心理学	必修科目	講義	2単位	単独	合澤 典子
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)教育の基礎的理解に関する科目 (保育士養成課程)保育の対象の理解に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ					
人の生涯発達について理解した上で、家庭のもつ意味と現状、そしてさまざまな問題を抱える子どもや過程の理解とその支援につながる力を身につける。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 ・家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 ・子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 ・子どもの精神保健とその課題について理解する。 					
授 業 の 概 要					
生涯発達や子どもを囲む家族や家庭の意義と機能を概説した後、子育て家庭の現状とその課題や、子どもの心身の健康に関する支援を考え、理解を深めていく。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	生涯発達(1)乳幼児期から学童期前期				
2	生涯発達(2)学童期後期から青年期				
3	生涯発達(3)成人期・老年期				
4	家族・家庭の理解(1)家族・家庭の意義				
5	家族・家庭の理解(2)親子関係・家庭関係の理解				
6	家族・家庭の理解(3)子育ての経験				
7	家族・家庭の理解(4)親としての育ち				
8	子育て家庭に関する現状と課題(1)子育てを取り巻く社会的状況				
9	子育て家庭に関する現状と課題(2)ライフコースと仕事・子育て				
10	子育て家庭に関する現状と課題(3)多様な家庭				
11	子育て家庭に関する現状と課題(4)発達障害				
12	子育て家庭に関する現状と課題(5)児童虐待				
13	子どもの精神保健(1)子どもの生活・生育環境とその影響				
14	子どもの精神保健(2)心の健康				
15	まとめ 試験				
テキスト	指定しない、ただし毎回資料を配付する				
参考資料	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示) 相良順子・小泉左江子編(2020)「子ども家庭支援の心理学」ナカニシヤ出版				
学生に対する 評価	平常点(20%)、リアクションペーパー・課題(30%)、試験(50%)				

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担当教員名
特別支援教育概論(幼) 障害児保育(保)	必修科目	演習	2単位	単独	森藤 才
施行規則に定める各科目 区分又は事項等	(教員養成課程)教育の基礎的理解に関する科目 (保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解				
授業のテーマ及び到達目標					
<p>授業のテーマ 「共生社会における特別支援教育の在り方」及び「個々の幼児の障害特性に基づく保育における支援」の方法について理解を深める。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解している。 ・発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解している。 ・視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を身に付けている。 ・発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について例示することができる。 ・「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解している。 ・特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解している。 ・特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解している。 ・母国語や貧困の問題等により障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解している。 ・障害児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。 ・個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。 ・障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。 ・障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。 ・障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。 					
授業の概要					
<p>特別な支援を要する子ども(幼児)の理解と支援方法を中心に、その子どもを取り巻く生活・教育環境、特別支援教育の理念等を含めて障害児保育の基礎的知識を学習する。特に、保護者・関係機関との連携、事例に基づく個別の指導計画の作成などは、グループによる検討・発表、体験的な学習など授業形態の授業を通して、保育現場で活用できる実践的・専門的指導・支援力を身に付ける。</p>					
授業計画					
回数	授業内容等				
1	障害児保育の概要について(障害者を取り巻く環境【生活、福祉、法制度】等)				
2	障害児・者の教育に関する歴史の変遷(学制発布前から特殊教育そして特別支援教育へ)				
3	インクルーシブ教育と合理的配慮(共生社会、多様な学び場の整備、障害者差別解消法等)				
4	障害児の早期教育と療育及び関係機関との連携(早期発見及び早期教育・療育)				
5	障害児のための学校教育(学校教育制度と卒業後の障害児将来像について)				
6	視覚障害児の理解と保育について(視覚障害の特徴及び支援・配慮の方法について)				
7	聴覚障害児の理解と保育について(聴覚障害の特徴及び支援・配慮の方法について)				
8	肢体不自由児の理解と保育について(肢体不自由の特徴及び支援・配慮の方法について)				
9	知的障害児の理解と保育について①(知的障害の特徴及び支援・配慮の方法について)				
10	知的障害児の理解と保育について②(知的障害児の保育について:グループ討議)				
11	病弱・身体虚弱児の理解と保育について(病弱・身体虚弱の特徴及び支援方法について)				
12	様々な障害を体験しよう(アイマスク(視覚障害)、車いす(肢体不自由)等)				
13	情緒障害児・言語障害児の理解と保育について(支援・配慮の方法について)				
14	重複障害児・医療的ケア児の理解と保育について(具体的な支援と主治医との連携について)				
15	自閉症児の理解と保育について(自閉症スペクトラムの特徴及び支援・配慮の方法について)				
16	LD(学習障害)児の理解と保育について(LD児の特徴及び支援・配慮の方法について)				
17	ADHD(注意欠陥多動性)児の理解と保育について(ADHD児の理解と保育について)				
18	発達障害の子どもへの具体的な支援について(アプローチの方法を考えてグループ討議)				
19	多様な支援を必要とする乳幼児の理解と保育について(日本語を母語としない子ども、被虐待児等の対応、貧困家庭児等)				
20	保護者や家族に対する理解と支援①(保護者の兄弟姉妹の障害受容に焦点を当てて)				
21	保護者や家族に対する理解と支援②(就学に向けての事例をもとにグループ協議)				
22	個別の指導計画と個別の教育支援計画の意義と作成手順の理解について				
23	事例課題に基づく個別の指導計画と個別の教育支援計画の作成と指導・支援方法の検討				
24	個別の指導計画と個別の教育支援計画の活用方法(評価と記録方法を含む)				
25	障害のある乳幼児の発達と環境(発達を促すための生活及びあそび環境の工夫)				
26	障害児の就学相談について(小学校との接続)				
27	地域の専門機関・関係機関との連携				
28	子ども同士の関わり合い(統合保育・分離保育・並行通園等の様々な形態と育ちの過程)				
29	障害児保育のあり方について(職員間の協働と組織としての保育環境整備について)				
30	障害児保育の現状と課題(共生社会の実現を支える幼稚園教諭・保育士の心構え)				
テキスト	特別支援教育概論・障害児保育(三訂版、森藤 才著)				
参考書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)				
学生に対する 評価	定期試験(50%)、授業参加点(30%)、レポート提出(20%)の割合で総合的に判断する。				

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	単位数	担当形態	担当教員名
子育て支援	必修科目	2単位	単独	松田 雄年
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)教育の基礎的理解に関する科目			
	(保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目			
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	指導法及び教育相談等に関する科目			
授業のテーマ及び到達目標				
<p>授業のテーマ 子育ての環境を捉えつつ、支援を必要とする保護者に保育士としての適切な支援とはどのようなことなのか、その方法と技術、知識を含めた専門生を考えていく。講義と演習を交えながら、ここに支援のあり方を学び深めていく。また支援方法の演習を通して多角的に捉え、社会的側面に立った状況把握の分析ができることを学ぶ。</p> <p>到達目標 ・保育者の行う保育の専門性を背景にした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に理解する。 ・保育者の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解し、実践技術に活かす。</p>				
授業の概要				
<p>子どもの健全な成長が促進されるべき家庭が、多様化する社会の中で地域や取り巻く環境の大きな変化により、揺り動かされ変わりつつある。しかし家庭を支える地域社会の役割は大きく、その要となる保育機関への期待は高く、子どもにとっても家族にとっても掛け替えのない存在である。事例研究やグループワークとしての演習を通して、気付きや気配りの感性を磨き、子育て支援の学びを深めていく。</p>				
授 業 計 画				
回数	授 業 内 容 等			
1	オリエンテーション・授業の進め方・授業内容・評価等			〔 目指す保育士像 〕
2	保育士が行う子育て支援とは・・・			〔 保育士の資質/素養 〕
3	保育士の業務の広がりと専門性、地域の子どもと保護者への支援			〔 気付きと気配り① 〕
4	保育士が行う子ども・保護者への潜在的・表面的状況把握			〔 気付きと気配り② 〕
5	保育士の自己覚知、バイスティックの7原則			〔 自己覚知/他者理解 〕
6	支援計画とその展開(ケースワークのプロセス)			〔 記録の取り方① 〕
7	支援記録の意義と活用(自己研鑽と研修等)			〔 記録の取り方② 〕
8	社会資源の活用(社会資源とは・・・)			〔 多様な社会資源 〕
9	主な社会資源としての機関の機能と連携体制			〔 関係機関との連携 〕
10	特別な配慮を要する家族への支援Ⅰ(家族関係)			〔 ワーク① 〕
11	特別な配慮を要する家族への支援Ⅱ(障害)			〔 ワーク② 〕
12	特別な配慮を要する家族への支援Ⅲ(虐待)			〔 ワーク③ 〕
13	多様な支援ニーズへの関わりと専門性			〔 専門家(プロ)とは・・・ 〕
14	現代における子育て支援の方策手段(テスト)			〔 更なる探求心の向上 〕
15	まとめ(子育て支援の新たな課題)			〔 日本一の保育士像 〕
テキスト	新基本保育シリーズ19「子育て支援」(西村重稀・青井夕貴編著)〔中央法規〕			
参考書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)			
学生に対する 評価	定期テスト(50%)・レポート(30%)・授業態度(20%)			

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担当教員名
教育実践演習(幼) 保育実践演習(保)	必修科目	演習	2単位	単独	森藤 才
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)教育実践に関する科目 (保育士養成課程)総合演習				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	教職実践演習				
履修 時期	Ⅱ部生 3年次 前・後期	履修履歴の把握	○	学校現場の意見聴取	○
受講者数 ・Ⅱ部幼稚園教員・保育士養成科Cクラス					
教員の連携・協力体制 ・教務担当と各グループの担当教員の協力体制で実施。					
授業のテーマ及び到達目標					
<p>本授業のテーマ 保育者としての使命感と自覚を持ち、「幼児期に育てたい資質・能力」について理解し、そのために一人ひとりの子どもの育ちを保障するための知識・技能、実践力を有する専門職を目指す。</p> <p>到達目標 ・教育に対する使命感や情熱を持ち、常に子どもから学び、共に成長しようとする姿勢が身に付いている。 ・高い倫理観と規範意識、困難に立ち向かう強い意志を持ち、自己の職責を果たすことができる。 ・子どもの成長や安全、健康を第一に考え、適切に行動することができる。 ・保育者としての職責や義務の自覚に基づき、目的や状況に応じた適切な言動をとることができる。 ・組織の一員としての自覚を持ち、他の教職員と協力して職務を遂行することができる。 ・保護者や地域の関係者と良好な人間関係を築くことができる。 ・子どもに対して公平かつ受容的な態度で接し、豊かな人間的交流を行うことができる。 ・子どもの発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、適切な指導を行うことができる。 ・子どもとの間に信頼関係を築き、学級集団を把握して、規律ある学級経営を行うことができる。 ・保育内容5領域の内容を理解しているなど、幼児教育の基本的事項を身に付けている。 ・言葉かけ、表情など保育を行う上での基本的な表現力を身に付けている。 ・子どもの発達状況に応じて、指導計画や教材活用を工夫することができる。 ・指定保育士養成施設における教育課程の全体を通して、保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。 ・保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。 ・上記を踏まえ、自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着をさせる。</p>					
授業の概要					
<p>これまでの保育者養成課程における学修を振り返り、グループ討議、ロールプレイング、模擬保育等の実践的な学習を自主的、主体的に行い、自らの課題を認識し、子どもの育ちを支える保育者としての職務に携わることの自覚を高めていく。</p>					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	教職実践演習とは(講義と進め方・教科の目的と意義)				
2	「保育者の仕事」「専門職としての保育者」とは(グループディスカッション)				
3	「保育者への期待」「保育者の責任」とは(グループディスカッション)				
4	私たちが考える「保育者」とは(まとめ・発表)				
5	実習体験の振り返りと今後の課題				
6	保育士として必要な専門性とは(発表形式)				
7	グループディスカッション(実習経験からの遊びの事例)				
8	『遊びのレシピ』作成①(手遊び等)				
9	模擬保育①(手遊び等)				
10	『遊びのレシピ』作成②(作って遊ぶ)				
11	模擬保育②(作って遊ぶ)				
12	保育活動の安全について考える(法的根拠等と照らし合わせて)				
13	『遊びのレシピ』作成③(伝える遊び)				
14	模擬保育③(伝える遊び)				
15	ロールプレイング①(子ども同士のかかわり方について考える)				
16	事例研究①(映像からの子ども理解)				
17	事例研究②(映像から記録にする)				
18	実習体験からの成果と課題 ロールプレイング②(教職員同士のかかわりについて考える)				
19	『遊びのレシピ』作成④(運動遊び)				
20	模擬保育④(縄跳びを使った遊び)				
21	保育者の研修の重要性について考える(実習経験をもとに話し合う)				
22	『遊びのレシピ』作成⑤(季節を意識した取り組み)				
23	模擬保育⑤(行事に向けての取り組み)				
24	保育行事に関する計画案の企画・作成				
25	クラス経営案を考える(担任の業務を含む)				
26	保護者との連携を考える(グループディスカッション)				
27	個人面談や家庭訪問を想定してのロールプレイング				
28	『遊びのレシピ』の製本				
29	グループディスカッション(これまでの学びの振り返り)				
30	これからの保育者に必要な資質能力について(まとめ)				
テキスト	適宜、授業内で資料を配布する				
参考書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
学生に対する 評価	発表 (50%)、提出物 (40%)、授業参加態度 (10%)				

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担当教員名
子どもの健康と安全	必修科目	演習	1単位	単独	細谷 光子
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目				
	(保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)					
授業のテーマ及び到達目標					
<p>授業のテーマ 保育者として、子どもの健康を守り高めるために必要な知識と技術を習得する。</p> <p>到達目標 ・保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 ・関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。 ・子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解する。 ・保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドラインや近年のデータ等に基づく、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。 ・子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。</p>					
授業の概要					
保育者に求められる、保健的観点を踏まえた知識や養護技術、ケガや疾病、感染症等への適切な対応、事故や災害等における安全管理能力等、健康と安全支援について、演習・実習を取り入れて講義する。					
授業計画					
回数	授業内容等				
1	オリエンテーション:子どもの健やかな育ちを支える 授業の進め方、成績評価方法、課題についての確認				
2	保健的観点を踏まえた保育環境及び援助(1):子どもの生活習慣と養護				
3	保健的観点を踏まえた保育環境及び援助(2):排泄への援助技術の習得(おむつ交換の演習)				
4	保健的観点を踏まえた保育環境及び援助(3):清潔への援助技術の習得(沐浴の演習)				
5	保育における健康安全管理の実際(1):保育施設等における衛生管理				
6	保育における健康安全管理の実際(2):発達段階からみた事故の特徴と事故防止、災害への備え				
7	子どもの体調不良等に対する適切な対応(1):発熱、嘔吐、下痢、咳、発疹、脱水、けいれん等				
8	子どもの体調不良等に対する適切な対応(2):応急処置(頭部打撲、出血、骨折)、熱中症への対応				
9	子どもの体調不良等に対する適切な対応(3):食物アレルギー・アナフィラキシーへの対応				
10	子どもの体調不良等に対する適切な対応(4):心肺蘇生法、AED操作、気道異物除去、エピペン投与				
11	感染症対策:集団保育における感染症対策(感染経路と感染様式、発生時の対応、登園停止と解除等)				
12	保育における保健的対応(1):3歳未満児の特徴やその対応				
13	保育における保健的対応(2):個別的な配慮を要する子どもへの対応(慢性疾患、アレルギー、心疾患等)				
14	保育における保健的対応(3):障害のある子どもへの対応(肢体不自由・呼吸・嚥下・視覚(聴覚)・発達等)				
15	保健安全管理の実施体制:保育における保健活動計画と評価、地域との連携(健康診断、保健だより)まとめ				
テキスト	保育者・養護教諭を目指す人のための子どもの保健～健康と安全～」(へるす出版)				
参考書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)、教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン(2016.3内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
学生に対する 評価	最終レポート(50%)、課題レポート(30%)、学習への意欲(20%)				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
保育内容の理解と方法Ⅱ ※児童文化、保育技術研究、卒業研究を含む	必修科目	演習	2単位	複数	阿部 恵 高橋 系太
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目 (保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)					
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 幅広い保育の技術を総合的に学び、グループで研究した保育技術を発表する。また前期の保育技術研究発表のまとめの資料作りと、分野の異なった保育技術を学ぶ。 到達目標 ・保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。 ・身体表現、音楽表現、造形表現、言語表現等の表現活動に関する知識や技術を習得する。 ・表現活動に係る教材等の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的展開のための技術を習得する。 ・子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 ・保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。					
授業の概要					
グループで研究・発表をし、研究発表の成果を記録にまとめる。保育の現場で役立つ技術を実践的に学ぶ。また 伝承遊びの研究・グループ発表。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	保育技術研究: 保育内容の基礎技能と保育技術研究。目的、研究する分野、グループ活動のねらい				
2	保育技術研究: 目的の周知と研究計画 グループ分け 研究分野の特色と発表目標				
3	保育技術研究: 題材の選びと脚本 題材の選び方 脚本の作り方 グループで研究計画を立てる記録の取り方				
4	保育技術研究: メンバーの役割 配役・声・効果等				
5	保育技術研究: 舞台効果 背景・大道具・小道具の考え方				
6	保育技術研究: グループごとの研究指導① 後半の活動計画				
7	保育技術研究: グループごとのとの研究指導② 音響効果と設備の使い方				
8	保育技術研究: グループごとの研究指導③ 舞台・照明効果と使い方				
9	保育技術研究: グループごとの研究指導④ 全体の通し練習				
10	保育技術研究: グループごとの研究指導⑤ 他のグループに見てもらい発表の見直し				
11	保育技術研究: グループごとの研究指導⑥ 発表の予行練習				
12	保育技術研究: 発表ビデオと実際の教材を見ながら、各技術の解説と研究記録作成の内容				
13	保育技術研究: 研究記録のまとめ方、写真や参考文献の扱い方				
14	保育技術研究: グループごとに研究記録のまとめ① 個人の感想記録提出				
15	保育技術研究: グループごとの研究記録のまとめ② グループごとの研究レポートをデーターで提出				
16	児童文化: パネルシアターブラックライト作品				
17	児童文化: パネルシアター演じ方				
18	児童文化: ペープサート① 作品を楽しむ 立絵芝居・紙人形芝居(紙芝居)からペープサートへ				
19	児童文化: ペープサート② ペープサート 紙と竹とのりの文化を学ぶ				
20	児童文化: ペープサート③ の作り方 教材研究: 紙飛行機あそび				
21	児童文化: ペープサート④ 作り方と作品作り 教材研究: けん玉遊び				
22	児童文化: ペープサート⑤ 学生実演1・2・3 教材研究: あやとり遊び				
23	児童文化: お手玉① 先人の願いが込められたお手玉作り・遊び 教材研究: ハンカチ遊び				
24	児童文化: お手玉② お手玉の特色・遊びの基本 教材研究: こま遊び				
25	保育技術: 園だより・クラスだより・行事だより① 園と家庭をつなぐ 教材研究: たこ遊び				
26	保育技術: 園だより・クラスだより・行事だより② 役割の違い・作成ポイント 教材研究: 手品遊び①				
27	保育技術: クラスだより③ 編集のテクニック 教材研究: 手品遊び②				
28	保育技術: クラスだより④ 個々の課題たより制作				
29	保育技術: クラスだより⑤ 個々の課題たより交換・提出と評価				
30	後期のまとめ 保育理論と保育技術の融合				
テキスト	すきま時間あそび(阿部恵著、すずき出版)				
参 考 書 参 考 資 料 等	幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)、3歳児の保育資料(阿部恵編著、ひかりのくに)、4歳児の保育資料(阿部恵編著、ひかりのくに)、5歳児の保育資料(阿部恵編著、ひかりのくに)、3～5歳児育ちをとらえる!遊びと10の姿(阿部恵著、学研)ビデオ教材等				
学生に対する 評 価	毎時間のレポート(40%)や研究発表・提出物(60%)による。				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
子どもの食と栄養	必修科目	演習	2単位	単独	小鎌 みどり
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目 (保育士養成課程)保育の対象の理解に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)					
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
<p>授業のテーマ 子どもの健康と発育過程を理解させて離乳食・幼児食を食べさせられるようにする。健康と食生活の大切さを子どもに教えられるようにする。</p> <p>到達目標 ・健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。 ・子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。 ・養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。 ・家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 ・関連するガイドライン(参考資料)や近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。</p>					
授 業 の 概 要					
講義内容を復習しながら調理実習を行う。食育の媒体を作成し、食への理解と関心をもつ。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	食生活の意義について				
2	自分の食生活について考える				
3	食品と栄養について				
4	食事摂取基準・献立作成				
5	乳児期の栄養・妊娠期の食生活について				
6	離乳食について・衛生管理				
7	離乳食初期 調理実習				
8	離乳食中期調理実習				
9	離乳食後期・完了期調理実習				
10	離乳食まとめ 小テスト				
11	幼児期の食事について				
12	幼児期調理実習(3~5歳)				
13	幼児期調理実習(間食)				
14	幼児期お弁当・行事食献立作成				
15	幼児期調理実習(お弁当)				
16	幼児期調理実習(行事食)				
17	幼児期の食生活の問題点				
18	学童期の食生活・幼児期の食事のまとめ 小テスト				
19	食育について				
20	三色食品群媒体作り				
21	食育の歌を考える				
22	食育の歌発表				
23	食育カルタ作成				
24	食育カルタ発表				
25	地域の関係機関との連携				
26	食育のまとめ				
27	食育だより作成				
28	児童福祉施設における食事と栄養				
29	特別な配慮を要する子どもの食事と栄養				
30	子どもの食生活の現状と課題・まとめ				
テキスト	最新子どもの食と栄養(飯塚美和子編著、学建書院)				
参 考 書 参 考 資 料 等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)				
学生に対する 評 価	提出物(40%)、授業中の態度(20%)、小テスト(40%)				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
子ども家庭支援論	必修科目	講義	2単位	単独	小蘭江 幸子
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目 (保育士養成課程)保育の本質・目的に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)					
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
<p>授業のテーマ 保育実践と並ぶ保育士の職務である家庭支援についての保育士・保育所の役割と実際の援助の仕方を学ぶ。</p> <p>到達目標 ・子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 ・保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 ・子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 ・子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。</p>					
授 業 の 概 要					
子どもにとってかけがえない場である家庭を支援する保育士の役割を学ぶ。その役割を果たすために、家庭を支援する理論を学び祖の方法を身につける。支援者として子どもと家族が暮らす家庭という場についての理解を深める。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	子ども家庭支援の意義と役割、必要性について学び、家族と家庭について基本的理解をする。				
2	子ども家庭支援の目的と機能について学び、養育、保護、休息、文化継承、倫理観醸成視点から学ぶ。				
3	家庭における子どもの発達と親の発達、また役割の変化について学ぶ。				
4	保育士の専門性を活かした支援について、子どもの育ちの喜びの共有を例にとって学ぶ。				
5	保護者や地域の子育て実践力の向上への支援を事例を通して学ぶ。				
6	保育士に求められる基本的態度である受容的な関わり、自己決定の尊重、秘密保持について学ぶ。				
7	家庭の状況に応じた支援の仕方について、アセスメントの作成と実際の対応について検討する。				
8	地域の力の活用、自治体、関係機関との連携、協力について、事例を通して学ぶ。				
9	子育て家庭の福祉を図るための社会資源、令和5年度発足子ども家庭支援庁について学ぶ。				
10	子育て支援施策、次世代育成、支援施策の推進について実例を見比べながら学ぶ。				
11	保育所を利用する家庭への支援、地域の子育て家庭の支援について実例を通して学ぶ。				
12	父親の子育てへの支援、育児モデルとなるような伝承的育児法や育児の知恵について学ぶ。				
13	要保護児童家庭の支援について事例を通して学ぶ。				
14	子ども家庭支援に関する現状と今後の課題について概観する。				
15	世界の子育てと、子育て支援について、スウェーデン、カナダ、フィンランドの例から学ぶ。				
テキスト	児童の福祉を支える「子ども家庭支援論」(吉田真理著、萌文書林)				
参 考 書 参 考 資 料 等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)				
学生に対する 評 価	授業態度(10%)、提出物(40%)、試験(50%)等による総合評価				

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担当教員名
社会的養護Ⅱ	必修科目	演習	1単位	単独	石井 真一
施行規則に定める科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目				
	(保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが必要な事項等(教員養成課程)					
授業のテーマ及び到達目標					
<p>授業のテーマ 社会的養護の実態および未来像を掴みながら、演習を通じて「実践力」を高める。</p> <p>到達目標 ・子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。 ・施設養護及び家庭養護の実際について理解する。 ・社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。 ・社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。 ・社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。</p>					
授業の概要					
「社会的養護Ⅰ」で獲得した知識を連動させながら、「実践」を見据えてワークやディスカッション等により「援助技術」を体験・獲得していく					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	イントロダクション～社会的養護Ⅰを振り返り、本授業(演習)のガイダンスとする				
2	多様化する「家族」「家庭」問題から要保護児童発生要因を考察する→ワーク				
3	「親」になるとは→VTR活用し、自らの考えを整理し「グループディスカッション」で意見交換する				
4	児童虐待について①→ロールプレイ動画等活用し、発生の背景やダメージのしくみを考察する				
5	児童虐待について②→マルトリートメントによるダメージへのケアを具体的に考える(ワーク)				
6	要保護児童の養育は「里親」「施設」だけ?→VTR活用により既存概念を再考察してみる				
7	施設で働く職員(保育士)、専門職について→現場実践に携わる職員からの話から保育所等の保育士との違いを考察する				
8	実践現場における援助的な人間関係構築の原則と技法①→個別化・傾聴等ワーク				
9	実践現場における援助的な人間関係構築の原則と技法②→問題の明確化等チームワーク体験				
10	権利擁護について →「子どもの権利条約」理解をふまえて実践における取り組みを考察する				
11	「当事者参加」について考える→入所児童、退所児童が社会的養護の暮らしへ主体的参画するには				
12	「自立支援」について →リーディングケア、アフターケアの重要性を理解する				
13	「自立支援計画書」策定ワーク①→これまでの学びを踏まえて実際に計画策定を体験する				
14	「自立支援計画書」策定ワーク②→※「定期試験」を連動する				
15	社会的養護Ⅱ 総まとめ 15回講義を整理して、子どもの育ちを支える実践者へと意識を向ける				
テキスト	使用せず				
参考書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)				
学生に対する 評価	定期試験(60%)、毎回提出リアクションペーパー、授業態度(40%)で総合評価				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
乳児保育Ⅱ	必修科目	演習	1単位	単独	鈴木 多美子
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目				
	(保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)					
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
<p>授業のテーマ 乳児の成長・発達を理解し、『育ちや学びを支える』という視点を持つ。一人ひとりの子どもの生活援助をチームワークを活かし、創意工夫を図る等の専門性を身につける。</p> <p>到達目標 ・3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 ・養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもたちの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 ・乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 ・上記を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。</p>					
授 業 の 概 要					
・乳児の成長・発達を理解する ・科学的観察力と優しい心をグループワークを通して体験する ・乳児の遊びについて体験したことをプレゼンテーションする					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	乳児保育の基本				
2	子どもの生活の流れ(0歳児クラス)				
3	子どもの保育環境(0歳児クラス)				
4	子どもの援助の実際(0歳児クラス)				
5	子どもの生活の流れ・保育環境・援助の実際(1歳児クラス)				
6	乳児の遊びと援助				
7	手作りおもちゃ				
8	グループワーク				
9	子どもの生活の流れ・保育環境・援助の実際(2歳児クラス)				
10	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮				
11	集団での生活における配慮・環境の移行に対する配慮				
12	長期的な指導計画と短期的な指導計画				
13	個別的な指導計画と集団の指導計画				
14	プレゼンテーション				
15	まとめ				
テキスト	乳児保育Ⅰ・Ⅱ(古橋紗人子・中谷奈津子編著、建帛社)				
参 考 書 参 考 資 料 等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)、乳児保育Ⅰ・Ⅱ(中央法規)、乳児保育(一藝社)、日本が誇る!ていねいな保育(小学館)、子どもの未来をひらくエンパワメント科学(日本評論社)、ホモ・ルーデンス(講談社)				
学生に対する 評 価	演習レポート(20%)、ペーパーテスト・課題レポート等(80%)				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	単位数	授業方法	担 当 教 員 名
保育実習Ⅰ	必修科目	4単位	実習	池田 幸代 宮崎 信子
施行規則に定める各科目 区分又は事項等	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目 (保育士養成課程)保育実習			
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標				
到達目標 ・保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 ・観察や乳幼児(利用者)との関わりを通して乳幼児(利用者)への理解を深める。 ・既習の教科目の内容を踏まえ、乳幼児(利用者)の関わり及び保護者への支援について総合的に理解する。 ・保育(活動)の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 ・保育士(職員)の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。				
実 習 等 実 施 計 画				
保育実習の内容及び成績評価等				
①保育実習の時期 ○幼稚園教員・保育士養成科第Ⅰ部 1年次 2月上旬～3月下旬、 2年次 5月上旬～5月下旬、または、7月中旬～8月下旬、または11月上旬～11月下旬 ○幼稚園教員・保育士養成科第Ⅱ部 2年次 7月中旬～8月下旬、または11月上旬～11月下旬 3年次 5月上旬～5月下旬、または、7月中旬～8月下旬、または11月上旬～11月下旬				
②保育実習の実習期間・総時間数 保育所 2週間(90時間) 児童福祉施設 2週間(90時間)				
③実習施設の確保・方法 養成校が指定する施設の中から、実習生が希望する実習施設を選び内諾を得る。				
④保育実習内容 指定期間内に、観察実習・参加実習・部分実習を必ず実施する。 ○観察実習;乳幼児(施設通所児・者及び入所児・者)の様子を観察・記録し、実態や一日の流れを学ぶ。 ○参加実習;クラス担任(担当)と乳幼児(施設通所児・者及び入所児・者)の活動に参加し、クラス担任(担当)の役割や配慮、環境構成などを学ぶ。 ○部分実習;実習生が部分実習指導計画案を立案しクラス担任(担当)から指導を受け、活動の一部分(歌唱指導・制作指導・レクリエーション活動等)を担当し実施する。				
園長(施設長)・主任保育士(職員)等により、実習施設の運営方針や活動の特色、職員体制や地域との関わりなどを学ぶ。乳幼児(施設通所児・者及び入所児・者)降園(帰宅)後の保育士(職員)の職務内				
⑤実習生に対する指導の方法 指導教員が実習施設へ巡回指導を行い、担当職員と実習進行状況の確認を行う。保育実習期間中、実習生からの相談・報告等を受けられるよう態勢を整える。				
⑥保育実習の成績評価(評価の基準及び方法) 実習施設からの実習評価書、担当教員の評価、実習記録簿の記録状況等を総合的に評価し、実習運営委員会において成績評価を行う。				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)			

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	単位数	授業方法	担当教員名
保育実習Ⅱ	選択科目	2単位	実習	池田 幸代 宮崎 信子
施行規則に定める各科目区分又は事項等	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目 (保育士養成課程)保育実習			
各科目に含めることが必要な事項等(教員養成課程)				
授業のテーマ及び到達目標				
<p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。 ・乳幼児の観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。 ・既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、乳幼児の保育及び子育て支援について総合的に理解する。 ・保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。 ・保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。 ・実習における自己の課題を明確化する。 				
実習等実施計画				
保育実習の内容				
<p>①保育実習の時期</p> <p>○幼稚園教員・保育士養成科第Ⅰ部 2年次 5月上旬～5月下旬、または、7月中旬～8月下旬、または11月上旬～11月下旬</p> <p>○幼稚園教員・保育士養成科第Ⅱ部 3年次 5月上旬～5月下旬、または、7月中旬～8月下旬、または11月上旬～11月下旬</p>				
<p>②保育実習の実習期間・総時間数</p> <p>保育所 2週間(90時間)</p>				
<p>③実習施設の確保・方法</p> <p>養成校が指定する保育所の中から、実習生が希望する実習施設を選び内諾を得る。</p>				
<p>④保育実習内容</p> <p>指定期間内に、観察実習・責任実習を必ず実施する。</p> <p>○観察実習：乳幼児の様子を観察・記録し、実態や一日の流れを学ぶ。</p> <p>○責任実習：実習生が責任実習指導計画案を立案しクラス担任から指導を受け、登園から降園までの1日の活動を担当し実施する。</p> <p>園長・主任保育士等により、保育所の運営方針や保育活動の特色、職員体制や地域との関わりなどを学ぶ。乳幼児降園後の保育士の職務内容を理解する。</p>				
<p>⑤保育実習生に対する指導の方法</p> <p>指導教員が実習園へ巡回指導を行い、実習園担当職員と実習進行状況の確認を行う。保育実習期間中、実習生からの相談・報告等を受けられるよう態勢を整える。</p>				
<p>⑥保育実習の成績評価(評価の基準及び方法)</p> <p>実習園からの実習評価書、担当教員の評価、実習記録簿の記録状況等を総合的に評価し、実習運営委員会において成績評価を行う。</p>				
参考書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)			

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	単位数	授業方法	担 当 教 員 名
保育実習Ⅲ	選択科目	2単位	実習	池田 幸代
施行規則に定める各科目区分又は事項等	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目 (保育士養成課程)保育実習			
各科目に含めることが必要な事項等(教員養成課程)				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標				
<p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して、理解する。 ・家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。 ・保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 ・実習における自己の課題を理解する。 				
実 習 等 実 施 計 画				
保育実習の内容及び成績評価等				
<p>①保育実習の時期</p> <ul style="list-style-type: none"> ○幼稚園教員・保育士養成科第Ⅰ部 2年次 5月上旬～5月下旬、または、7月中旬～8月下旬、または11月上旬～11月下旬 ○幼稚園教員・保育士養成科第Ⅱ部 3年次 5月上旬～5月下旬、または、7月中旬～8月下旬、または11月上旬～11月下旬 				
<p>②保育実習の実習期間・総時間数</p> <p>児童福祉施設 2週間(90時間)</p>				
<p>③実習施設の確保・方法</p> <p>養成校が指定する施設の中から、実習生が希望する実習施設を選び内諾を得る。</p>				
<p>④保育実習内容</p> <p>指定期間内に、観察実習・部分実習を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○観察実習;施設通所児・者及び入所児・者の様子を観察・記録し、実態や一日の流れを学ぶ。 ○部分実習;実習生が部分実習指導計画案を立案し担当から指導を受け、活動の一部分(歌唱指導・制作指導・レクリエーション活動等)を担当し実施する。 <p>施設長・主任職員等により、施設の運営方針や活動の特色、職員体制や地域との関わりなどを学ぶ。 施設通所児・者及び入所児・者帰宅後の職員の職務内容を理解する。</p>				
<p>⑤保育実習生に対する指導の方法</p> <p>指導教員が実習施設へ巡回指導を行い、実習施設担当職員と実習進行状況の確認を行う。保育実習期間中、実習生からの相談・報告等を受けられるよう態勢を整える。</p>				
<p>⑥保育実習の成績評価(評価の基準及び方法)</p> <p>実習施設からの実習評価書、担当教員の評価、実習記録簿の記録状況等を総合的に評価し、実習運営委員会において成績評価を行う。</p>				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)			

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担当教員名
保育実習指導Ⅲ	選択科目	演習	1単位	単独	池田 幸代
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目 (保育士養成課程)保育実習				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)					
授業のテーマ及び到達目標					
<p>授業のテーマ 施設保育士・職員として求められる資質・知識・技術などについて学ぶ。</p> <p>到達目標 ・保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 ・実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 ・保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 ・保育士の専門性と職業倫理について理解する。 ・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。</p>					
授業の概要					
<p>保育実習Ⅰの経験を踏まえて、保育所以外の児童福祉施設での実習の意義と目的を理解する。 また、施設における利用児・者の生活について実践を通して学び、施設保育士としての専門性について理解を深める。</p>					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	オリエンテーション 施設実習について				
2	施設の種別と理解				
3	実習Ⅰの振り返り、自己課題の設定				
4	施設における利用児の生活と支援				
5	施設における保護者支援				
6	施設における利用者の生活と支援				
7	施設における家族支援				
8	事例から考える①エピソード記録から				
9	事例から考える②エピソード記録から				
10	DVD視聴「児童養護施設の日」				
11	実習の記録の方法①時系列記録				
12	実習の記録の方法②エピソード記録				
13	実習事前指導				
14	実習事後指導①実習生同士の振り返り				
15	実習事後指導②自己課題の明確化				
テキスト	特になし				
参考書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)				
学生に対する 評価	レポート:50% 授業中の提出物:50%				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
情報機器の演習	必修科目	演習	2単位	単独	生山 浩
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)教育職員免許法施行規則第六十六条の六に定める科目 (保育士養成課程)教養科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	情報機器の操作				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
保育現場での情報機器の活用を想定し、学級事務に関わる手紙や保育に関わる教材等をOfficeソフトを使って作成できるよう技能を身につけます。					
授 業 の 概 要					
Officeソフト(Word、Excel、PowerPoint)の操作方法を学び、手紙や教材等を作成します。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	環境の準備(フォルダの作成)、インターネット(シークレットモード、e-mail)の使い方				
2	Wordによる入園式の案内書作成:日付、宛先、差出人、タイトルなどの入力とレイアウト、あいさつ文の挿入				
3	Wordによる入園式の案内書作成:記書きの作成、簡易地図の作成、				
4	Wordによる入園式の案内書作成:印刷、PDF化、メール送信				
5	Wordによるクラスだよりの作成:表組、罫線、セルの結合・分割				
6	Wordによるクラスだよりの作成:イラストや写真の貼り付け・加工				
7	Wordによるクラスだよりの作成:印刷、PDF化、メール送信				
8	Excelによる基礎名簿の作成:名簿入力、オートフィル、列幅調整、罫線				
9	Excelによる住所録の作成:郵便番号入力、郵便番号から住所変換、罫線による表組				
10	Excelによる出席簿の作成:日付の入力、曜日の自動入力(関数)、表示枠の固定化、集計、抽出				
11	Excelによる身体測定簿の作成:データ入力、単位の設定、集計(関数)、並べ替え、グラフ化				
12	PowerPointによる絵本の作成:図表によるイラスト作成				
13	PowerPointによる絵本の作成:アニメーションの設定、スライドショーの設定				
14	Word、Excel、PowerPoint間のデータコピーなど				
15	Officeソフトの理解度確認テスト				
テキスト	なし				
参 考 書 参 考 資 料 等	授業中に適宜配布 幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園 教育・保育要領(2017.3告示)				
学 生 対 対 する 評 価	提出物の評価(50%)、理解度確認テスト(50%)				

シラバス

授業科目名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担当教員名
英語コミュニケーション	必修科目	演習	2単位	単独	ジム・ハッサウエイ
施行規則に定める科目区分	(教員養成課程)教育職員免許法施行規則第六十六条の六に定める科目 (保育士養成課程)教養科目				
各科目に含めることが必要な事項等(教員養成課程)	英語コミュニケーション				
授業のテーマ及び到達目標					
<p>授業のテーマ</p> <p>Our goal is to improve your English communication skills and to improve your understanding of different cultures around the world. (英語のコミュニケーションスキルと世界中の様々な文化に対する理解の向上を目的とする。)</p> <p>到達目標</p> <p>We will use our textbook to practice English communication and learn about different cultures. (教科書を用いて、英語コミュニケーションの実践と異文化について学ぶ。)</p>					
授業の概要					
We will also use original materials such as picture books, tv shows, TED Talks, songs, dances, and games (講義において適宜、独自の素材「絵本・テレビ番組・TED Talks・歌・ダンス・ゲーム」を用いる。)					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	Orientation, and begin chapter "Hi." (オリエンテーションとチャプター1"こんにちは。")				
2	Chapter 2, How Long (チャプター2"どのくらい")				
3	Chapter 3, Looking around (チャプター3"周りを見渡す")				
4	Chapter 4 The Classroom, first textbook check, Summer homework assignment (チャプター4"教室で教科書の確認、夏の宿題")				
5	Chapter 5 Good-bye and Directions (チャプター5"道順とさようなら")				
6	Chapter 6, What is a name? (チャプター6"あなたの名前は?")				
7	Chapter 7 Review (チャプター7"復習")				
8	Exam and Blues Clues (試験についてとTV番組"ブルース・クルーズ")				
9	Chapter 8 Children's Books (チャプター8"子どもの本")				
10	Chapter 9 Mother Goose (チャプター9"マザー・グース")				
11	Chapter 10 A Field Trip (チャプター10"校外学習")				
12	Chapter 11 Is He Sick? (チャプター11"彼は病気ですか?")				
13	Chapter 12 Stinky (チャプター12"忌々しい")				
14	Chapter 13 Games (チャプター13"ゲーム")				
15	Chapter 14 Graduation (チャプター14"卒業") Review for the Exam (試験の復習)				
テキスト	English and Culture, by Jim Hathaway, 2016, Sixth Edition 2023 (保育者と介護者になるための英語と文化理解の自作テキスト)				
参考書 参考資料等	TED Talk Sir Ken Robinson, "Do Schools Kill Creativity?" (TED Talk ケン・ロビンソン「学校は創造性を失うのか?」)				
学生に対する 評価	Class Participation 30%, Work in Textbook 30%, Exams 40% (授業態度30%、教科書への取り組み30%、試験40%)				

令和5年度 前期

シ ラ バ ス

道灌山学園保育福祉専門学校

介護福祉士専攻科

令和5年度（前期）

シラバス

介護福祉士専攻科

授業科目名	社会の理解	時間数（単位数） 15時間	担当者 氏名	宮島直丈
授業の到達目標 およびテーマ	個人の自立生活理解のための、社会単位での人間理解の視点を涵養する。			
授業の概要	介護専門職となるべき人間としての、総合的な社会及び社会保障制度の理解。特に「介護保険制度」については中心的に授業を行う。			

授業計画

回数	講義等の内容
1	我が国の社会保障制度について（基本的考え方・歴史・社会的背景）
2	我が国の社会保障制度について（体系と各分野・今日的課題と動向）
3	「介護保険制度」について①
4	「介護保険制度」について②
5	「介護保険制度」について③
6	「介護保険制度」について④
7	介護実践にかかわるその他福祉諸制度①（老人福祉・障害者福祉分野を中心に）
8	介護実践にかかわるその他福祉諸制度②（老人福祉・障害者福祉分野を中心に）

テキスト・参考資料等	介護福祉士養成講座編集委員会編『社会の理解』 中央法規
授業の形態等	講義。
学生に対する評価等	定期試験、出席状況、授業態度、提出物等より総合的に評価。

令和5年度（前期）

シラバス

介護福祉士専攻科

授業科目名	介護の基本 I	時間数（単位数） 30時間	担当者 氏名	宮島直丈
授業の到達目標 およびテーマ	これからの介護福祉士の役割と機能について考えながら、社会から要請される介護福祉士についての明確な認識を持つ。			
授業の概要	介護福祉士を取り巻く社会的・歴史的・文化的状況等の理解を進めながら、現代日本社会における介護福祉士の役割と機能を理解する。			

授 業 計 画

回数	講義等の内容
1	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみⅠ（「社会福祉士及び介護福祉士法」解説①）
2	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみⅡ（「社会福祉士及び介護福祉士法」解説②）
3	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみⅢ（介護福祉士養成制度の歴史、しくみ、意義①）
4	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみⅣ（介護福祉士養成制度の歴史、しくみ、意義②）
5	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみⅤ（福祉専門職と職能団体「日本介護福祉士会」）
6	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみⅥ（介護福祉士にとっての労働環境再考①）
7	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみⅦ（介護福祉士にとっての労働環境再考②）
8	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみⅧ（高齢者福祉施設体系と種類の理解①）
9	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみⅨ（高齢者福祉施設体系と種類の理解②）
10	「介護」の社会的背景Ⅰ（少子高齢社会の推移・現状・課題①）
11	「介護」の社会的背景Ⅱ（少子高齢社会の推移・現状・課題②）
12	「介護」の社会的背景Ⅲ（少子高齢社会の推移・現状・課題③）
13	「介護」の社会的背景Ⅳ（家族機能の変化・地域社会の変化①）
14	「介護」の社会的背景Ⅴ（家族機能の変化・地域社会の変化②）
15	授業まとめ これからの介護福祉士の役割と機能・求められる介護福祉士像
テキスト・参考資料等	介護福祉士養成講座編集委員会編『介護の基本Ⅰ』『介護の基本Ⅱ』中央法規
授業の形態等	講義。
学生に対する評価等	定期試験、出席状況、授業態度、提出物等より総合的に評価。

授業科目名	介護の基本Ⅲ	時間数（単位数） 30時間	担当者 氏名	信川 京子
授業の到達目標 およびテーマ	介護を必要とする人の個別性に対応するために、生活の多様性や社会とのかかわりを理解できるようにする。また、介護を必要とする人の生活を支援するという観点から介護サービスや地域連携など、フォーマル、インフォーマルな支援を理解できるようにする。			
授業の概要	介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援、介護実践における基礎となる知識を理論的に学ぶ。			

授 業 計 画

回数	講義等の内容
1	オリエンテーション 人間と社会の理解
2	私たちの生活の理解Ⅰ
3	私たちの生活の理解Ⅱ
4	介護を必要とする人たちの暮らしⅠ
5	介護を必要とする人たちの暮らしⅡ
6	介護を必要とする人たちの暮らしⅢ
7	「その人らしさ」と「生活のニーズ」の理解Ⅰ
8	「その人らしさ」と「生活のニーズ」の理解Ⅱ
9	「その人らしさ」と「生活のニーズ」の理解Ⅲ
10	演習1-2
11	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみⅠ
12	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみⅡ
13	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみⅢ
14	まとめ、予備日
15	試験

テキスト・参考資料等	最新介護福祉士養成講座4「介護の基本Ⅱ」、見て覚える介護福祉ナビ
授業の形態等	講義、グループ学習、発表
学生に対する評価	出席（10%）、提出物・授業態度（30%）定期試験（60%）

令和5年度（前期）

シラバス

介護福祉士専攻科

授業科目名	コミュニケーション の基本	時間数(単位数) 20時間	担当者 氏名	吉川美加
授業の到達目標 およびテーマ	援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や家族、 多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につける。			
授業の概要	介護におけるコミュニケーションの基本を理解した上で、具体的なコミ ュニケーション技法をグループ演習を通して学ぶ。			

授 業 計 画

回 数	講 義 等 の 内 容
1	介護におけるコミュニケーションの意義と目的 ～伝達トレーニング～
2	介護におけるコミュニケーションの役割～利用者に喜ばれる言葉、嫌われる言葉～
3	利用者・家族との信頼関係を築くための言葉遣い ～あいさつ・敬語～
4	話を聴く技法 ～傾聴・受容・共感～
5	質問の技法
6	相談・助言・指導の技法
7	利用者の意欲を引き出す技法
8	利用者・家族の意向を調整する方法
9	介護におけるチームのコミュニケーション～報・連・相～
10	まとめ・試験：介護における援助的コミュニケーション

テキスト・参考資料等	コミュニケーション技術（中央法規）プリント
授業の形態等	講義・演習・グループワーク
学生に対する評価等	授業参加態度・小テスト・レポート等を総合して評価

授業科目名	点字による コミュニケーション	時間数(単位数) 20時間	担当者 氏名	坂本 俊二
授業の到達目標 およびテーマ	点字の読み書き、表記の仕方を習得し、視覚障害者とのコミュニケーション能力を養うとともに視覚障害者への理解を深める。			
授業の概要	点字の読み書きと表記の仕方を習得及び視覚障害者とのコミュニケーションの望ましい在り方を学ぶ。			

授 業 計 画

回数	講義等の内容
1	視覚障害者の特性と点字の歴史
2	点字の校正と表記の仕方について
3	50音の読み書きの習得と表記の仕方について
4	長音・促音・句点・読点の習得と表記の仕方について
5	濁音の読み書きの習得と表記の仕方について
6	拗音の読み書きの習得と表記の仕方について
7	数字の読み書きと表記の仕方について
8	英字の読み書きと表記の仕方について
9	文章の読み書きと表記の仕方について
10	点字によるコミュニケーションとまとめのテスト

テキスト・参考資料等	点字によるコミュニケーション 点訳のしおり
授業の形態等	講義 演習 点字器による実技
学生に対する評価等	提出物・テスト等を総合して評価する。

令和5年度(前期)

シラバス

介護福祉士専攻科

授業科目名	手話による コミュニケーション	時間数(単位数) 20時間	担当者 氏名	高島 良宏 太田 佳代子
授業の到達目標 およびテーマ	聴覚障害者の心理及びコミュニケーションの留意点を理解し、介護場面に役立てることができる。			
授業の概要	(講義) 聴覚障害者とのコミュニケーション方法と心理について学ぶ。 (実技) 音声なしの手話で基本的手話を学ぶ。			

授 業 計 画

回数	講義等の内容
1	(講義) 聴覚障害者とのコミュニケーション方法と留意点について
2	(実技) オリエンテーション(授業中のルール説明) 名前・数・色・家族・出身地
3	(実技) 自己紹介(趣味・職業・現住所など)
4	(講義) 聴覚の仕組みと聴覚障害の種類について
5	(講義) 補聴器・人工内耳・ろう教育について
6	(実技) 略歴(現在・過去・未来・曜日)
7	(実技) 通勤・通学・嗜好品・食習慣
8	(講義) 聴覚障害の心理的影響について(聴覚障害者の種類別理解)
9	(実技) 病院(病気・ケガ)まとめ
10	(講演) 「聴覚障害者の視点」

テキスト・参考資料等	生活支援技術Ⅲ(中央法規)
授業の形態等	実技及び講義
学生に対する評価等	レポート課題と平常点(授業態度等)

令和5年度（前期）

シラバス

介護福祉士専攻科

授業科目名	生活支援技術 I 自立に向けた住環境の整備	時間数（単位数） 30時間	担当者 氏名	池田 えり子
授業の到達目標 およびテーマ	ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、生活の豊かさや心身の活性化の支援について考える。また介護ロボットを含め福祉用具を活用や高齢者・身障者にとって安全で快適な住環境について必要な知識を習得する。			
授業の概要	事例による判断、知識を学ぶ。自立に向けた住環境の整備を学び、安全で快適な生活環境とは何か演習を通して学ぶ。			

授 業 計 画

回数	講義等の内容
1	生活支援についての理解 環境整備のための理念
2	ICFの視点をもって利用者の全体像、個別性の大切さを理解する
3	生活支援におけるチームアプローチの重要性の理解
4	高齢者・身障者にとって安全、快適な住まいの実際 1
5	住まいの役割と機能
6	実習室の使い方・安全で快適な環境とは何か
7	寝心地の良いベッドとは ベッドメイキング
8	一人で行うベッドメイキング
9	ベッドで臥床している場合のシーツ交換
10	高齢者・身障者にとって安全、快適な住まいの実際 2
11	環境でひそんでいる危険とは？
12	ユニバーサルデザイン・バリアフリーについて考える
13	住宅改修・福祉用具の意義・目的・福祉用具（ロボット等を含む）の活用
14	実技試験
15	筆記試験

テキスト・参考資料等	生活支援技術 I（中央法規）
授業の形態等	作図・講義・ビデオ視聴・実技演習を行う。
学生に対する評価等	出席状況・授業態度・提出物・試験等で総合評価する

令和5年度（前期）

シラバス

介護福祉士専攻科

授業科目名	生活支援技術Ⅱ 自立に向けた身支度、入浴、清拭	時間数（単位数） 60時間	担当者 氏名	池田 えり子
授業の到達目標 およびテーマ	その人がその人らしく生活するための個別性を大切にした介護を提供できる知識、技術を幅広く習得する。			
授業の概要 (2コマ連続)	清潔保持・身じたくに必要な基本的知識と技術などグループワーク通して学ぶ。			

授 業 計 画

回数	講義等の内容
1	はじめに・感染予防と手洗い・爪切り
2	身じたくとは・他者の衣類のこだわりについて・高齢者の身だしなみについて 整容・化粧・洗顔清拭（仰臥位）
3	被服の着用の目的 衣服の着脱介助を考える
4	衣服の着脱介助① 前あき、かぶりの交換 片麻痺の衣服介助を考える
5	課外授業 巣鴨へ出かけよう・高齢者の装いを実際にふれる
6	課外授業での振り返り 衣服の着脱介助② 臥位のままの着脱介助を考える 和式寝巻きの交換
7	着脱の実技試験
8	入浴、清拭保持の意義と目的を考える
9	ベッド上での洗髪
10	入浴
11	清拭
12	口腔ケア
13	筆記試験
14	実習前技術の見直し1
15	実習後技術の見直し2

テキスト・参考資料等	生活支援技術Ⅱ（中央法規）
授業の形態等	講義・ビデオ視聴・実技演習を行う。
学生に対する評価等	出席状況・授業態度・提出物・試験等で総合評価する

令和5年度（前期）

シラバス

介護福祉士専攻科

授業科目名	生活支援技術Ⅲ 自立に向けた移動・排泄	時間数（単位数） 60時間	担当者 氏名	吉河 幸子
授業の到達目標 およびテーマ	「活動」「排泄」に関する支援技術を習得する。			
授業の概要 (2コマ連続)	講義にて日常生活動作の知識・エビデンスを学ぶ。演習前半で援助技術の基本を習得し、後半では事例を計画展開し発表・評価する。			

授 業 計 画

回数	講義等の内容
1	「移動」に関する医学的知識 ・移動の意義と目的
2	援助の基本：安全・安楽・自立の支援・尊厳を守る・コミュニケーション ボディメカニクス ・体位変換：①水平移動 ②仰臥位⇔側臥位
3	生理的な動きの理解・体位変換：③仰臥位⇔側臥位⇔立位・車椅子への移乗
4	車いす介助の実際
5	歩行介助： ①杖の種類 ②杖歩行の介助 ③床からの立ち上がり
6	事例展開と発表
7	「移動」単元テスト 「移動」の技術テスト
8	ガイドヘルプ
9	「排泄」の意義と目的 ・排泄に関する医学的知識 ・排泄援助の留意点
10	排泄障害と援助
11	便器 ・尿器 ・ポータブルトイレでの介助
12	おむつ交換 ・陰部洗浄
13	事例展開
14	事例展開発表
15	「排泄」単元 テスト ・総復習

テキスト・参考資料等	生活支援技術 I II（中央法規）
授業の形態等	講義・演習
学生に対する評価等	技術テスト ・ペーパーテスト・レポート ・授業態度 ・出欠

授業科目名	生活支援技術Ⅳ 自立に向けた食事の介護	時間数（単位数） 30時間	担当者 氏名	糸沢 克枝
授業の到達目標 およびテーマ	要介護者にとっておいしく、楽しく、安全に食べるとは何かを考え、食事介護の工夫や環境作り、好みの配慮、調理の工夫、自助具の活用等ができる。			
授業の概要	栄養と食事の基礎知識を基に、機能低下、咀嚼・嚥下障害、感覚障害、認知障害等の介助方法を演習しながら学ぶ。			

授 業 計 画

回数	講義等の内容
1	食事の意義と目的①自立生活を支える食事の介護②食事に関連したからだのしくみ
2	食事の意義と目的③食事におけるアセスメント
3	嚥下のメカニズム 摂食と嚥下運動（ビデオ）
4	嚥下しやすい姿勢 演習「仰臥位 30度、70度ギャッジアップ」
5	自立に向けた食事介助の実際 事例検討 ①運動機能障害がある場合
6	〃 事例検討 ②視覚障害がある場合
7	状態に応じた食事介助の実際 事例検討 ③寝たきりの場合（ベッド上で行う食事の介助）
8	食後の口腔ケア
9	脱水予防・誤嚥・窒息の防止、嚥下体操
10	変化の気づきと対応（救急処置）
11	栄養・献立と調理
12	治療食
13	高齢者の食事・嚥下食の実際
14	他職種との連携 事例検討
15	試験・まとめ

テキスト・参考資料等	生活支援技術Ⅱ（中央法規）
授業の形態等	講義・演習・グループワーク等
学生に対する評価等	授業参加態度と試験による総合評価

令和5年度（前期）

シラバス

介護福祉士専攻科

授業科目名	介護過程 I	時間数(単位数) 60時間	担当者 氏名	糸沢克枝 吉川美加
授業の到達目標 およびテーマ	介護の対象を身体面・心理面、生きてきた時代や環境面等、あらゆる角度から理解する。 また、介護過程が個々のニーズの把握、計画的な介護の実践・評価の連続であると理解し、その思考過程を身に着ける。			
授業の概要 (2コマ連続)	演習（疑似体験・調べ学習・バイタルサインの測定等）を取り入れながら、対象の理解を深め、根拠のある介護実践のための思考過程を事例検討から学ぶ。			

授 業 計 画

回数	講義等の内容
1	介護過程とは？生活支援～その人らしさを考える 高齢者の生きてきた時代①
2	介護とは？対象の理解① 高齢者の特徴（身体的理解）
3	対象の理解② 高齢者の特徴（心理的理解）
4	高齢者疑似体験・高齢者の日常の理解
5	高齢者の生きていた時代② 昭和館見学
6	高齢者の生きていた時代③ 高齢者インタビューについてのまとめ・発表
7	介護過程の全体像①：認知症利用者の生活支援
8	介護過程の全体像②：障がい者の自己実現
9	対象の理解③ 観察・記録・報告（バイタルサインの測定）
10	対象の理解④ 高齢者の疾患と症状
11	認知症サポーター講座
12	介護過程における情報収集とアセスメント
13	利用者ニーズの（課題）の明確化
14	在宅高齢者の介護過程
15	高齢者の福祉の実践と工夫

テキスト・参考資料等	介護過程・発達と老化の理解・こころとからだのしくみ（中央法規）
授業の形態等	講義・演習・ビデオ視聴・グループワーク
学生に対する評価等	授業参加態度・レポート等を総合して評価

令和5年度（前期）

シラバス

介護福祉士専攻科

授業科目名	介護総合演習Ⅰ	時間数(単位数)	担当者	吉川美加
		30時間	氏名	池田えり子
授業の到達目標 およびテーマ	実習の事前学習として、介護施設の概要と利用者の生活および介護福祉士の役割を理解する。実習のイメージを持ち、自己の目標、課題を明確化する。			
授業の概要 (2コマ)	実習に先立ち、3か所の介護施設に各2回訪問（5・6月）し、利用者、職員との関わりを通して、施設概要・利用者の生活・介護者の役割を学ぶ。また社会福祉協議会・地域包括支援センター・見守りステーション共催の地域サロンに参加し、在宅生活の高齢者との交流を通し、地域ケアについて理解を深める。			

授 業 計 画

回数	講義等の内容
1	高齢者・障害児者施設を訪問、施設概要・利用者の生活・介護者の役割を学ぶ
2	介護老人福祉施設（特養）
3	介護老人保健施設（老健）
4	心身障害児通所訓練施設
5	知的障害者通所更生施設
6	小規模多機能施設
7	通所介護施設（デイサービス）
8	地域サロンに参加、在宅生活の高齢者との交流を通し地域ケアについて理解を深める。
9	

テキスト・参考資料等	プリント
授業の形態等	訪問学習
学生に対する評価等	参加態度と記録（参加翌日提出）による総合評価

授業科目名	介護総合演習Ⅱ	時間数（単位数） 30時間	担当者 氏名	吉川美加 池田えり子
授業の到達目標 およびテーマ	介護実習の意義と進め方を理解し、事前準備、実習中、事後学習によりそれぞれの段階に応じた実習目標を習得していく。現場で働く介護福祉士として自己を客観視し、利用者主体の介護の専門性を明確化できる。			
授業の概要 *2コマ	実習の事前学習、実習中、事後学習を自らの体験の中でまとめ、その都度発表、ディスカッションを通し、他者と情報共有をし、課題の明確化をはかっていく。（介護実践の科学的探究）			

授 業 計 画

回数	講義等の内容
1	実習の概要・目的と意義、事前学習・事後学習のあり方、訪問学習の記録の仕方
2	訪問学習報告① 報告書の記入と発表
3	訪問学習報告② 報告書の記入と発表
4	訪問学習報告③ 報告書の記入と発表
5	実習Ⅰ準備（個人票・誓約書記入） 実習オリエンテーション
6	実習Ⅰ準備 施設オリエンテーション報告・実習記録の書き方
7	実習Ⅰ報告 報告書記入と発表*
8	実習Ⅱ準備 実習の目標・記録の書き方（個別介護計画）
9	実習中の指導（帰校日：中間報告と実習後半の課題確認）
10	実習Ⅱ報告 報告書記入と発表 *
11	訪問介護実習準備 訪問介護の概要 実習の目的・目標の確認
12	訪問介護実習報告・まとめ*
テキスト・参考資料等	プリント
授業の形態等	講義・演習
学生に対する評価等	レポート、発表等授業参加態度による総合評価

令和5年度（前期）

シラバス

介護福祉士専攻科

授業科目名	実習施設Ⅱ 1段階	時間数(単位数) 80時間	担当者 氏名	池田えり子 吉川美加
授業の到達目標 およびテーマ	介護の現場において、コミュニケーションを通し、利用者理解ができるようになる。基本的介護技術を確認しながら実践できるようになる。また多職種協働を通じて、介護福祉士の役割を理解する。			
授業の概要	実習施設において個別に10日間の実習を行う。 毎日目標をもって実習に臨み、その日に学んだことを記録して提出する。 考察を必ず行い、指導者および巡回指導教員の助言を参考に目標を達成していく。			

授 業 計 画

回数	講義等の内容
1	指定介護老人福祉施設
2	指定介護老人保健施設にて実施
3	・施設の概要・沿革・地域社会における役割を知る
4	・利用者とのコミュニケーションを通して接し方を学ぶ
5	・利用者の生活環境と1日の生活の実態を知り、生活の質について考える
6	・他科目で学んだ知識・技術がどのように現場で活かされるか理解する
7	・日々の実習記録を適切な表現で記入し、提出する
8	
9	
10	
テキスト・参考資料等	他科目のテキスト全般・配布資料
授業の形態等	実習
学生に対する評価等	実習期間の出席状況、施設側と担当教員の総合評価

授業科目名	障害の理解	時間数（単位数） 30時間	担当者 氏名	初貝 幸江
授業の到達目標 およびテーマ	ノーマライゼーション理念に基づき共生社会を実現するために何が求められるか考察する姿勢をもつ。また障害の多様性について理解を深め自己の福祉観を確認する。			
授業の概要 2コマ	障害の捉え方と支援の変遷を理解する。障害当事者の障害受容、障害が及ぼす心理的影響、日常生活上の影響を他科目と関連づける。また自立支援を目指した専門職の役割を理解しチームケアにおける多職種協働や家族支援について習得する。			

授 業 計 画

回数	講義等の内容
1	オリエンテーション 障害の概念
2	障害者の法的定義 基本理念3-①
3	基本理念3-②
4	基本理念3-③（ミニテスト）
5	障害の実際 ゲストAスピーカー・当事者から2-①
6	障害の実際 ゲストAスピーカー・当事者から2-②
7	障害のある人への支援3-①
8	障害のある人への支援3-②
9	障害の実際 ゲストBスピーカー・当事者から2-①
10	障害の実際 ゲストBスピーカー・当事者から2-②
11	障害のある人への支援まとめ3-③（ミニテスト）
12	不適切ケア・虐待防止
13	家族支援・多職種連携
14	国家試験対策
15	試験・まとめ

テキスト・参考資料等	最新介護福祉士養成講座 14「障害の理解」（中央法規） *講義の進度により講義内容が変更になる場合がある
授業の形態等	講義・PowerPoint等を使用し教科書に沿って進める。グループワーク等も取り入れる
学生に対する評価	出欠10%参加状況・レポート20%・試験70%・総合評価

授業科目名	発達と老化	時間数(単位数) 30時間	担当者 氏名	中村 淳子☆ 高橋 系一
授業の到達目標 およびテーマ	高齢者の心と身体の老化を理解し、高齢者に多い病気に対して的確な対応ができるようになる。人間関係、社会的側面、問題行動や障害についての支援方法を考える。			
授業の概要 (2コマ)	人間の成長と発達・老化に伴う心と身体の変化、高齢者の疾病と生活上の留意点を学習する。☆前期は1~3回(6コマ)高齢者の心理について生涯発達の視点から、考える。			

授 業 計 画

回数	講義等の内容
1	☆生涯発達の視点からみた高齢者の位置づけ 高齢者の身体・感覚的特徴～身体機能、感覚機能～
2	☆高齢者の記憶機能の特徴～加齢による記憶機能の変化～ 高齢者の知能・認知機能の特徴～知能の生涯発達、知恵の発達～
3	☆高齢者の人間関係～家族、対人関係～ 高齢期の心理的問題と心理的適応～サクセスフル・エイジング、死生観の発達～
4	高齢者に多い病気と日常の留意点①泌尿器疾患
5	高齢者に多い病気と日常の留意点②代謝疾患・膠原病
6	高齢者に多い病気と日常の留意点③循環器疾患
7	高齢者に多い病気と日常の留意点④感染症の理解と予防
8	試験・解説

テキスト・参考資料等	発達と老化の理解(中央法規) プリント
授業の形態等	講義・ビデオ視聴・演習☆
学生に対する評価	☆前期：レポート・出席(授業での積極的取組み) 後期：小テスト・最終試験・提出物による総合評価

授業科目名	こころとからだのしくみ	時間数（単位数） 60時間	担当者 氏名	高橋 系一
授業の到達目標 およびテーマ	こころとからだのしくみと働きを理解し、介護サービス提供時に機能の低下、障害に対して具体的な対応ができる知識を身につける。			
授業の概要 2コマ	介護の根拠となる人間のこころとからだのしくみを理解し、機能低下・障害が及ぼす影響について学習する。			

授 業 計 画

回数	講義等の内容
1	こころとからだのしくみの理解 臓器・細胞・組織
2	〃
3	筋組織・神経組織・骨の役割
4	骨格・筋
5	食欲のしくみ
6	消化器のしくみと病気
7	肝臓・胆のう
8	呼吸のしくみ
9	泌尿器系のしくみ
10	循環器系のしくみ
11	内分泌系のしくみ
12	感覚器系のしくみ
13	癌について
14	悪性胸膜中皮腫・肺結核・肺炎
15	試験・解説

テキスト・参考資料等	こころとからだのしくみ（中央法規）プリント
授業の形態等	講義・ビデオ視聴
学生に対する評価	小テスト・最終試験・レポート提出、出席率による総合評価

授業科目名	医療的ケア (基本研修)	時間数(単位数) 60時間	担当者 氏名	糸沢克枝
授業の到達目標 およびテーマ	医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施できるよう必要な知識・技術を修得する。①個人の尊厳と自立について理解でき利用者や家族の気持ちを考え医療的ケアの実践ができる。②感染予防、安全管理体制等について基礎的知識を身につけ喀痰吸引、経管栄養について理解する。			
授業の概要	「個人の尊厳と自立」「医の倫理と介護の倫理」を理解したうえで喀痰吸引、経管栄養が医療職との連携のうえで成り立っていることを学ぶ。			

授 業 計 画

回数	講義等の内容
1	人間と社会(1.5H)・保健医療制度とチーム医療(1.5H)
2	保健医療制度とチーム医療(0.5H) 安全な療養生活(2.5H)
3	感染予防と清潔保持(2.0) 健康状態の把握(1.0H)
4	健康状態の把握(2.0H) 医療職との連携(1.0H)
5～7	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論(9H)
8～9	口腔内、鼻腔内吸引の手順と実施(6H)
10～11	気管カニューレ吸引の手順と実施(6H)
12～14	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論(9H)
15～16	経管栄養「経鼻」の手順と実施(6H)
17	経管栄養「胃瘻」の手順と実施(3H)
18	演習：「痰の吸引」(口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内部)(4H) グループ毎
19	「経管栄養」(胃瘻または腸瘻、経鼻)(4H)
	各自5回行い 具体的な留意事項をチェックする。
20	「救急蘇生法」(2H) 各自1回行い //

テキスト・参考資料等	最新介護福祉全書13 医療的ケア(中央法規)
授業の形態等	講義・演習
学生に対する評価等	授業態度と試験による総合評価

令和5年度 後期

シ ラ バ ス

道灌山学園保育福祉専門学校

介護福祉士専攻科

令和5年度（後期）

シラバス

介護福祉士専攻科

授業科目名	介護の基本Ⅱ (自立に向けた介護)	時間数(単位数) 30時間	担当者 氏名	遠藤 敏 小島 肇
授業の到達目標 およびテーマ	リハビリテーションの概念を知り、介護の基本を身につける			
授業の概要	リハビリテーションの概要が言える リハビリテーションの基本的な介助が出来る			

授 業 計 画

回数	講義等の内容
1	リハビリテーション概論
2	ICFの概念
3	自立に向けた介護方法
4	個別ケアの内容
5	リハビリテーションの考え方
6	理学療法の基礎
7	移乗・移動の方法
8	疾患別のリハビリテーション
9	疾患別のリハビリテーション(事例)
10	施設の介護
11	在宅の介護
12	リハビリテーションと福祉機器
13	リハビリテーション専門職との連携
14	高齢者への介護予防
15	まとめ・試験

テキスト・参考資料等	介護の基本Ⅰ(中央法規)、
授業の形態等	講義・実技
学生に対する評価等	試験90%、課題10%

授業科目名	介護の基本Ⅳ (介護サービス)	時間数(単位数) 30時間	担当者 氏名	宮本 直子
授業の到達目標 およびテーマ	介護サービスの概要を理解し、サービス提供の場、他職種との連携を学ぶとともに、自立支援に基づいたケアプランが理解できる。			
授業の概要	① 介護保険、障害者総合支援法の内容について理解し、サービス現場の特性を学ぶ。② ケアマネジメントの流れを事例とともに学び、ケアプランを作成する。			

授 業 計 画

回数	講義等の内容
1	介護保険、介護予防・日常生活支援総合事業の仕組み、流れについて
2	介護サービスの種類①在宅②施設③地域密着型
3	他の福祉職の機能と役割、地域ケアシステムについて
4	サービスの報酬、算定基準について
5	障害者総合支援法のしくみ、流れについて
6	他職種連携の意義と目的
7	ケアマネジメントの流れ、ケアプラン作成の目的
8	アセスメント・ニーズの導きについて
9	ケアプラン作成演習 ①脳血管疾患（在宅）
10	〃
11	ケアプラン作成演習 ②認知症（施設）
12	〃
13	ケアプラン作成演習 ③様々な問題を抱えている事例
14	〃
15	試験・まとめ

テキスト・参考資料等	介護の基本Ⅱ（中央法規）プリント
授業の形態等	講義、グループディスカッション、ロールプレイ、DVD視聴
学生に対する評価等	試験、出席状況、授業参加、態度による総合評価

令和5年度（後期）

シラバス

介護福祉士専攻科

授業科目名	介護の基本Ⅴ（介護 従事者の倫理・安全管理）	時間数(単位数) 60時間	担当者 氏名	糸沢克枝 池田えり子
授業の到達目標 およびテーマ	介護の専門性と倫理、対人援助の方法と技術を理解する。また、介護における安全確保とリスクマネジメントおよび介護従事者の安全概念を理解し、個別事例に即した対応ができる。			
授業の概要 (2コマ連続)	専門職としての倫理観を持ち、安全で快適な生活を支援するために必要なことは何か、実習の体験をもとに、意見交換、ロールプレイをしながら学ぶ。			

授 業 計 画

回数	講義等の内容
1	介護における安全の意義・介護領域におけるリスクマネジメント
2	ヒヤリハットGW 在宅および施設における安全対策
3	介護従事者の健康と安全 腰痛予防：リフトの使い方
4	感染症の予防と管理
5	Ⅱ段階の実習から考えるヒヤリハット集 労働安全対策・試験
6	介護における専門職能団体の活動について理解
7	自己覚知（自分自身を知る）
8	介護実践における連携① 多職種連携
9	介護実践における連携② 地域連携
10	介護の専門性と倫理
11	人間の尊厳（具体的なケアを考える）
12	施設・在宅実習を振り返り、個別ケアとは何かを考える
13	ロールプレイをしよう①グループ分け・内容・台本作り
14	ロールプレイをしよう②準備
15	ロールプレイをしよう③発表
テキスト・参考資料等	介護の基本Ⅱ・Ⅱ（中央法規）プリント
授業の形態等	講義・演習
学生に対する評価等	試験、演習発表等授業参加態度による総合評価

授業科目名	生活支援技術Ⅴ 自立に向けた家事の介護	時間数(単位数)	担当者	
		30時間	氏名	吉川 美加
授業の到達目標 およびテーマ	介護福祉士として日常生活に必要な家事に関する知識と技術を学び、個別性を尊重した実践的能力を高める。			
授業の概要	利用者の必要に応じた家事援助について個別に対応できるよう、基礎となる技術を幅広く習得していく。			

授業計画

回数	講義等の内容
1	家事支援：自立生活を支える意義と目的
2	食を支える介護～献立作り・ともに行う買い物
3	調理の介護
4	家事支援：アセスメントの視点の意義と目的・「裁縫」の支援 衣類の補修
5	簡単安楽グッズ作成
6	家庭生活の理解
7	家庭生活の営み
8	ともに行う介護（施設・在宅）
9	「衣類・寝具の衛生管理～洗濯」
10	「衣類・寝具の衛生管理～収納」
11	環境を整える生活支援「掃除」
12	訪問介護における生活援助
13	「多職種の役割と協働」①
14	「多職種の役割と協働」② 地域包括支援センターとの介護予防
15	まとめ・試験
テキスト・参考資料等	生活支援技術Ⅰ(中央法規)
授業の形態等	講義・演習
学生に対する評価	出席・授業態度・テストによる総合評価

授業科目名	生活支援技術Ⅶ 人生の最終段階における 介護	時間数（単位数） 30時間	担当者 氏名	吉河 幸子
授業の到達目標 およびテーマ	利用者の尊厳を保持しながらQOLを高める 人生の最終段階における介護を理解する。			
授業の概要 （1～7は2コマ）	グリーフケアについて理解する。個々の死生観を深める。体験・書物・視覚教材を通して死生観を深めレポート表現する。講義を通して人生の最終段階にある利用者の身体的・精神的変化と介護について、グリーフケアについて学習する			

授 業 計 画

回数	講義等の内容
1	喪失体験 終末期（ターミナル期）と人生の最終段階における言葉の違い。 リビングウィル・尊厳死・緩和ケア・インフォームドコンセントとは
2	DVD視聴（予定）「在宅ホスピス医 川越厚」 「さよなら」なき別れ コロナによる死 遺族のいま 透明なゆりかご「7日間の命」
3	人生の最終段階から危篤時までの身体的・精神的変化と介護
4	危篤時から死までの身体的変化と介護 死後の身体的変化・エンジェルケア
5	グリーフケアについて
6	レポート作成「死生観～生に焦点を当てて～」
7	事例展開 グループワーク
8	テスト

テキスト・参考資料等	生活支援技術Ⅱ(中央法規)・柏木哲夫著「死にざまこそ人生」2011 朝日新聞出版 おはよう 21
授業の形態等	講義・DVD視聴・演習・研修会参加
学生に対する評価等	テスト・レポート・授業態度・出欠

令和5年度（後期）

シラバス

介護福祉士専攻科

授業科目名	生活支援技術Ⅷ (緊急時の対応・総合演習)	時間数(単位数) 30時間	担当者 氏名	糸沢 克枝 池田えり子
授業の到達目標 およびテーマ	緊急時の状況・状態の把握とその対応ができる。 家族・医療機関への連絡・連携を知り、実践できる。			
授業の概要 (2コマ連続)	緊急時あわてずに対応でき、医療機関や家族への連絡方法がわかり、対応できるようにする。			

授 業 計 画

回数	講義等の内容
1	緊急時の状況把握と対応(医療上の対応、外来受診時の介護)
2	服薬の介護
3	障害をもった人の介護・医療関係者への連絡、連携 (吸引・酸素吸入の取り扱い方)
4	小テスト・介護技術の確認
5	介護技術チェック(実技試験)(3コマ)
6	荒川消防署による救命救急講座(4コマ)

テキスト・参考資料等	生活支援技術Ⅰ～Ⅲ(中央法規)・配布資料
授業の形態等	講義・演習
学生に対する評価等	出席・授業態度・小テスト・実技試験の総合評価

令和5年度（後期）

シラバス

介護福祉士専攻科

授業科目名	介護過程Ⅱ	時間数(単位数) 60時間	担当者 氏名	吉川 美加
授業の到達目標 およびテーマ	利用者が生活する環境を考慮し、最善の支援ができるよう利用者の心身の状況に応じた介護過程を多職種連携、チームとして展開できるようになる。			
授業の概要 (2コマ連続)	実習Ⅱ段階に向け、要介護者、家族、介護者の情報提供を受けて、それぞれの立場の理解を深める。また個別ケアが根拠のある介護実践として行えるよう、アセスメント、介護計画の立案、実施、評価の流れを理解していく。			

授業計画

回数	講義等の内容
1	高齢者福祉の実際：アクティブ福祉 in 東京 見学参加
2	〃
3	自立支援の工夫（環境整備）：国際福祉機器展見学
4	〃 環境整備まとめ
5	高齢者の環境～地域理解①・②
6	難病の理解①当事者の思い 文字盤によるコミュニケーション
7	個別介護計画：情報収集の仕方・アセスメント
8	施設訪問学習① 利用者理解・情報収集
9	個別介護計画：立案
10	施設訪問学習② 利用者理解・情報収集
11	難病の理解②ケアの社会学～自立生活が映し出す2つの社会
12	個別介護計画：実施～評価
13	個別介護計画：事例検討①
14	介護における多職種の役割と連携（チームアプローチの重要性）
15	個別介護計画まとめ・試験

テキスト・参考資料等	介護過程（中央法規） プリント
授業の形態等	講義・演習・ビデオ視聴・グループワーク
学生に対する評価等	試験・授業参加態度・レポート等を総合して評価

授業科目名	介護過程Ⅲ	時間数(単位数) 30時間	担当者 氏名	糸沢 克枝 池田えり子 吉川 美加
授業の到達目標 およびテーマ	介護実習中に実践された個別援助計画を整理し、事例研究として結実させる。介護過程を通して、専門職として介護観を持てるようになる。			
授業の概要 (2コマ連続)	実習Ⅱ段階で行った個別援助を振り返り、文献を参考に事例研究としてまとめ、発表会において他者の実践を共有化する。			

授 業 計 画

回数	講義等の内容
1～2	事例研究の意義と方法・第Ⅱ段階実習先別個別指導・テーマ検討（1コマ）
2	文献検索
3	原稿作成
4	原稿作成・個別指導
5	原稿校正
6	事例研究発表会準備（原稿完成・抄録作成・発表練習）
7	事例研究発表会・まとめ(3コマ)

テキスト・参考資料等	他科目のテキスト全般・配布資料・テーマに関わる文献
授業の形態等	講義・演習
学生に対する評価等	研究成果（発表原稿・発表態度）

授業科目名	実習施設Ⅱ 2段階	時間数(単位数) 120時間	担当者 氏名	池田えり子・糸沢克枝 吉川美加
授業の到達目標 およびテーマ	利用者の個々の生活リズムを把握し、介護過程（計画、実施、評価、修正）を展開する。今まで学習した知識、技術を統合して具体的な介護サービスの基本となる実践力を身につける。			
授業の概要	1段階と同じ実習施設に分かれて15日間実習を行う。 早番・遅番・夜勤・デイサービスを経験し、利用者の生活リズムを把握、受け持ち利用者を一人決めて、個別介護計画を立て、実施してくる。			

授 業 計 画

講 義 等 の 内 容	
指定介護老人福祉施設 指定介護老人保健施設 にて実施 <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の個別理解をふかめ、介護計画を立案、実施、評価する過程を学ぶ。 ・チームの一員として介護福祉士の専門性を理解する。 ・介護について研究的態度を養う。 	

テキスト・参考資料等	他科目のテキスト全般・配布資料
授業の形態等	実習
学生に対する評価等	実習期間の出席状況、施設側と担当教員の総合評価

授業科目名	実習施設 I (訪問介護)	時間数(単位数) 10時間	担当者 氏名	池田えり子・吉川美加
授業の到達目標 およびテーマ	訪問介護に関わり、在宅における介護サービスの実際を知る。			
授業の概要	訪問介護事業所にて2日間実習を行う。			

授 業 計 画

講 義 等 の 内 容
訪問介護事業所（高齢者・障害者・小規模多機能）にて実施 <ul style="list-style-type: none">・在宅利用者の生活の状況にそった、生活援助の方法を学ぶ。・身体介護・相談助言について、方法を学ぶ。・実習を通して、在宅介護に必要な職業倫理について学ぶ。

テキスト・参考資料等	他科目のテキスト全般・配布資料
授業の形態等	実習
学生に対する評価等	実習期間の出席状況、施設側と担当教員の総合評価

令和5年度（後期）

シラバス

介護福祉士専攻科

授業科目名	認知症の理解 I (認知症の基礎知識)	時間数(単位数) 30時間	担当者 氏名	高橋 系一
授業の到達目標 およびテーマ	認知症の種類・症状を理解し、関わりのある利用者の具体的な対応策につな げられる。			
授業の概要 (2コマ連続)	認知症をきたす疾患、認知機能障害に伴って出現する症状、検査、治療、予 防について、講義、視聴覚教材で理解を深める。			

授 業 計 画

回 数	講 義 等 の 内 容
1	神経系構造とはたらき①
2	神経系構造とはたらき②
3	神経系構造とはたらき③
4	認知症の基礎知識
5	脳血管障害 脳梗塞・脳出血・くも膜下出血
6	パーキンソン病
7	アルツハイマー病・レビー小体・ピック病
8	試験・解説

テキスト・参考資料等	認知症の理解(中央法規)・プリント
授業の形態等	講義・ビデオ視聴
学生に対する評価	小テスト・最終試験・提出物による総合評価

令和5年度（後期）

シラバス

介護福祉士専攻科

授業科目名	認知症の理解Ⅱ (日常生活の介護)	時間数(単位数) 30時間	担当者 氏名	鈴木多美子 他
授業の到達目標 およびテーマ	認知症の特有の症状ををもつ人を理解する。 認知症の人に対する適切なケアの実践、知識を修得する。			
授業の概要	認知症の人の心理・身体的変化を理解し(DVD視聴)、個別性のある介護の実践としてパーソンセンタードケアを中心としたケアとタクティールケアを行う			

授 業 計 画

回数	講義等の内容
1	認知症の基礎的理解 認知症を取り巻く状況(認知症ケアの歴史・理念・社会環境)
2	認知症の早期診断と治療
3	認知症のリハビリテーション
4	認知症の支援～ケアの手がかりと周辺症状
5	人権の擁護と施設のリスク管理
6	認知症ケアの理念と視点、介護の基本
7	パーソンセンタードケアの基本・コミュニケーションのあり方
8	認知症の人へさまざまなアプローチ・ユマニチュード
9	〃
10	〃
11	認知症の人と家族のケア
12	認知症の人と地域社会のかかわり
13	タクティールケア
14	〃
15	認知症介護の実際・まとめ
テキスト・参考資料等	認知症の理解(中央法規)資料
授業の形態等	講義・事例討議・DVD視聴
学生に対する評価	出欠・授業態度

令和5年度（後期）

シラバス

介護福祉士専攻科

授業科目名	生活支援技術Ⅵ 自立に向けた睡眠の介護	時間数(単位数) 30時間	担当者 氏名	池田 えり子
授業の到達目標 およびテーマ	睡眠の重要性とリズム、高齢者の睡眠の特徴を理解する。個々に合った安楽な睡眠の援助ができる能力を身につける。			
授業の概要	睡眠の重要性、高齢者の特徴を理解し不眠の原因を考え、グループワークを行いながら安眠につながる介護を考える。			

授 業 計 画

回数	講義等の内容
1	睡眠の意義
2	自分の1日の活動を考える
3	高齢者の日中の活動について考える
4	高齢者の睡眠の特徴を理解する
5	自分の1週間の睡眠記録（個別性理解）
6	睡眠障害の原因の把握
7	安眠への工夫を考える（睡眠薬）
8	安眠を促す介助1 足浴・手浴・マッサージ
9	安眠を促す介助2 褥瘡・安楽
10	事例学習
11	安眠を促す介助3 調べ学習・発表
12	日中の活動を考える（グループでレク準備）
13	日中の活動を考える（グループでレク準備）
14	日中の活動発表
15	筆記試験

テキスト・参考資料等	生活支援技術Ⅱ（中央法規）
授業の形態等	講義・ビデオ視聴・実技演習を行う。
学生に対する評価等	出席状況・授業態度・提出物・試験等で総合評価する

